

14. 8-78



8

78

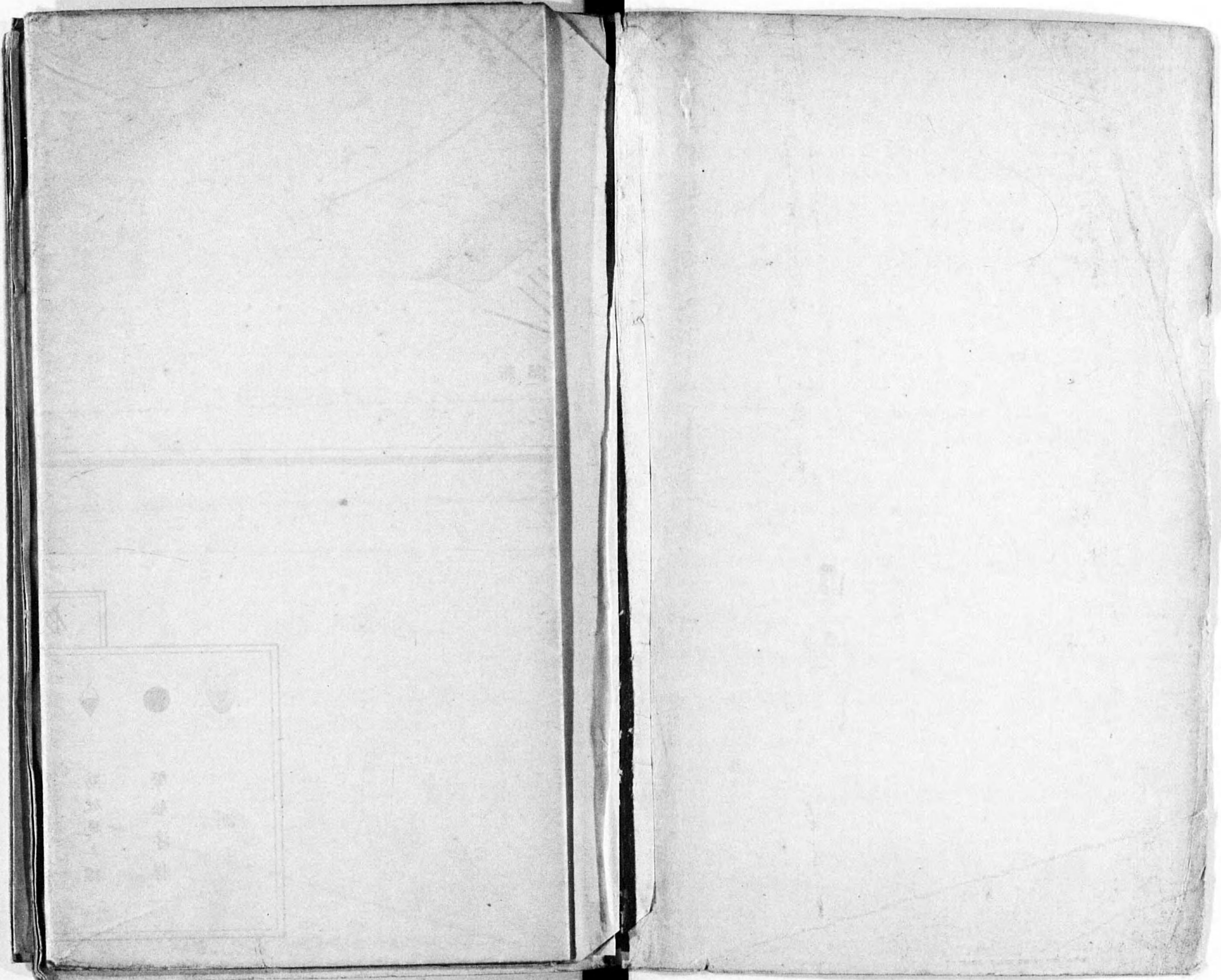
昭 和 二 年

# 新 潟 港 勢



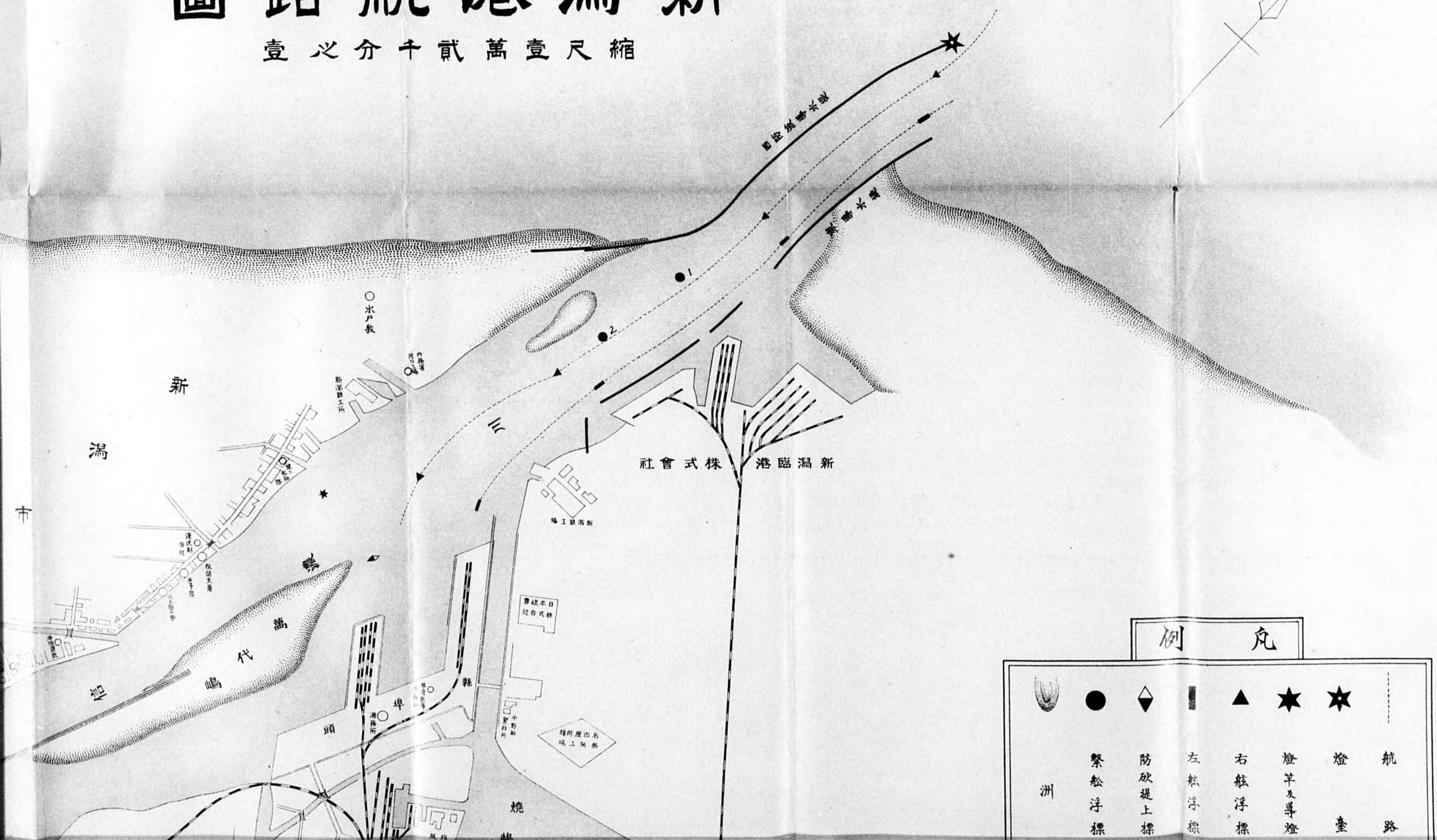
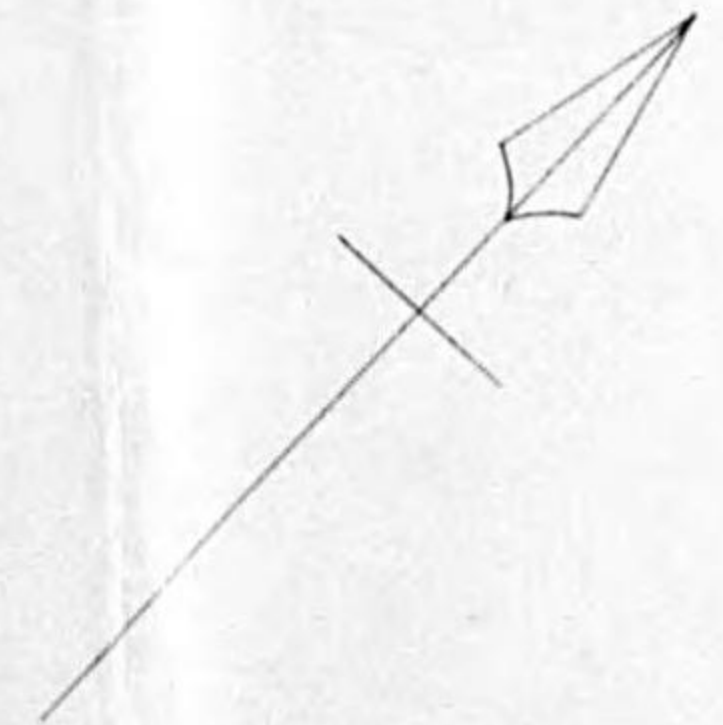
# 始





# 新 瀉 港 航 路 圖

縮 尺 壹 萬 貳 千 分 之 壹



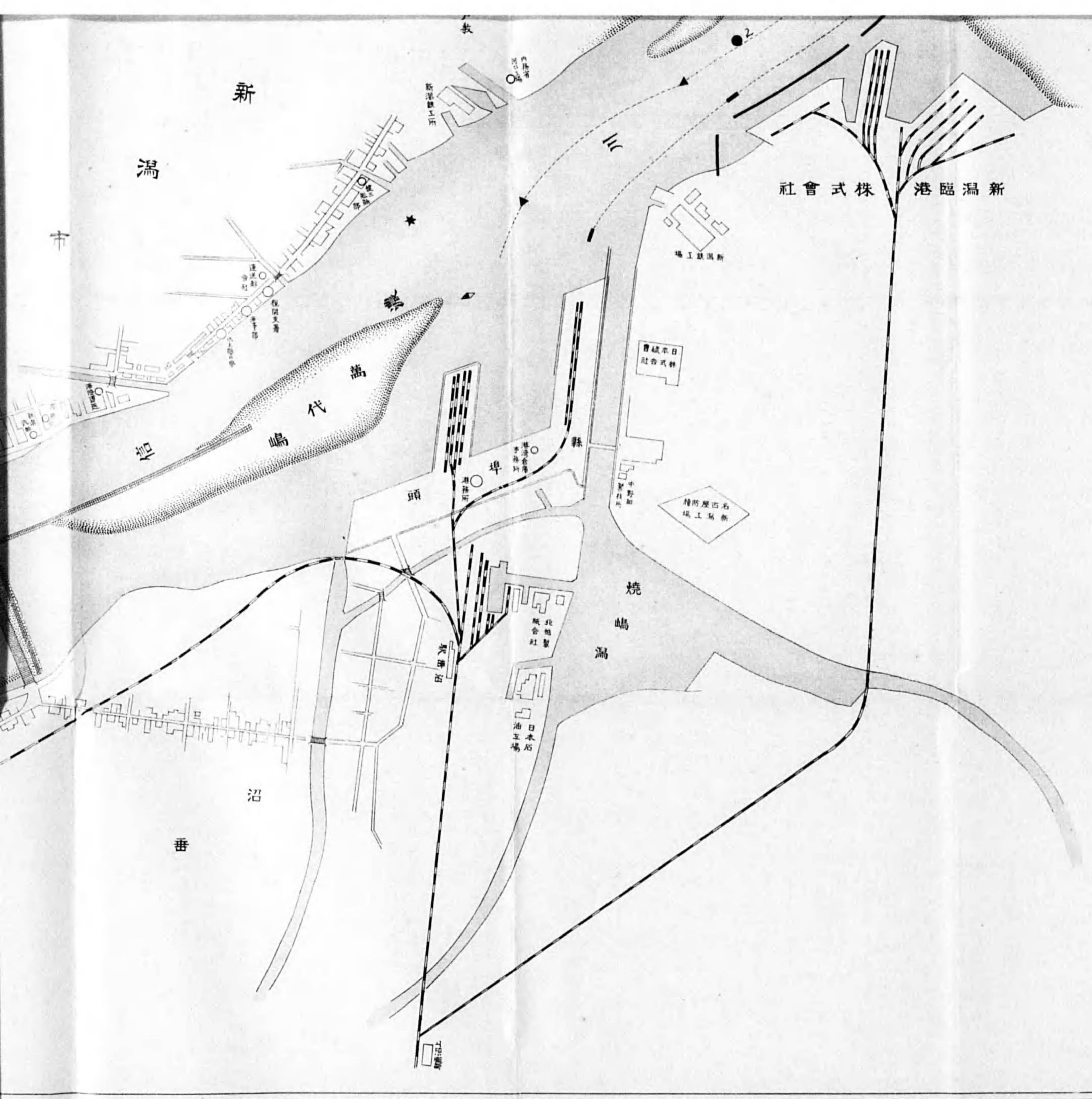
## 例 凡

洲	繫船浮標	防礙堤上標	左舷浮標	右舷浮標	燈竿及導燈	燈臺	航路


# 新瀨港航路圖

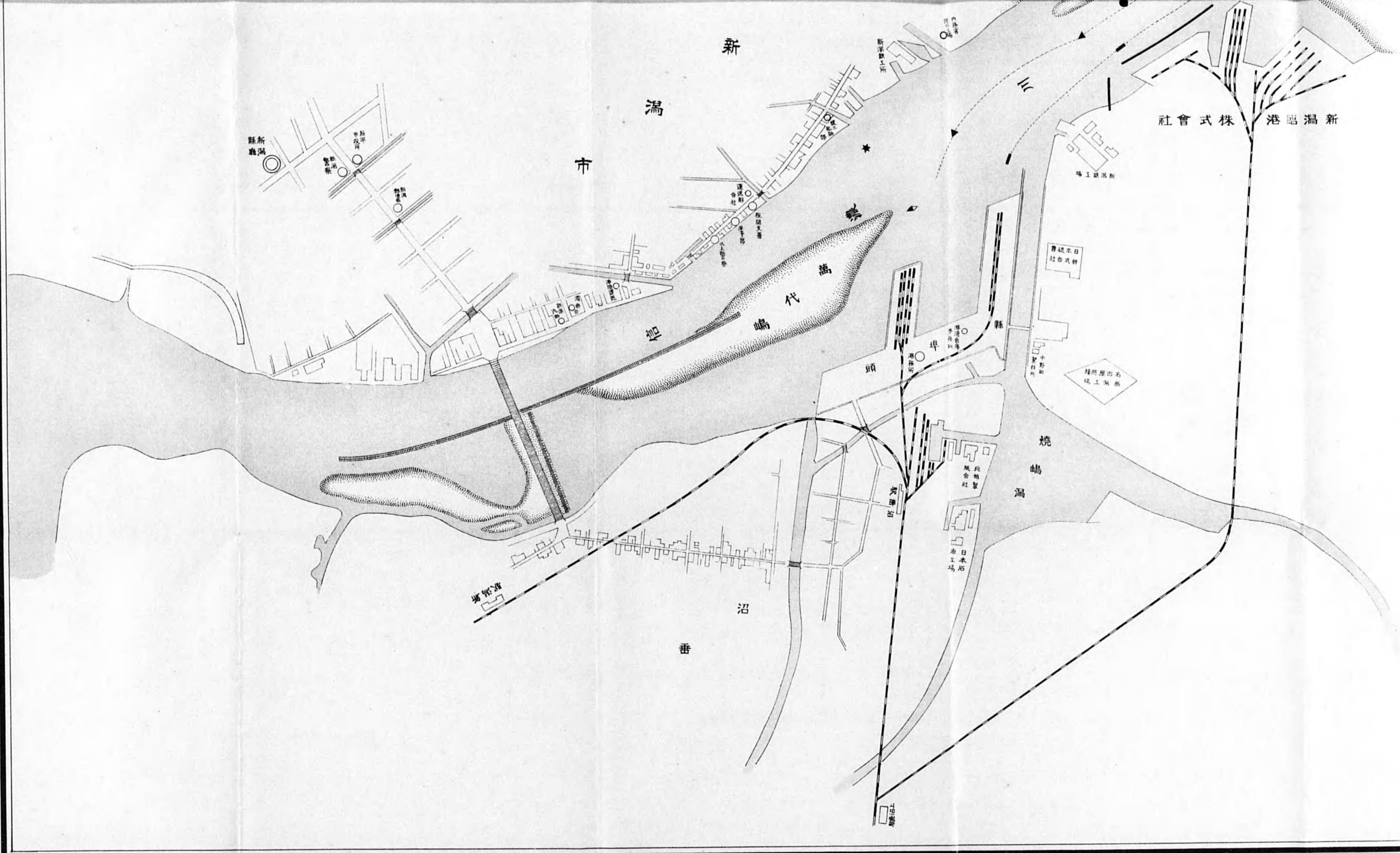
縮尺壹萬貳千分壹

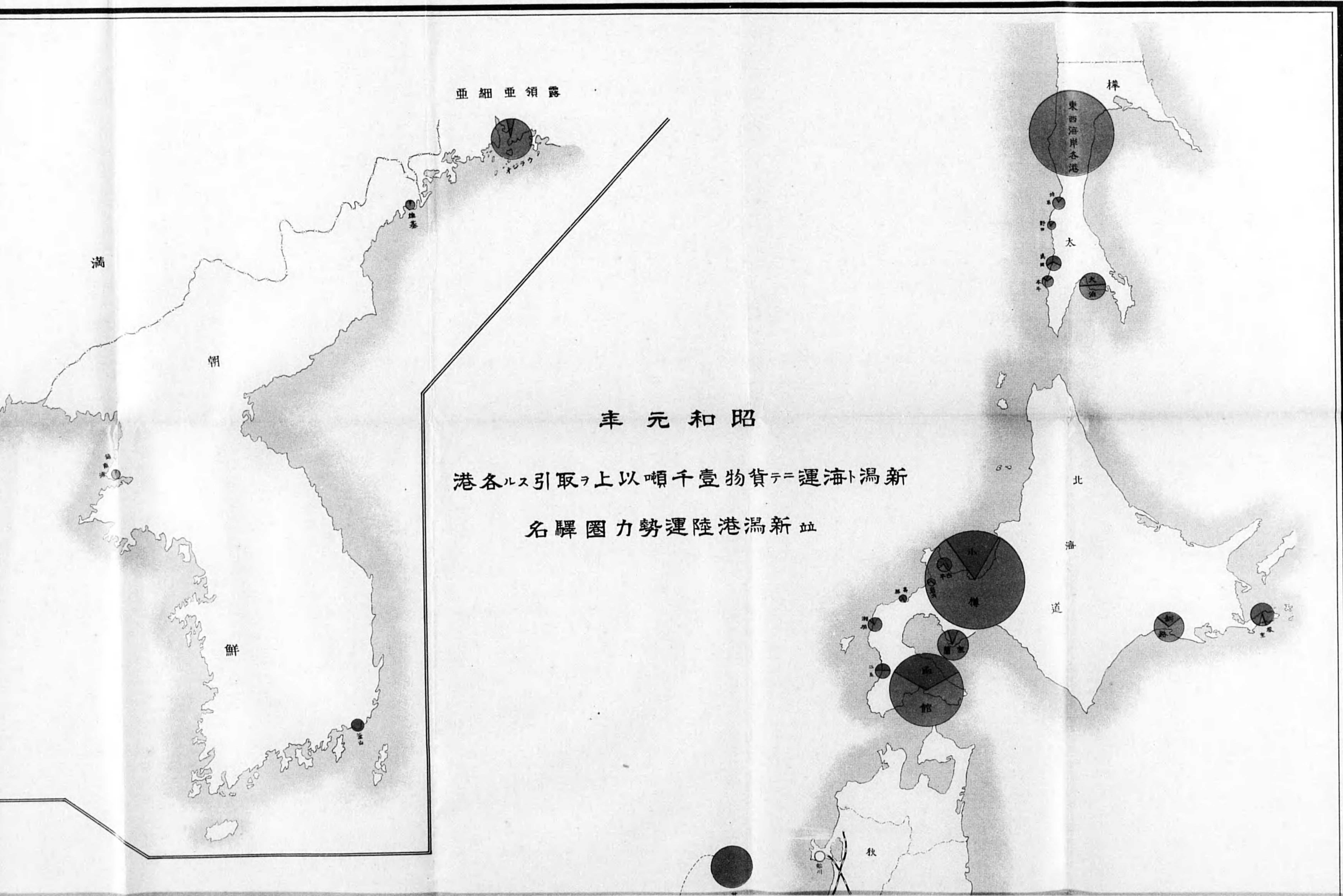




例 凡

							
洲	繫 松 浮 標	防 破 堤 上 標	左 舷 浮 標	右 舷 浮 標	燈 竿 及 導 燈	燈 臺	航 路





並領並細並

昭和元年の豊

港各ル引取ヲ上以噸千壹物貨テ運海ト潟新

名驛園力勢運陸港潟新並

滿

朝

鮮

樺

東西海岸各港

太

北

海

道

秋



露領並細並

昭和元年

新潟海運物貨一千噸以上ヲ引取ル各港

並新瀉港陸運力勢圏驛名

東西海岸各港

小樽

函館

新加

蘭室

釧路

大館

秋田

滿

朝

鮮

樺

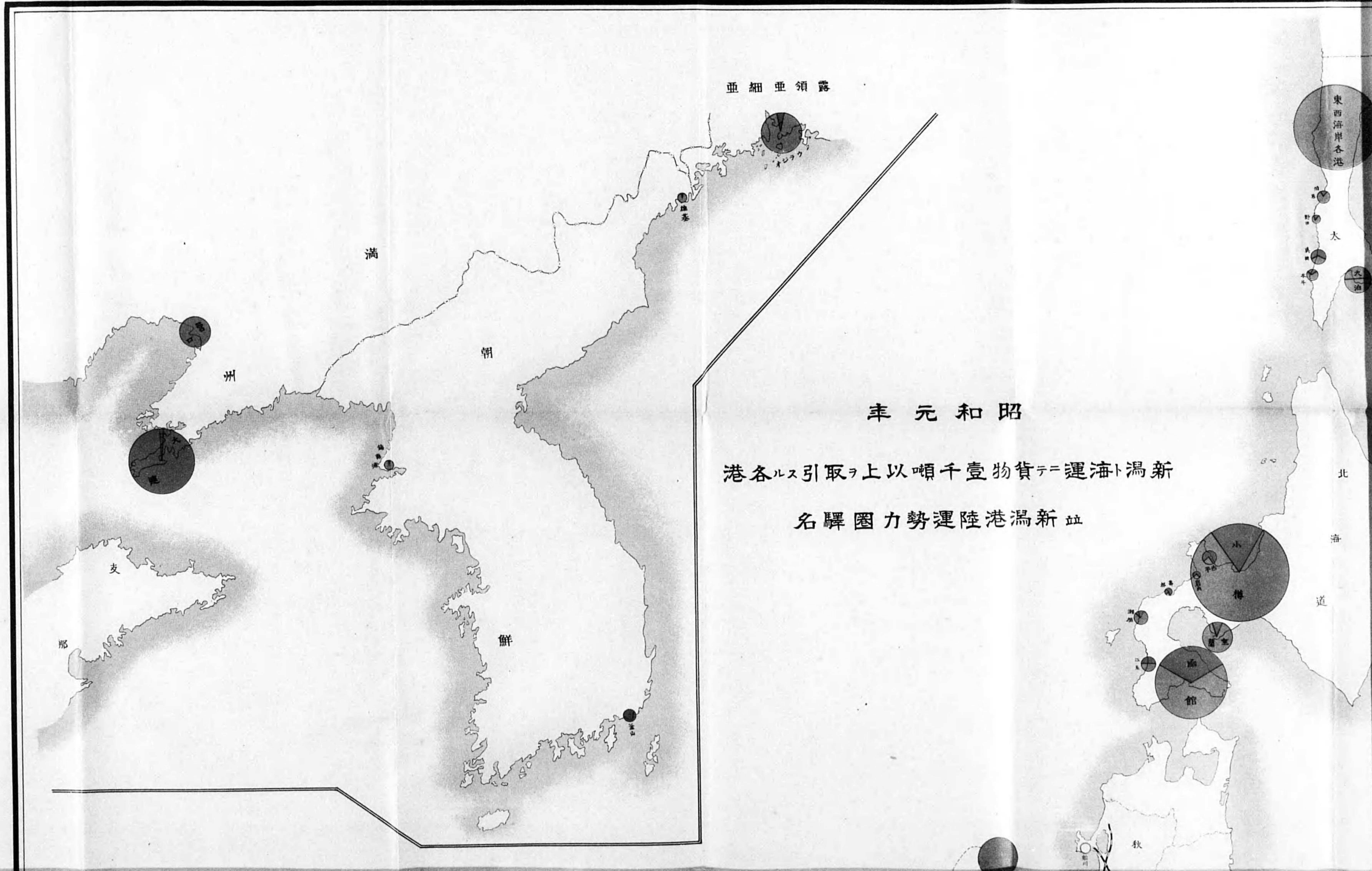
大

油

北

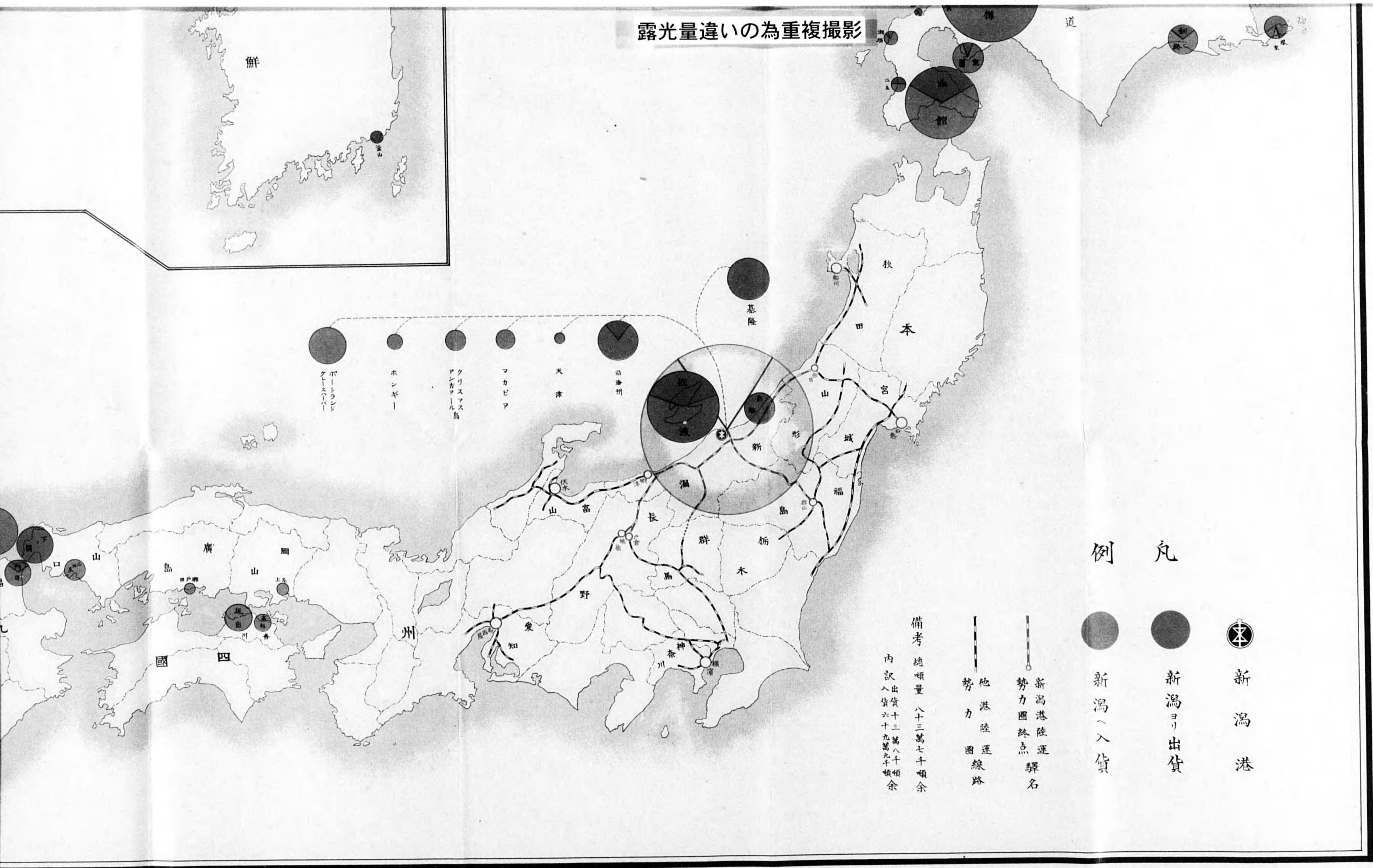
洋







露光量違いの為重複撮影



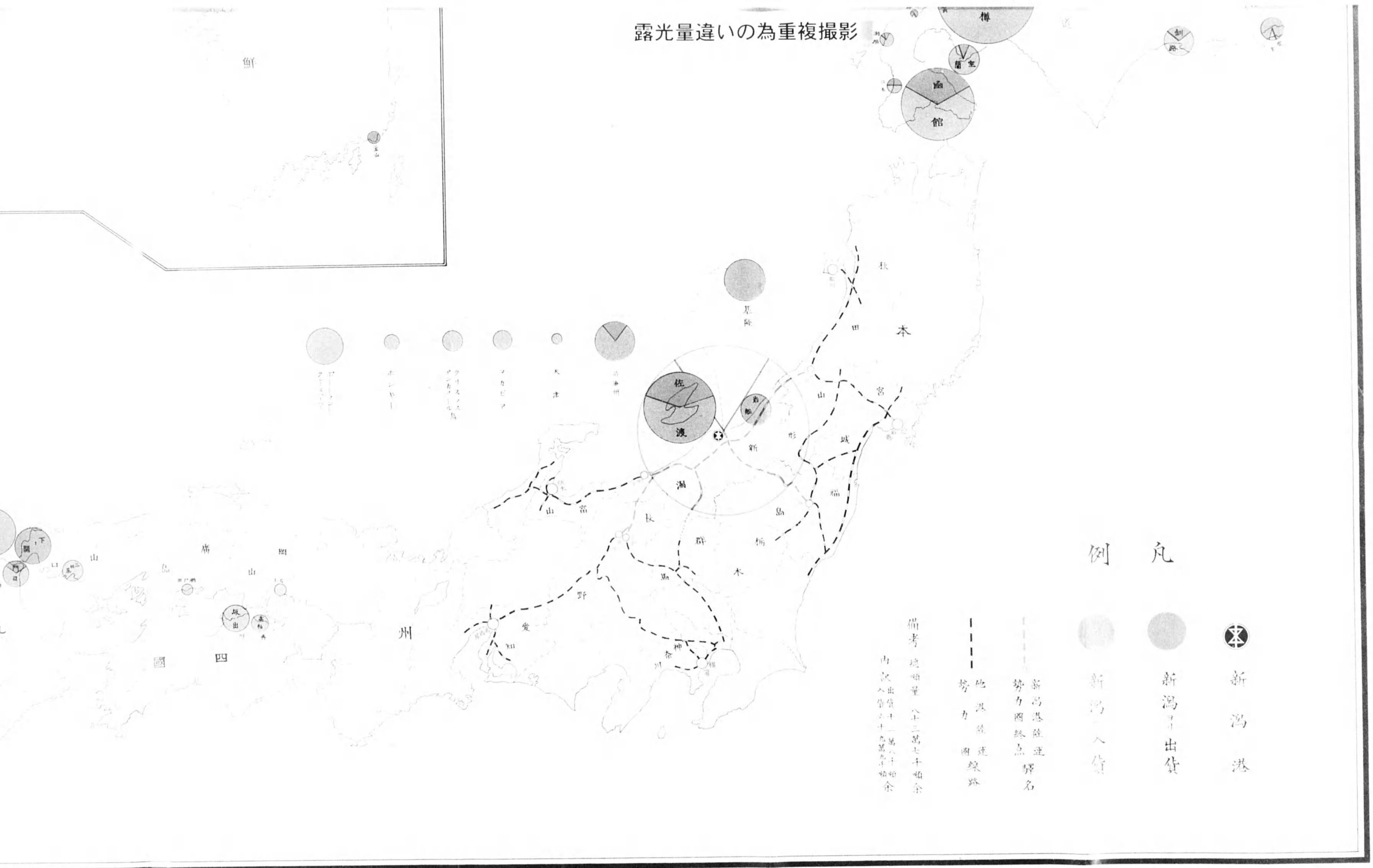
例 凡

新潟港  
 新潟ヨリ出貨  
 新潟へ入貨

新潟港陸運  
 勢力圏終点  
 他港陸運  
 勢力圏線路

備考 總噸量 八十三萬七千噸余  
 内 訖 出貨 十三萬八千噸余  
 入貨 六十九萬九千噸余

露光量違いの為重複撮影

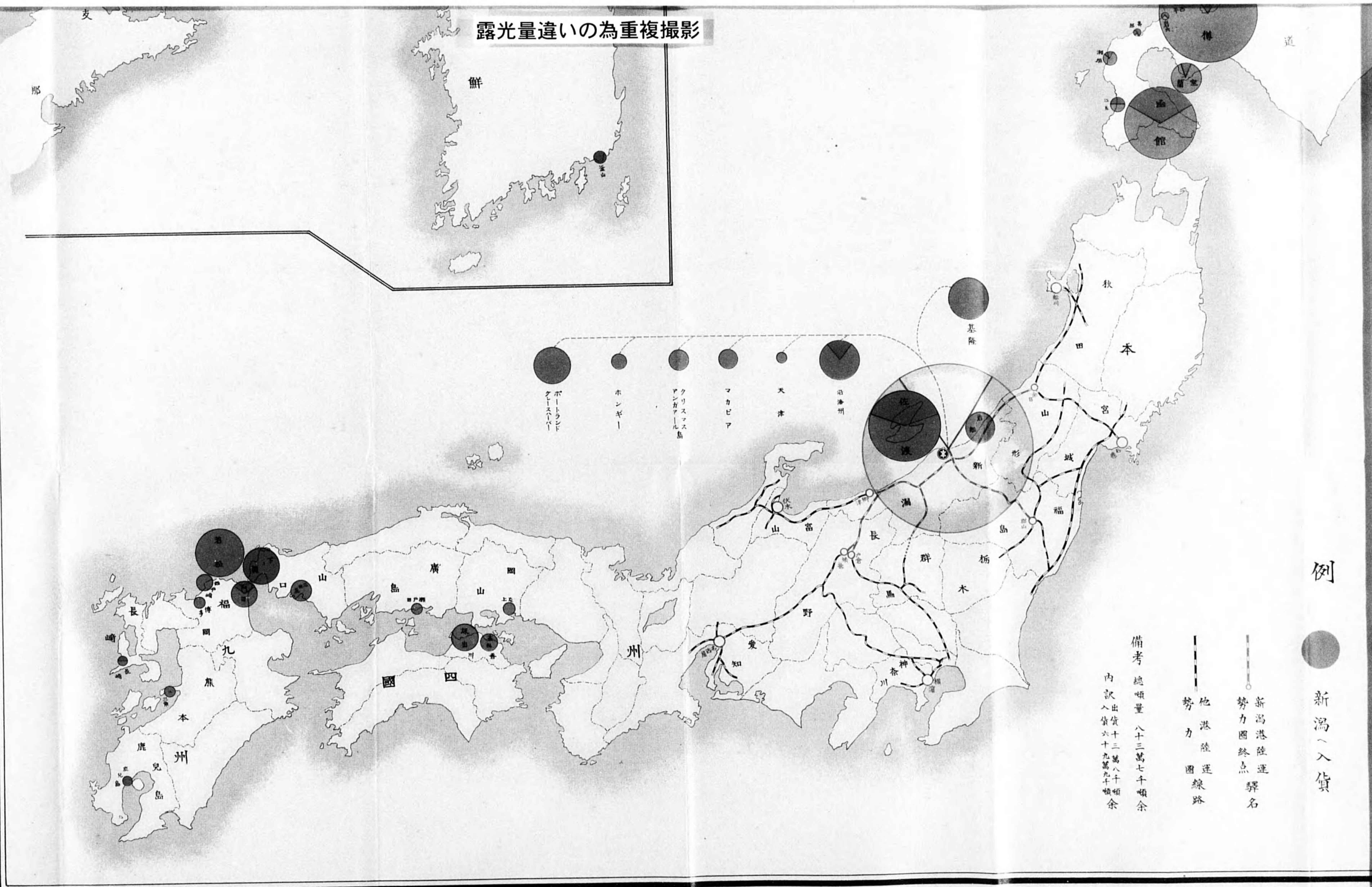


- 例 凡
- 新潟ヨリ出貨
  - 新潟ニ入貨
  - ⊗ 新潟港

備考 總噸量 八十三萬七千噸余  
 内 込 出 貨 十一萬八千噸余  
 内 込 入 貨 七十一萬九千噸余

—— 新潟港陸運 驛名  
 勢 力 圖 終 点  
 - - - 他 港 陸 運 勢 力 圖 終 点  
 - - - 勢 力 圖 終 点

露光量違いの為重複撮影

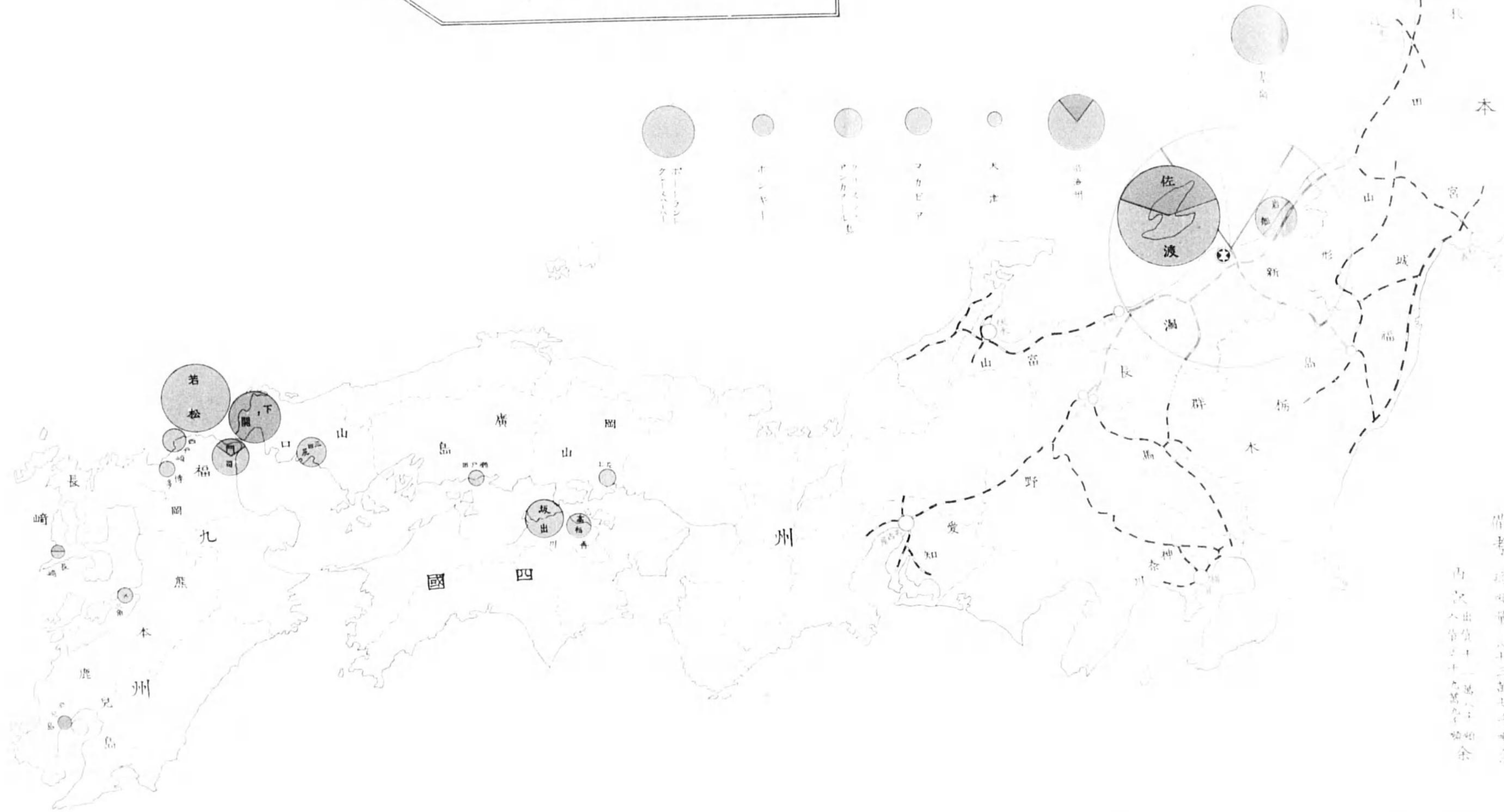
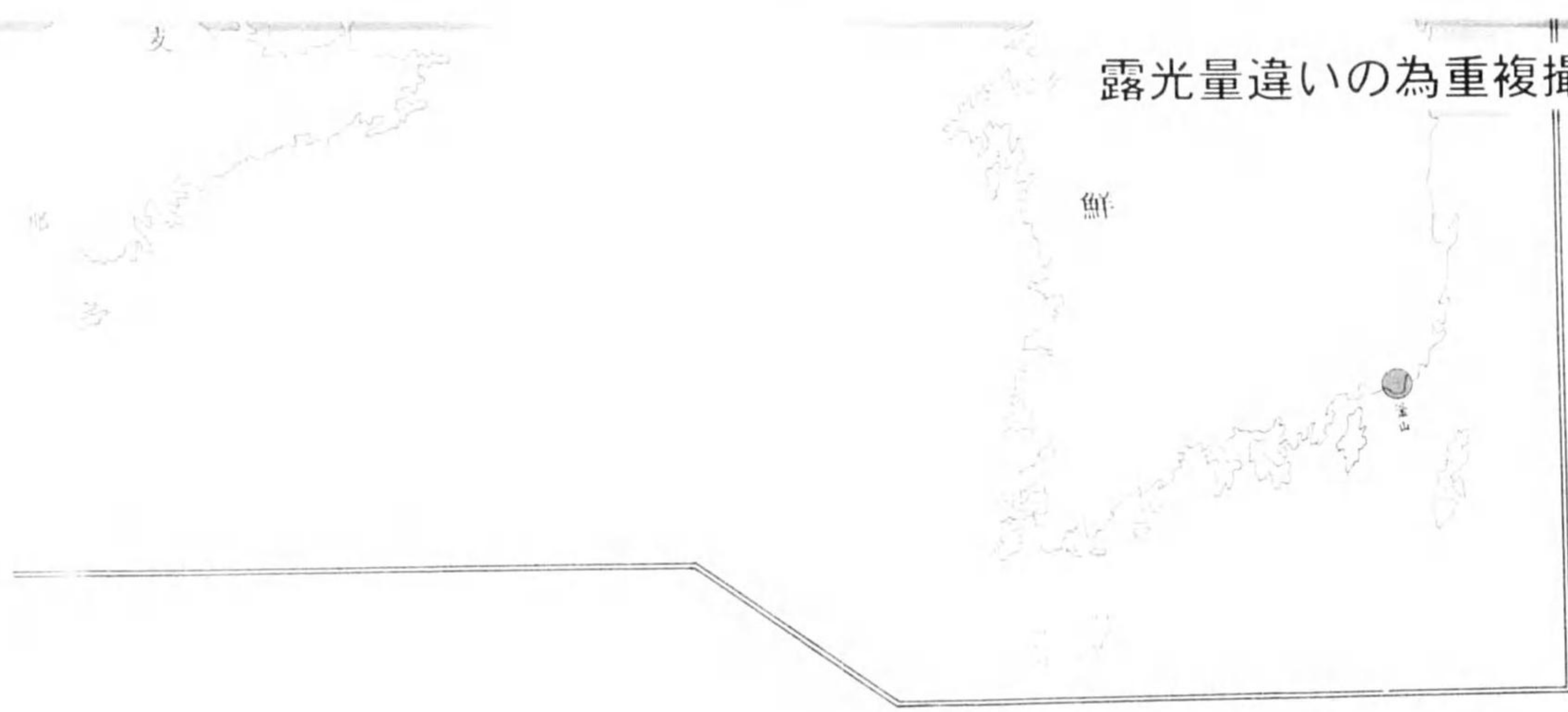


例

新潟へ入貨

備考 總噸量 八十三萬七千噸余  
 内 出貨 十三萬八千噸余  
 入貨 六十九萬九千噸余  
 新潟港陸運 驛名  
 勢力圏終点  
 他港陸運 線路

露光量違いの為重複撮影



備考 昭和四年 八十二萬七千七百餘  
内 次出賃十一萬八千七百餘  
勢 力 四 線 五 線 六 線 七 線 八 線 九 線

例  
新 潟 入 貨

# 緒言

本書は昨年中當所に於て調査せる港灣統計を主として叙述したるものである。而して正確且つ迅速を尊ぶ此の種統計なるを以て極めて短時日  
忽卒の間に編纂したれば蕪辭其の意を盡さざる所あらんも亦以て關係  
者の參考を乞ふ。

昭和二年二月

新潟港務所



# 新潟港勢目次

## 第一篇 新潟港

第一、新潟港の位置及港界	一
第二、潮位、潮流、氣象、風位、風速	一
第三、水深	三
第四、港灣の設備	七
第五、水戸	七
第六、新潟臨港株式會社埠頭	八

## 第二篇 新潟港の經濟的位置

第一、新潟港の經濟的位置	九
第二、新潟港の勢力範圍	九
新潟港より各地主要航路里程表	二

## 第三篇 新潟港の入港船舶



第一、船 舶

最近六ヶ年間に港船舶隻數並に噸數表	一五
昭和元年中入港汽船隻數並に噸數別表	一六
昭和元年中入港汽船繋船個所調査表	一八
新潟港廻航定期船並に定港航路船表	二〇
汽船尺度表	二四
登簿噸數表	二四

第四篇 新潟港の海運出入貨物の概況

一、海運出入貨物	二八
最近六ヶ年間に輸移出入貨物噸量並に價格表	二九
昭和元年中新潟港輸移出入貨物噸量並に價格月別表	三〇
二、外國諸港との關係	三二
昭和元年中本港對外國港灣輸出入貨物噸量並に價格表	三二
自大正元年 十五ヶ年間に於ける外國貿易調	三四
至同 十五年	三四
自大正元年 十五ヶ年間に新潟對浦鹽間輸出入貨物調	三六
至同 十五年	三六

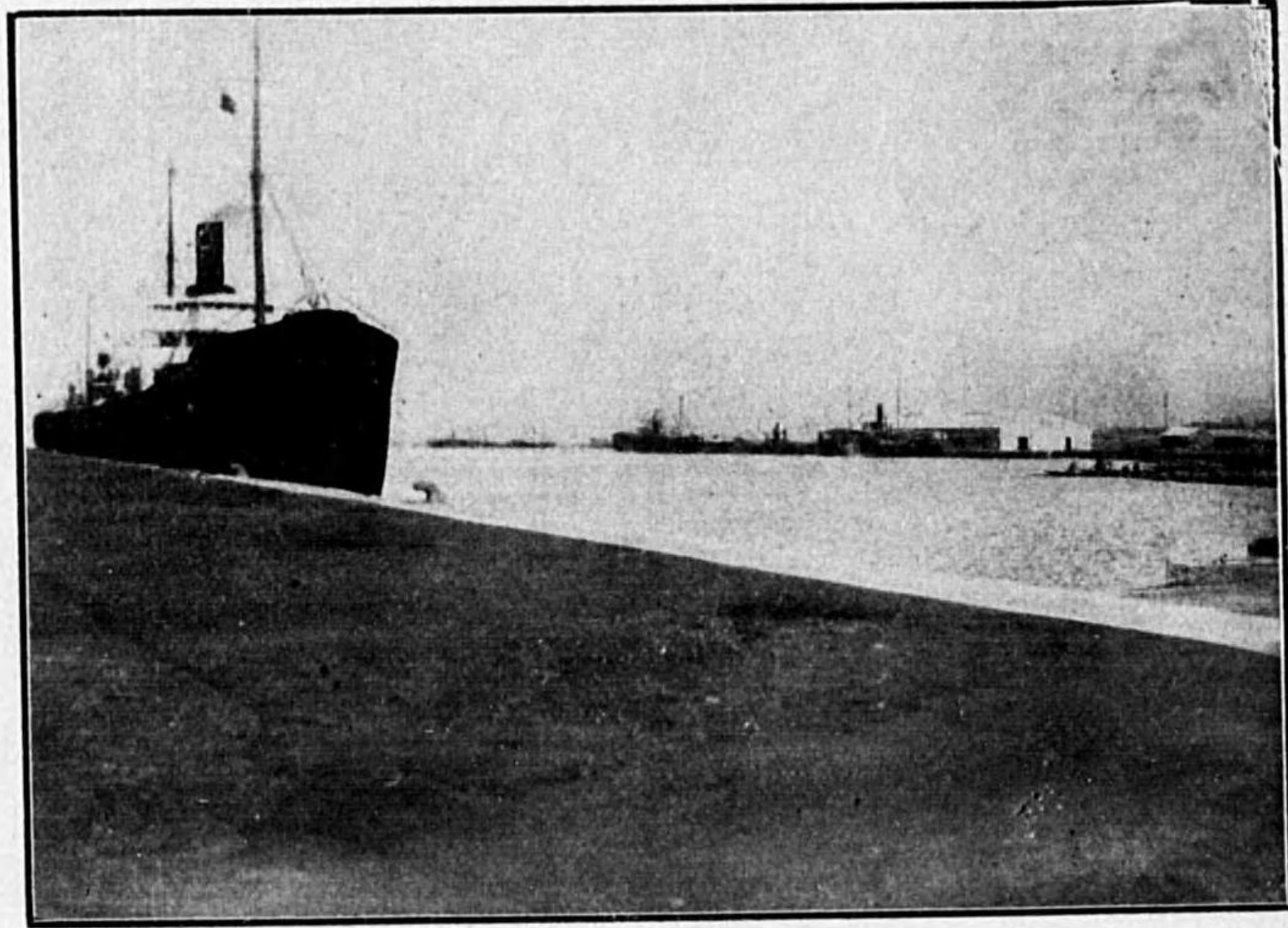
三、内地各港との關係

昭和元年中本港對内地各港間移出入貨物噸量並に價格表	三九
昭和元年中本港對各港間輸移出入貨物噸量並に品種別表	四一
昭和元年中本港對各港間輸移出入貨物噸量並に港別表	四五

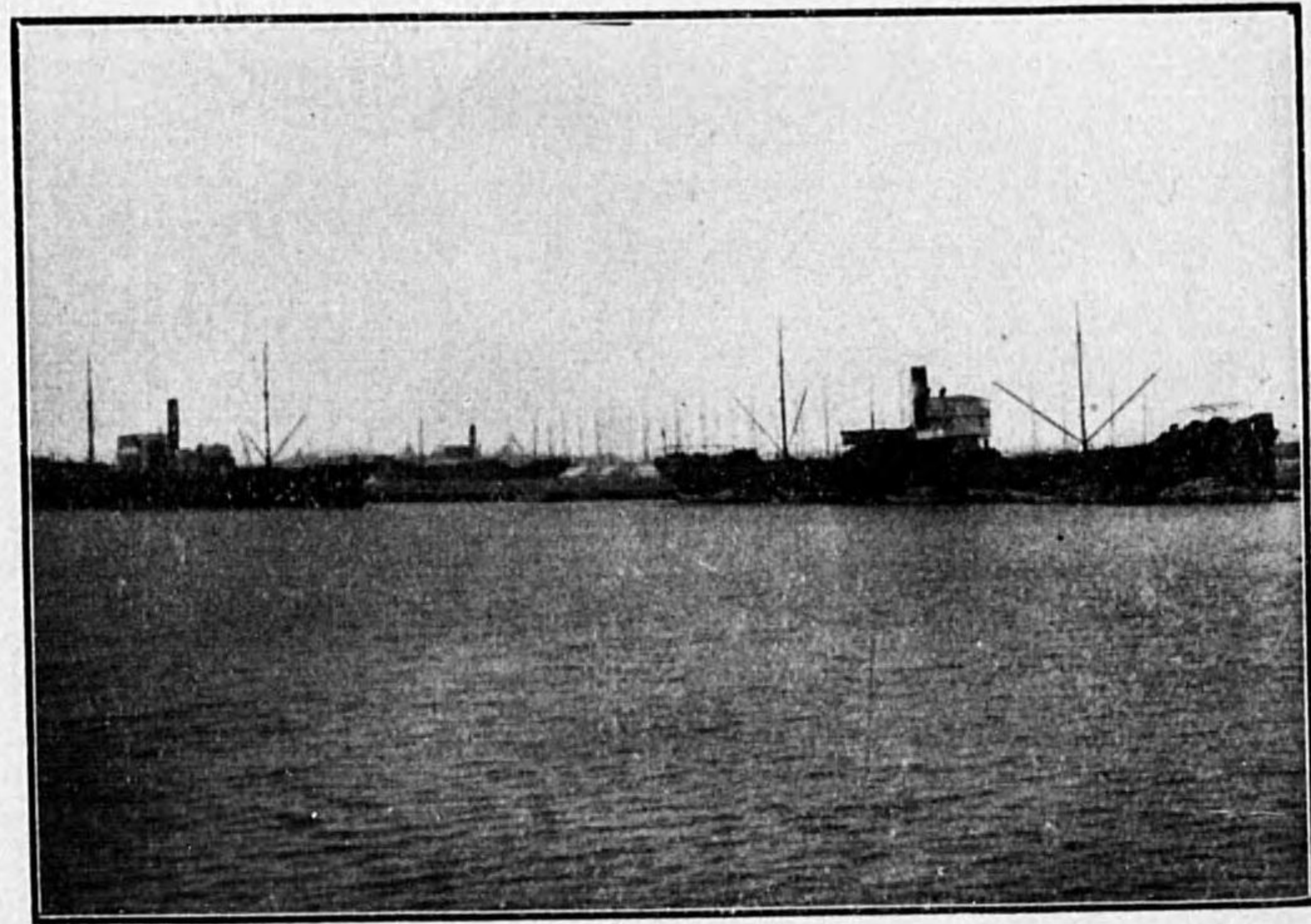
第五篇 縣營埠頭荷役費

第一、解荷役と岸壁荷役の關係	五七
第二、新潟港重要品種別荷役費	五九
新潟港重要品種別荷役賃調	六〇
第三、縣營埠頭埋立地石炭置場	六一
自大正十年四月 縣營埠頭埋立地石炭置場實績表	六二
至昭和元年十二月	六二
第四、縣營上屋	六三
自大正十五年四月 上屋搬入貨物使用料金調	六三
至昭和元年十一月	六三

中央埠頭ヨリ北埠頭ヲ望ム



北埠頭ヨリ中央埠頭ヲ望ム



第五、縣營埠頭專用線

自大正十五年四月至昭和元年十二月

專用線車輛出入實績表

六四

第六篇 新潟港と陸運の關係

第一、新潟港と陸運の關係

昭和元年中本港輸入貨物發送場所並に噸量表

六六

昭和元年中沼垂、山ノ下、縣營埠頭到着貨物數量表

六七

第二、發送貨物並に到着貨物

大正十四年中沼垂、山ノ下(臨港會社)兩驛發着貨物品種並に噸量表

七〇

附

新潟港灣取締規則

七三

新潟港上屋繫船浮標使用規則

八一

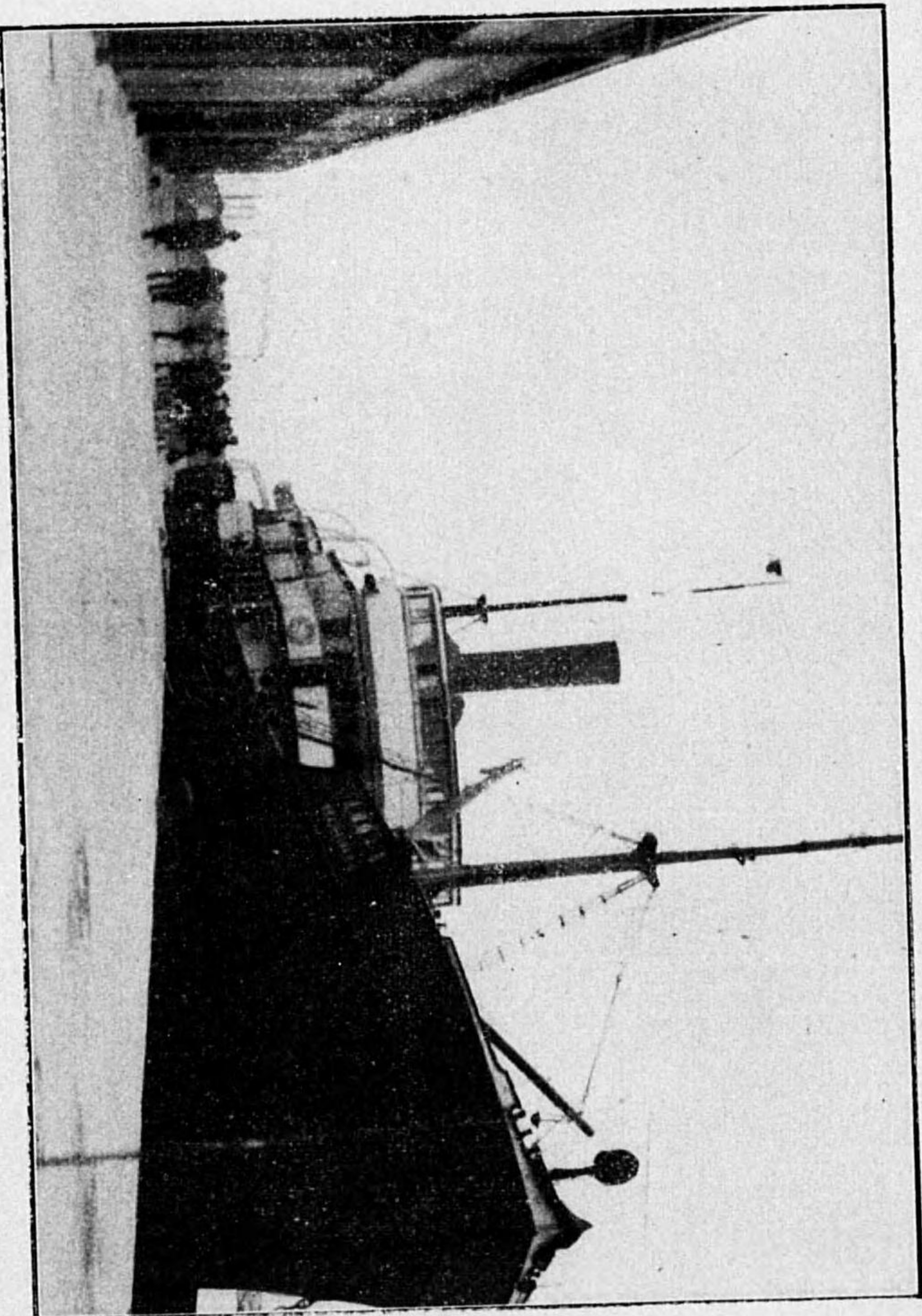
新潟港繫船岸壁使用規則

九四

新潟港務所規程

一〇二

第 二 錦 旗 丸 (總噸數九九八噸)



大正十五年四月十一日岸壁處女紫船

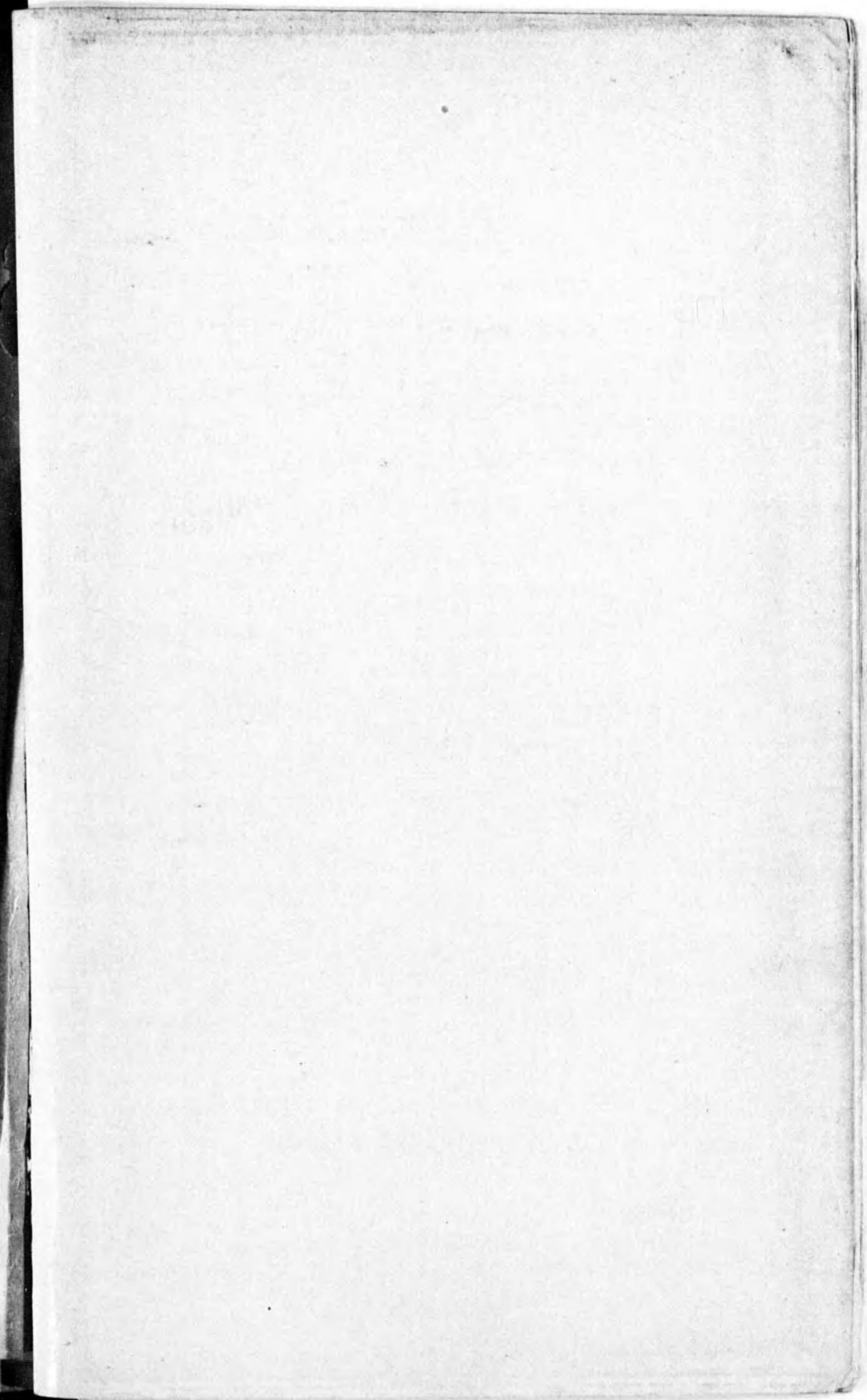
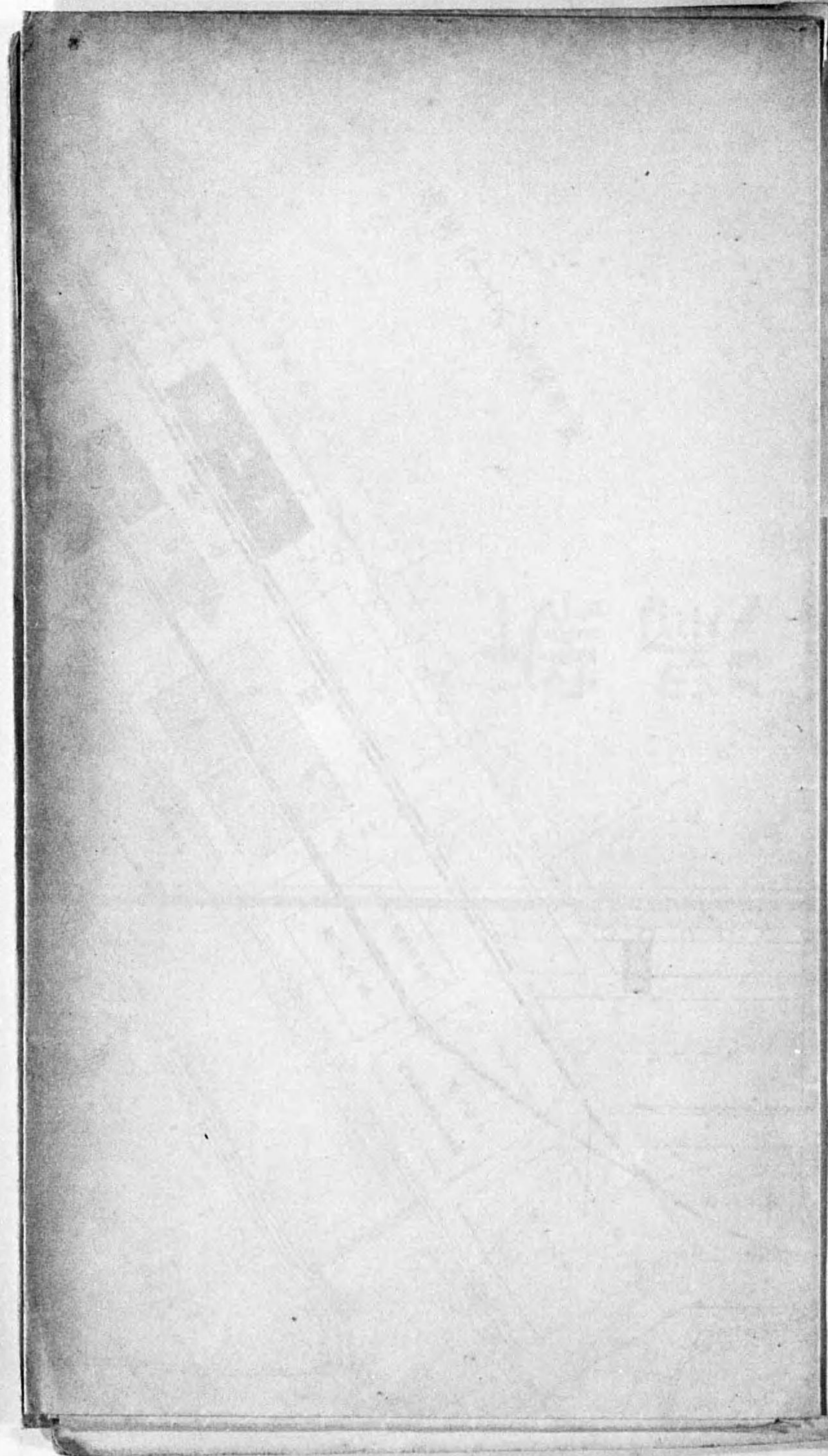
北埠頭大豆粕岸壁荷役

東 英 丸

總噸數三千一百二十一噸

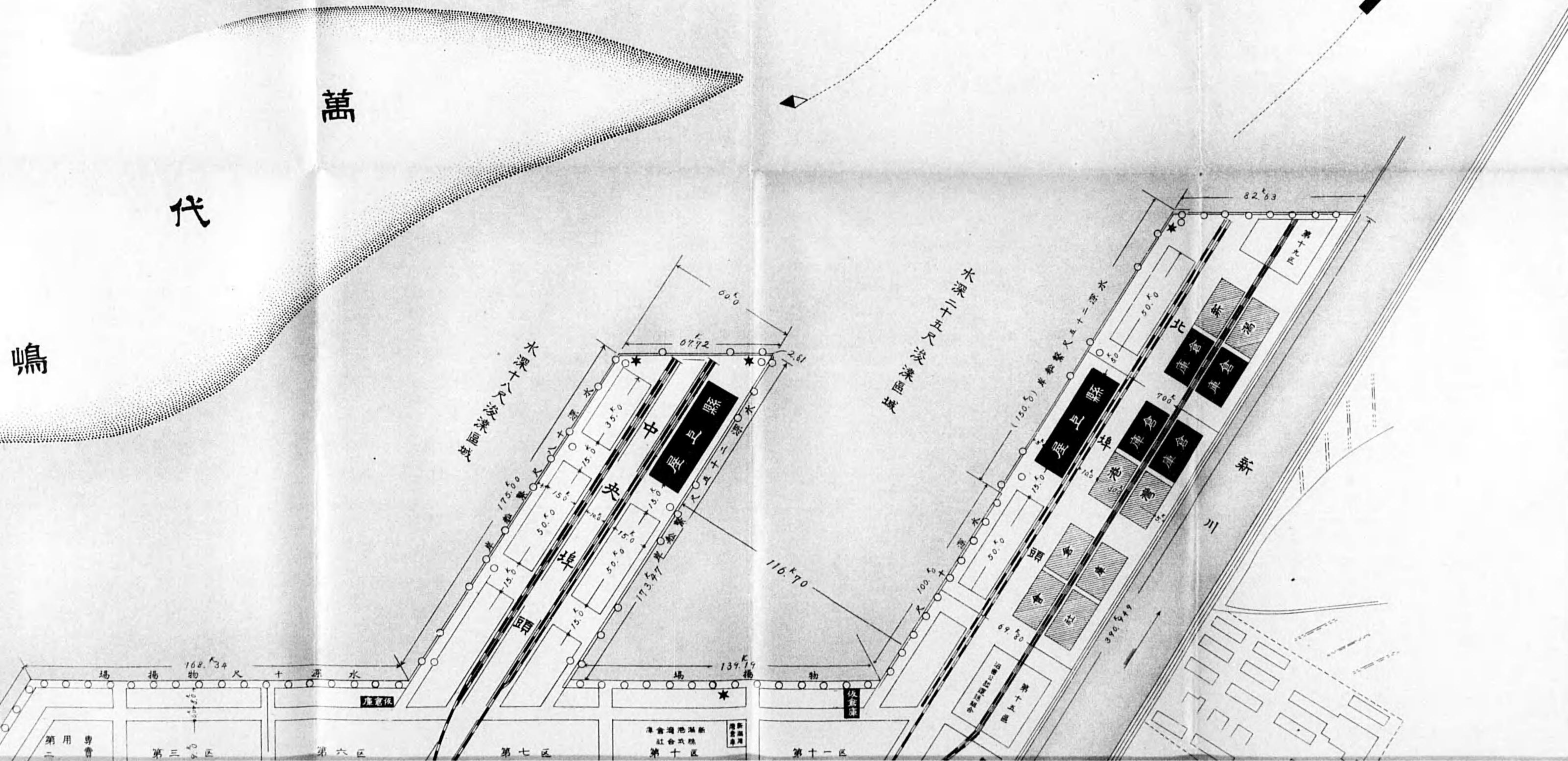


昭和二年二月十九日入港  
新潟港ニ於ケル大豆粕岸壁  
荷役ノ第一船



# 新馮縣營埠頭平面圖

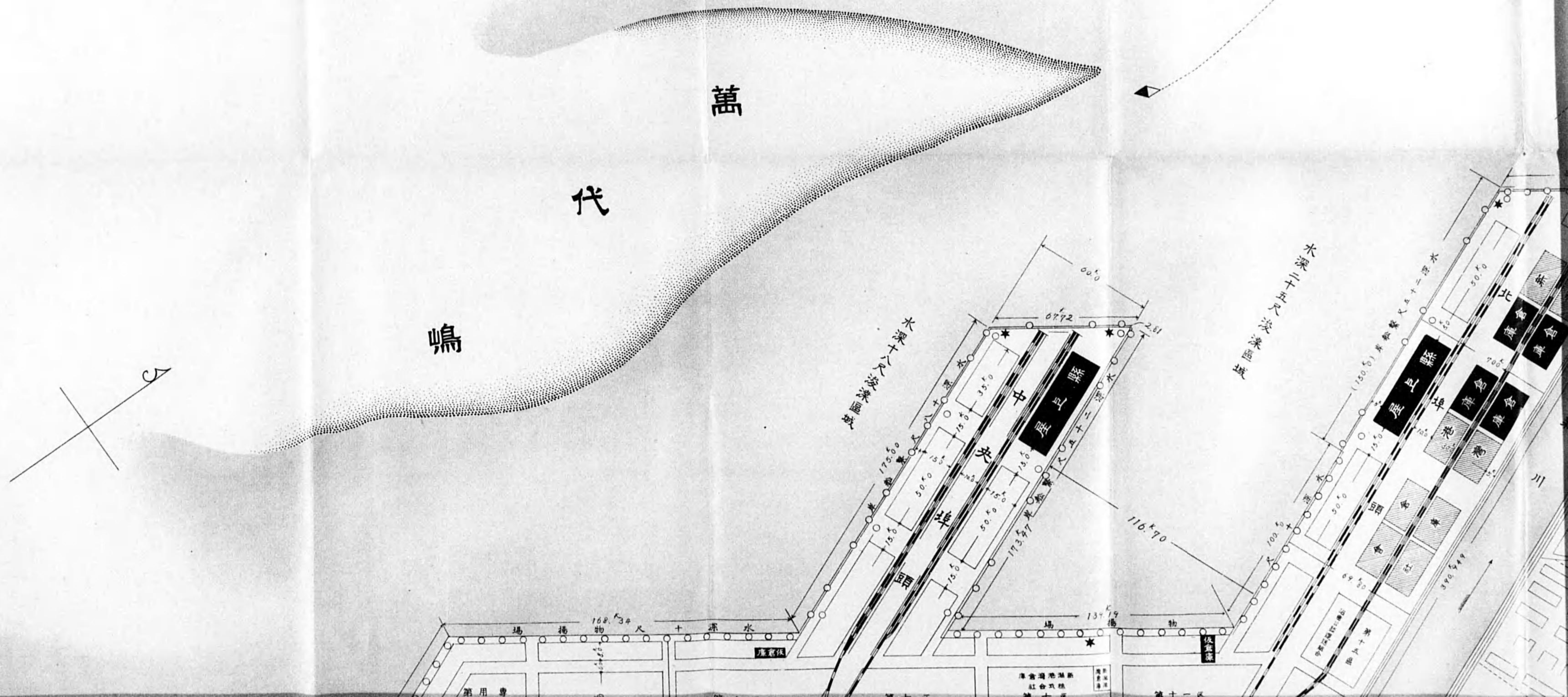
縮尺三千分一



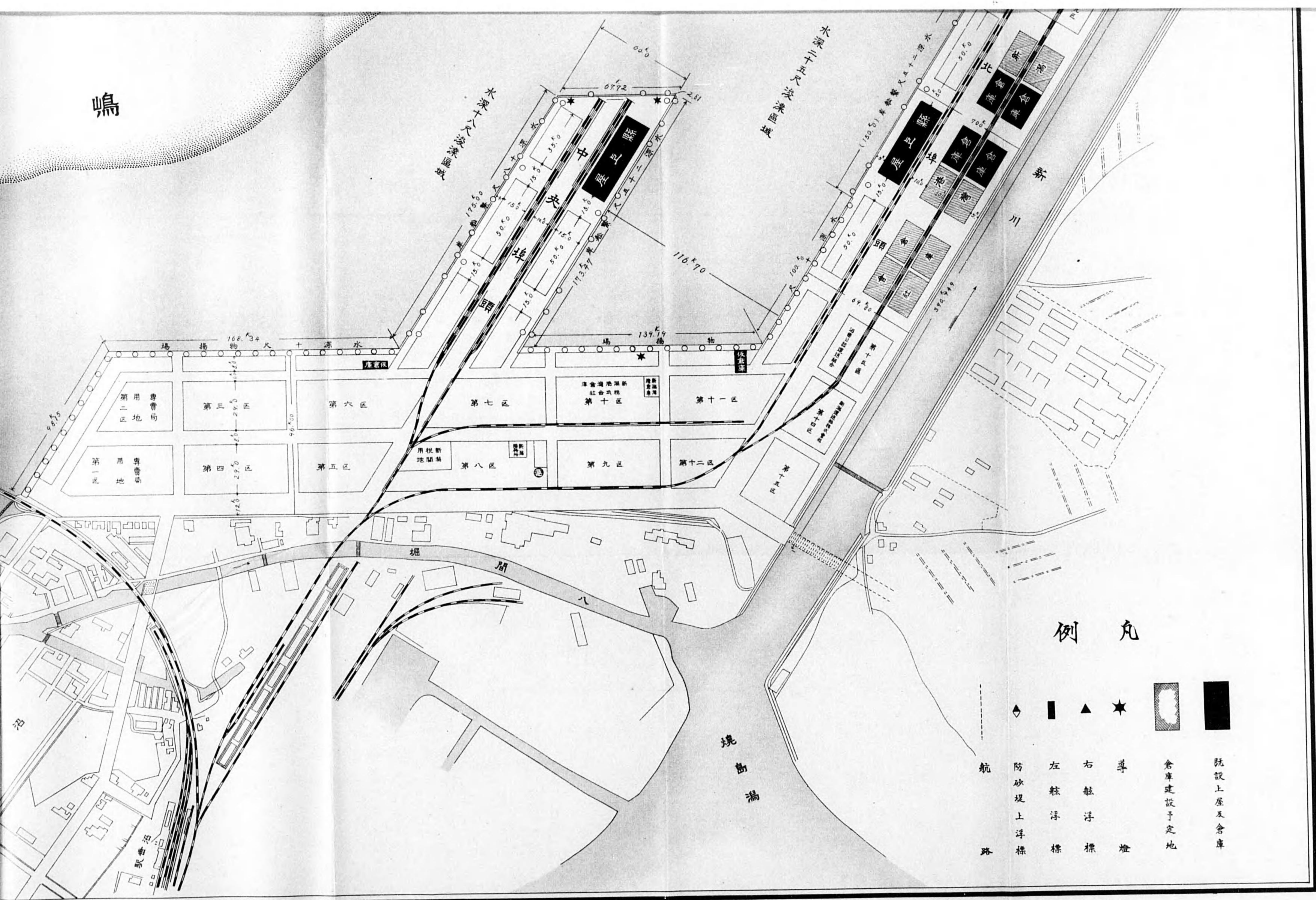
0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 3 4 5

# 新馮縣營埠頭平面圖

縮尺三千分一



嶋

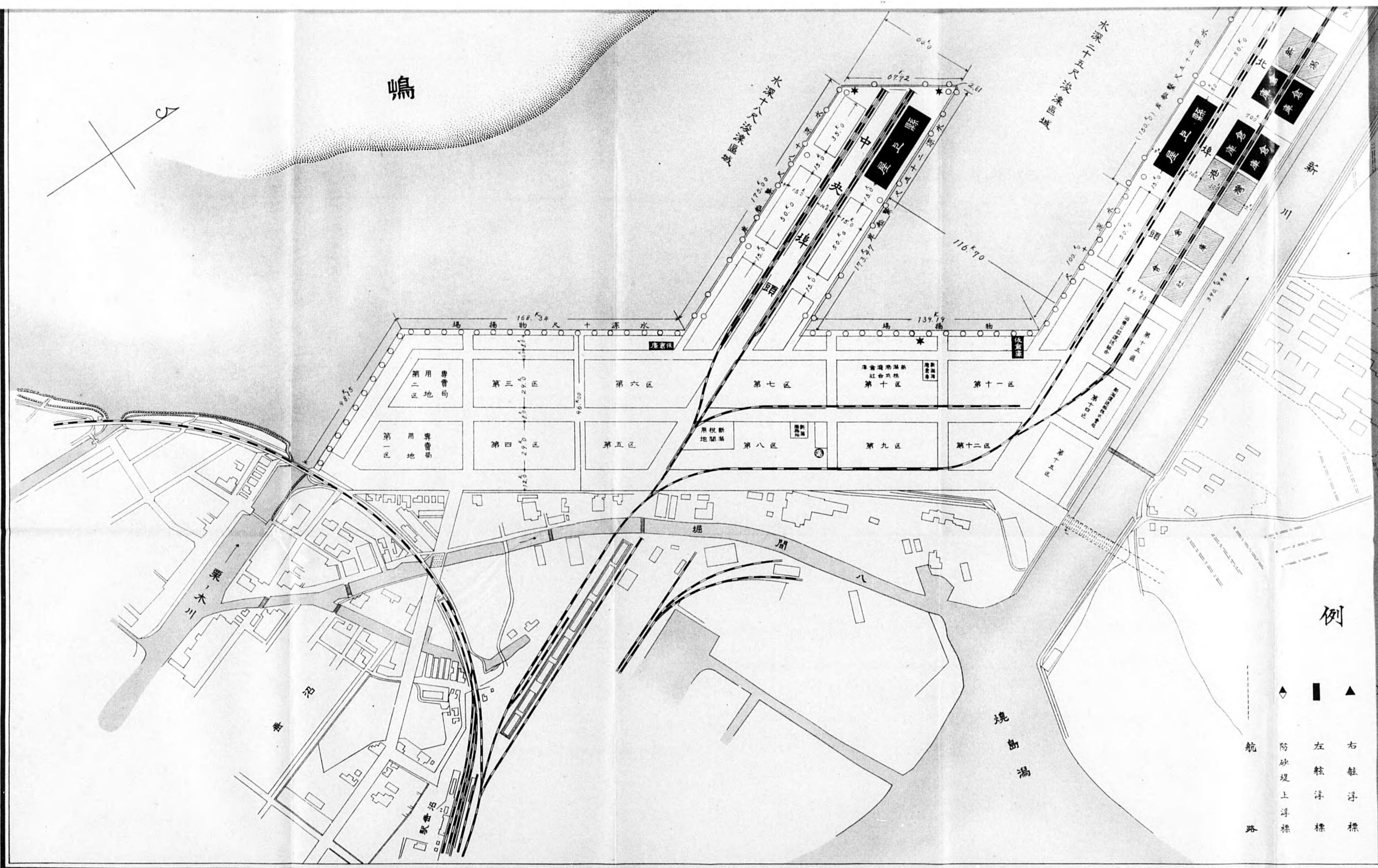
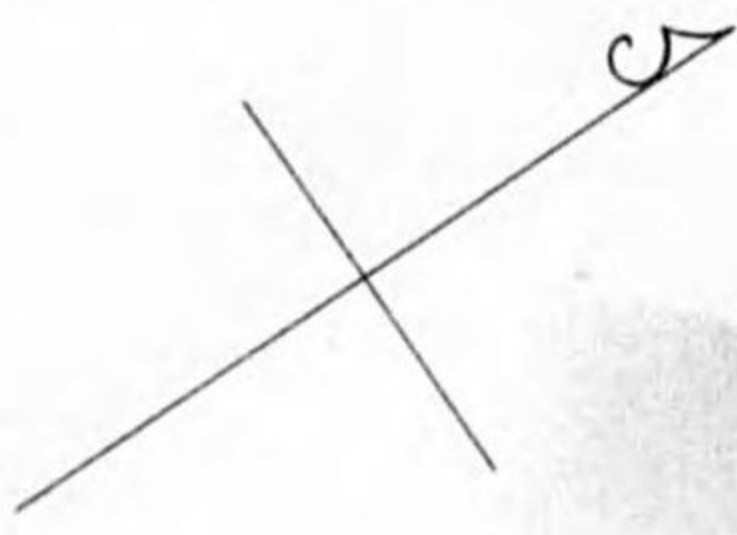


例 丸

- ◆ 航路 (Navigation Route)
- 防砂堤上洋標 (Sand-dike floating marker)
- ▲ 左舷洋標 (Left side floating marker)
- ★ 右舷洋標 (Right side floating marker)
- ★ 導燈 (Guide light)
- ◻ 倉庫建設予定地 (Planned warehouse construction site)
- 既設上屋及倉庫 (Existing upper structure and warehouse)



鳴



例

- ▲ 右舷浮標
- 左舷浮標
- ◆ 防砂堤上浮標
- 航路

# 第一編 新潟港

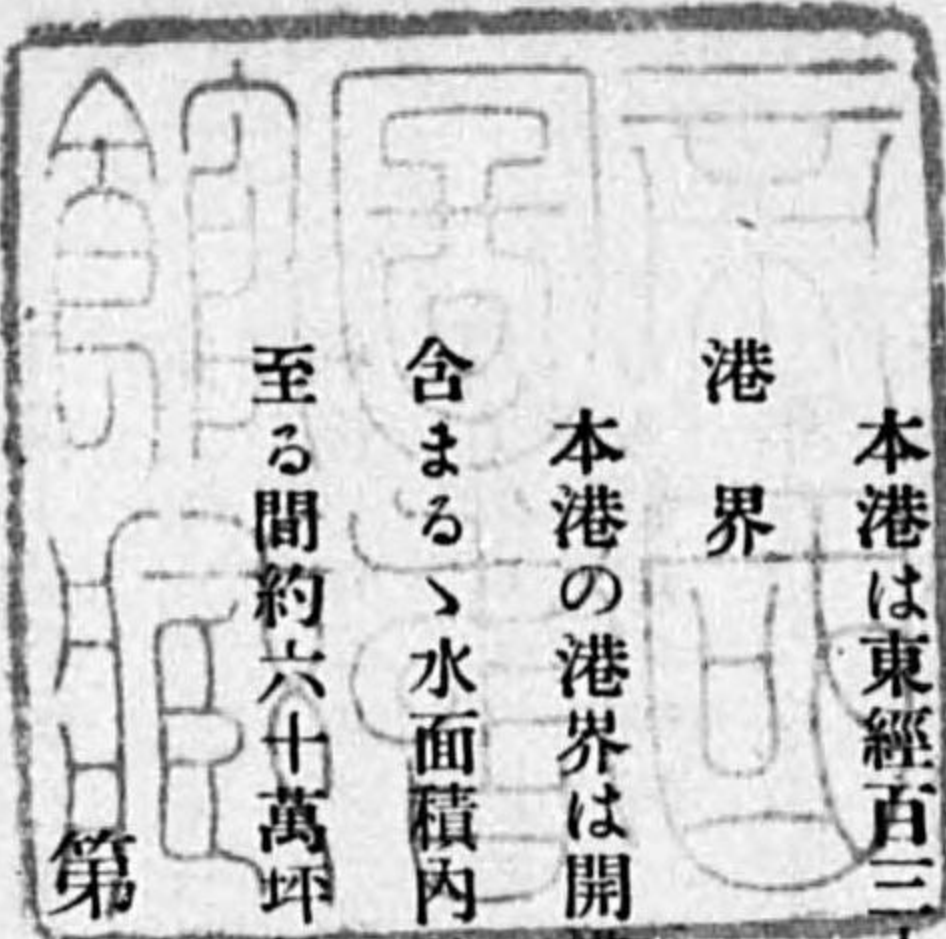
## 第一 新潟港の位置及港界

位置

本港は東經百二十九度零分北緯三十七度五十四分に位し信濃川河口臨海地域に座す。

港界

本港の港界は開港々則に規定せり即ち新潟燈臺を中心として二海里半の半径を有する圓圈の一弧内に含まるゝ水面積内とす、而して其の包擁する水面積は海面約一千萬坪水面信濃川河口より上流萬代橋に至る間約六十萬坪信濃川支流通船川より焼島潟呑口に至る間十萬坪計一千七十萬坪に達す。



潮位(干満)

陸地測量部の零點を單位とし春秋分に於ける最高潮位二尺最底潮位〇、七尺とす、而して大潮干満の差は平均一尺一寸小潮は僅に五寸に過ぎず。

流速

平時一萬二千分の一の水面勾配と水速毎秒一尺五寸を超えず従つて流速の爲め港内の荷役を休止するが如き事なし。

二

#### 氣象

氣壓は年平均七百五十九耗三にして大体初夏に低く秋冬に高く十一月に最高に達し三四月頃より漸次下降し六月頃に最低を示すを例とす過去四十年間中大正二年十一月三十日の七百七十七耗を最高とし大正元年九月二十三日の七百二十五耗八を以て最低とす。

氣温は年平均十二度六にして一、二月中最も低下し累年一月中の月平均は一度四分二月中の月平均は一度五分にして明治三十五年二月零度以下九度七分を最低とす、而して港内結氷を見ることなきにあらざるも船舶の航行に支障を來すこと殆んど稀なり、氣渦の累年最高月平均は八月の三十度にして明治四十二年八月六日の三十九度一分を最高極とす。

降水量は累年月平均百五十一耗二にして四五月頃最も少なく十一、十二月を最多とす、而して七、八月頃には驟雨性の豪雨を見ること往々あり累年中最多日雨量は明治三十年八月七日の百三十二耗七にして一時間に於ける雨量の最も多かりしは大正十一年七月三十日の三十九耗とす。

雪は十二月中に於て多少の降雪を見ることあるも其の量極めて少く最も降雪の多きは一、二月の候とす然れども其の降雪量二尺を出ること殆んど稀にして荷役に支障を見るが如きことなし。

#### 風位風速

風位は西北風を主とし十米突以上の強風は西を中心とす、冬期は稍北に偏し夏期は南に傾くを常とす過去四十年間に於て暴風の最も強かりしは明治二十四年十二月四日の南西風三十七米突五ならんも三十米突を超えること殆んど稀なり之を例年季節より見れば冬季十一月より翌年三月迄北西風多きも夏季は凡て平穩なり。

### 第三 水 深

本港の水深は外港は海岸を離る百間にして六尺、百五十間にして十二尺、三百間にして十八尺、四百間にして二十四尺、六百間にして三十尺、九百間にして四十尺の深度を保ち内港信濃川河口より縣營埠頭に至る延長一千二百間幅百間の間は現在水深十七尺三寸乃至二十三尺なるも河口より上流四百間は水深三十尺、夫より上流は二十五尺に達せしむる計畫にて目下極力浚渫しつゝあり、而して港内の地盤は總て沙質なるを以て船舶の碇繋に適す。

### 第四 港 灣 の 設 備

本港修築の主眼とする所は(一)信濃川の流路を一定し流土澱積の憂を除き航路の水深を維持すると同時に港内の波浪を防ぐ爲め河口の兩岸に防波導水堤を築造し船舶出入の便を計り(二)解荷役の不便を改め經

三

費の軽減を計る爲め繫船岸を設け臨港鐵道を敷設して海陸の聯絡を完ふせんとするものにして其の設備の内容左の如し

一、防波堤導水堤

信濃川河口西突堤(防波導水堤) 八三四間五分 捨石塲所詰コンクリート塊

信濃川河口東突堤(導水堤) 九〇〇間 捨石

二、繫船岸

北埠頭 水深二十五尺繫船岸 一五〇間 混凝土方塊積土

中央埠頭 水深二十五尺繫船岸 二四四間 同

中央埠頭 水深十八尺 繫船岸 一七五間 同

計 五六九間

備考、繫船岸總延長五百六十九間にして千噸級乃至三千噸の船舶十隻を同時に繫留するを得べし。

三、物揚場

埋立地物揚場 水深十尺 四〇六間

北埠頭物揚場 水深十尺 一八三間

計 五八九間

備考、物揚場總延長五百八十九間にして解其の他小型汽船六十隻を同時に繫留するを得べし。

四、上屋

北埠頭 一棟 六七二坪

中央埠頭 一棟 六七二坪

計 二棟 一、三四四坪

五、浮標

繫船浮標 二

航路浮標 一七

六、臨港鐵道

北埠頭 一哩一鎖五〇節

中央埠頭 一哩十二鎖九六節

七、埋立地

埋立地は平潮面上七尺にして總面積七萬二千五百拾坪其の内三萬九千二百九十坪は倉庫敷及野積場に充て而して北埠頭は幅七十間にして其の一側延長百五十間は水深二十五尺の繫船岸とし延長百間は水深

十尺の物揚場とす、面積一萬七千五百坪を上屋、野積場及倉庫敷地に充當す、中央埠頭は北西側延長二百四十四間は水深二十五尺南側百七十五間は水深十八尺の繫船岸より成り幅六十間にして面積一萬五百坪を上屋敷及野積場に充當す。

第五 水 戸 教

本港には舊幕時代より水戸教と稱する水先案内ありて常に港口及航路の深淺を測量し安全なる水路の教導業と一面船舶信號並に水難救護等の事務を掌る尙港内に於ける通船並に船舶給水の事業を兼營す。今水先案内、通船、給水に關し之が現行料金を擧ぐれば左の如し

水先案内料(水戸教料)

入港船舶出入(汽船)に對し總噸數一噸に付 二錢五厘

港内に於ける轉錨料 全 一 錢

纜 料 一隻に付一回 五 圓

通船料

汽船内港碇泊船

總噸數千噸未滿一日一隻に付

二圓五十錢

外港碇泊船

總噸數千噸以上全

三圓五十錢

一日一隻に付

五圓

一往復に付

貳圓

給水

内港の場合

二十噸未滿清水一噸に付

六十五錢

二十噸以上全

六十錢

外港の場合

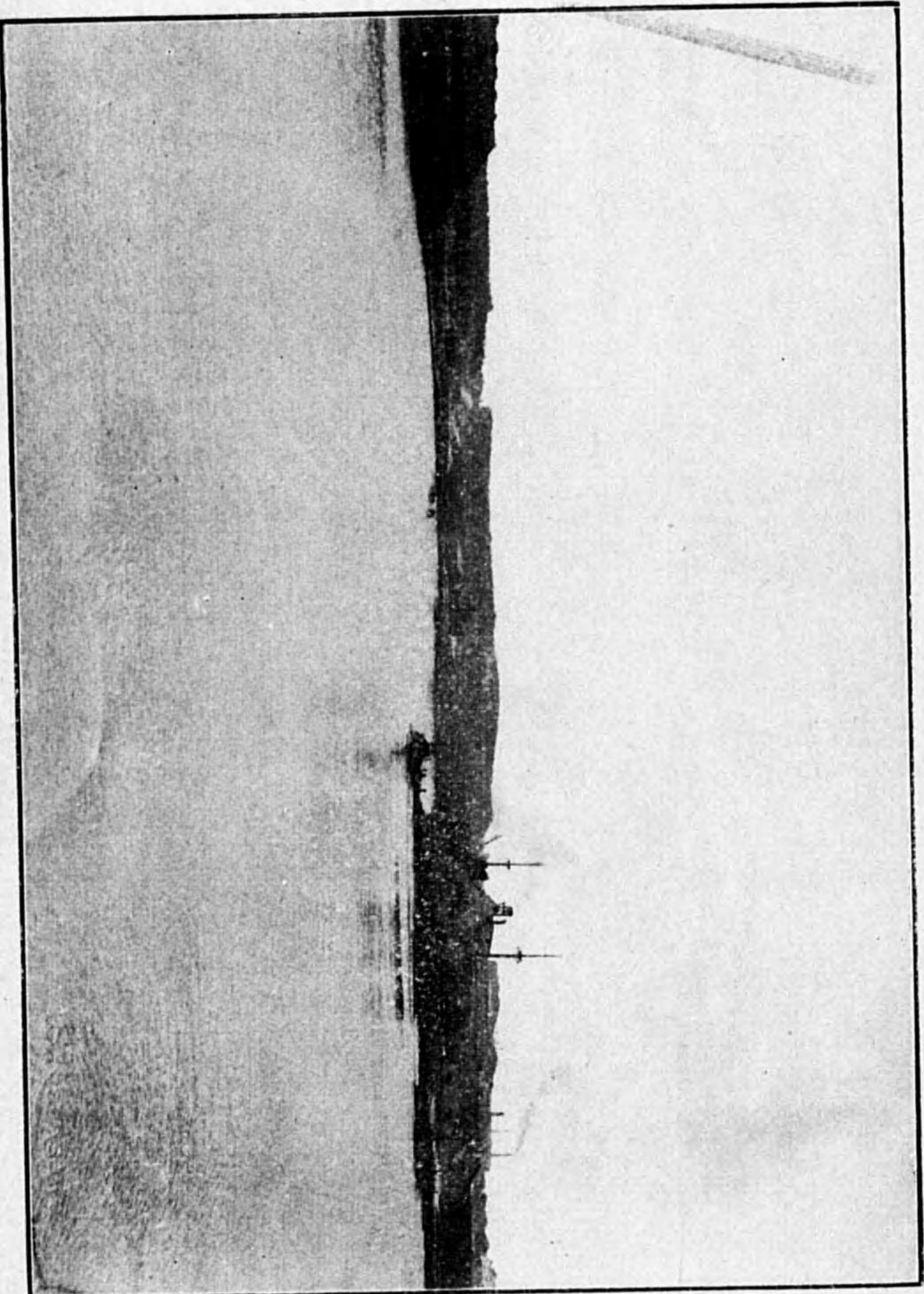
清水一噸に付

壹圓

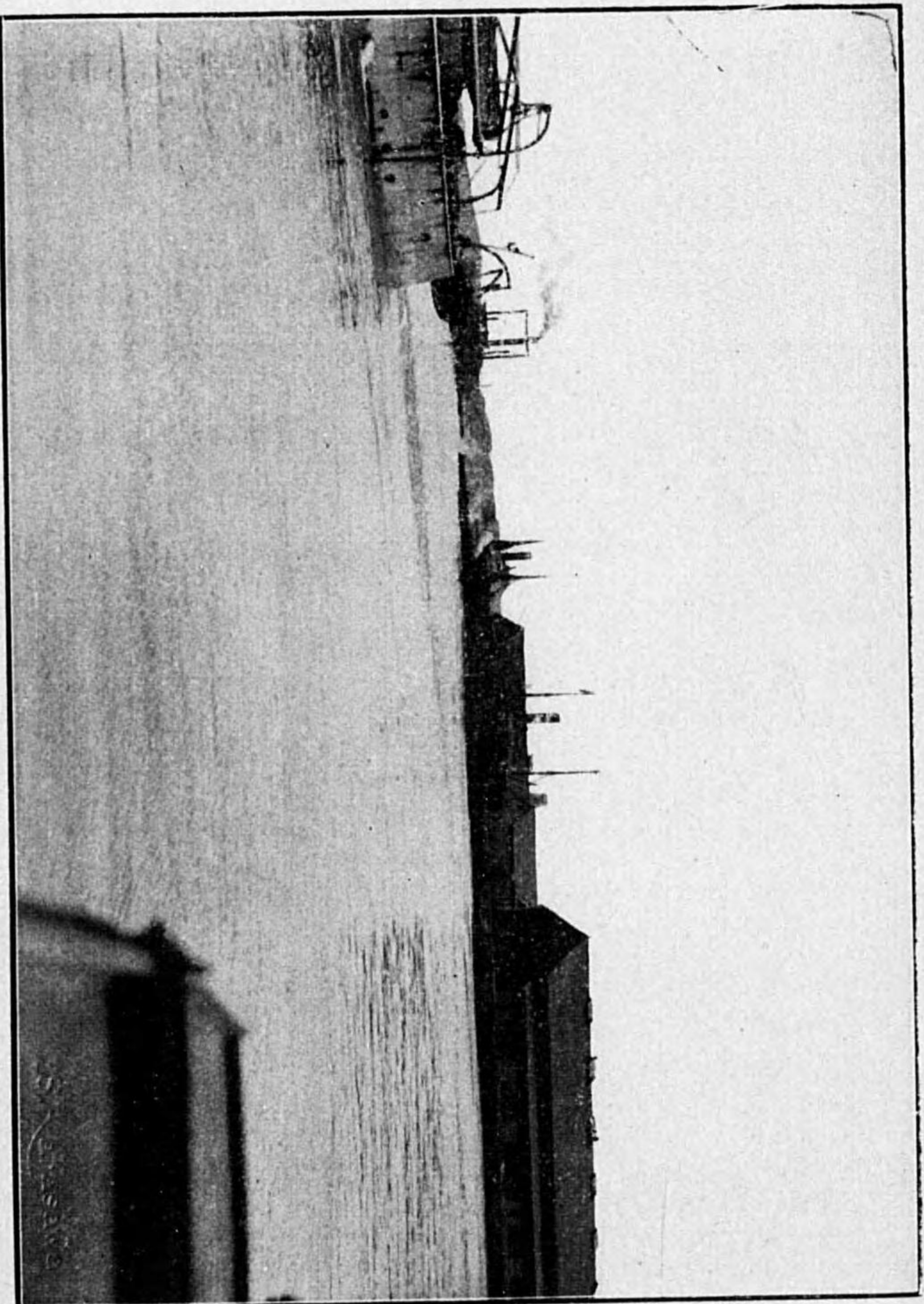
第六 新潟臨港株式會社埠頭

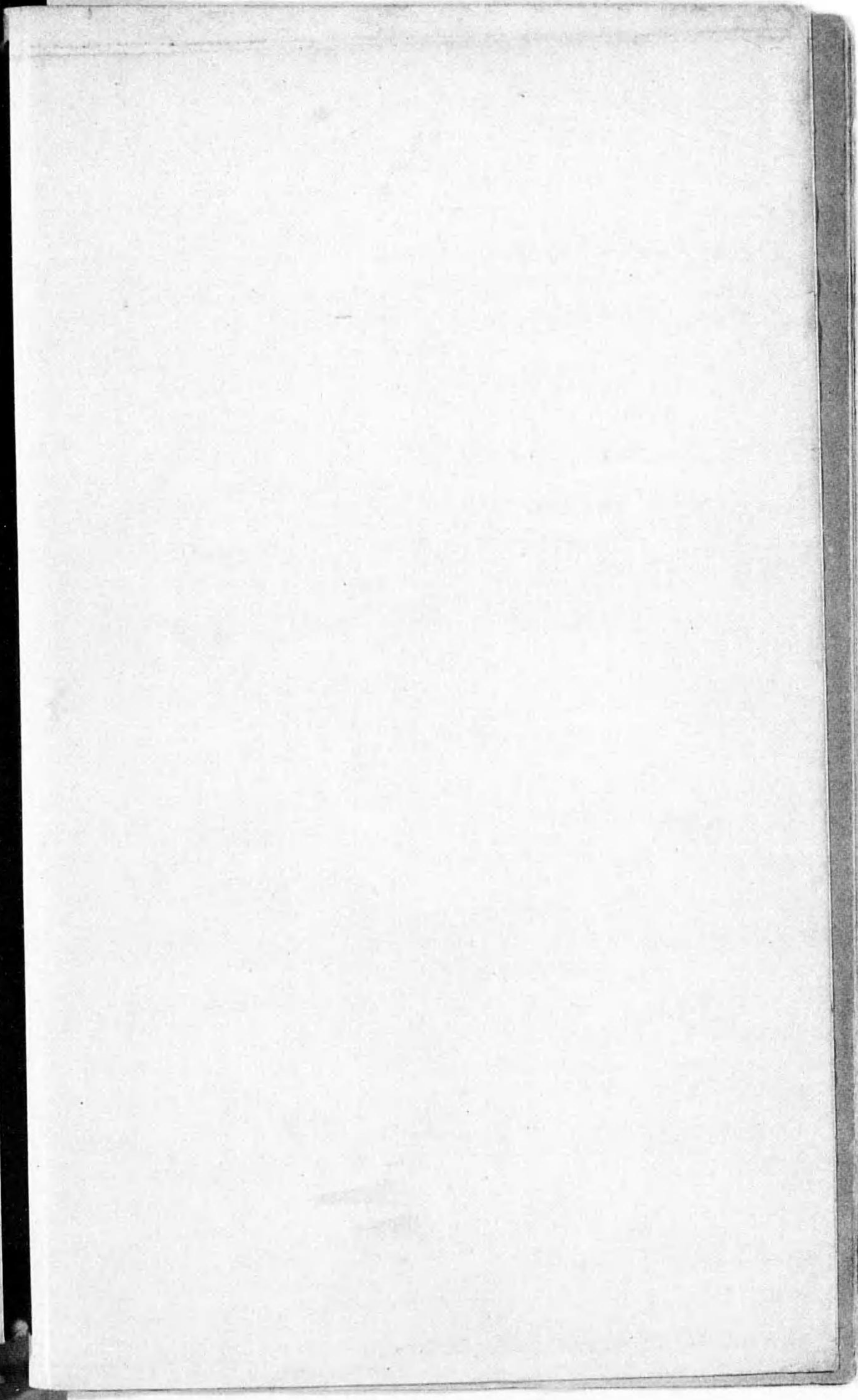
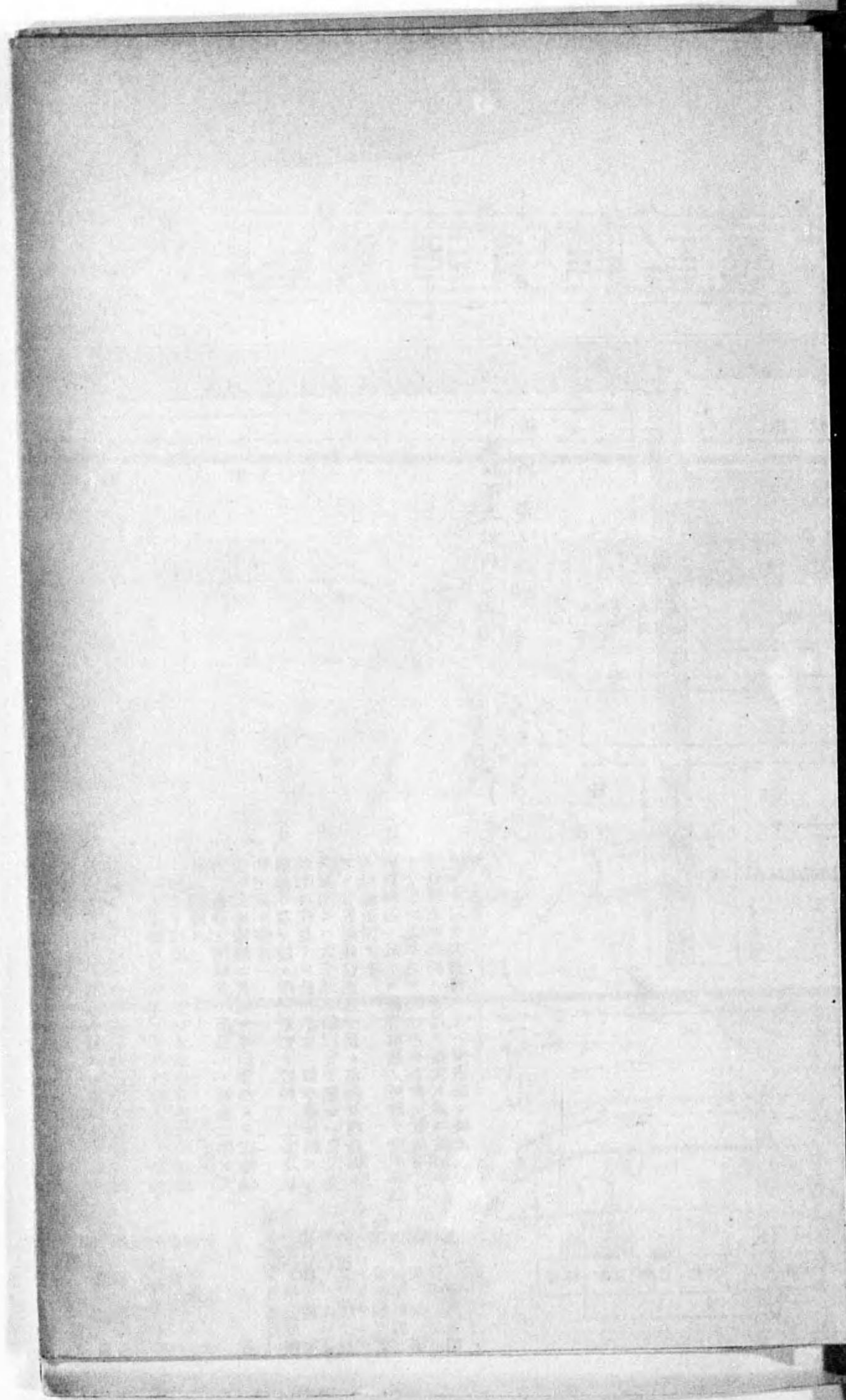
新潟臨港株式會社埠頭は本港の海門信濃川東導水堤内側に位し既に第一、第二、埠頭竣成し殊に第一埠頭は大正十四年より之が一般利用を開始せり、而して將來同社築港設備の完成は縣營築港埠頭と相俟つて大新瀉港の要素を成すものと謂ふべし。

新潟臨港株式會社第一埠頭ノ全景



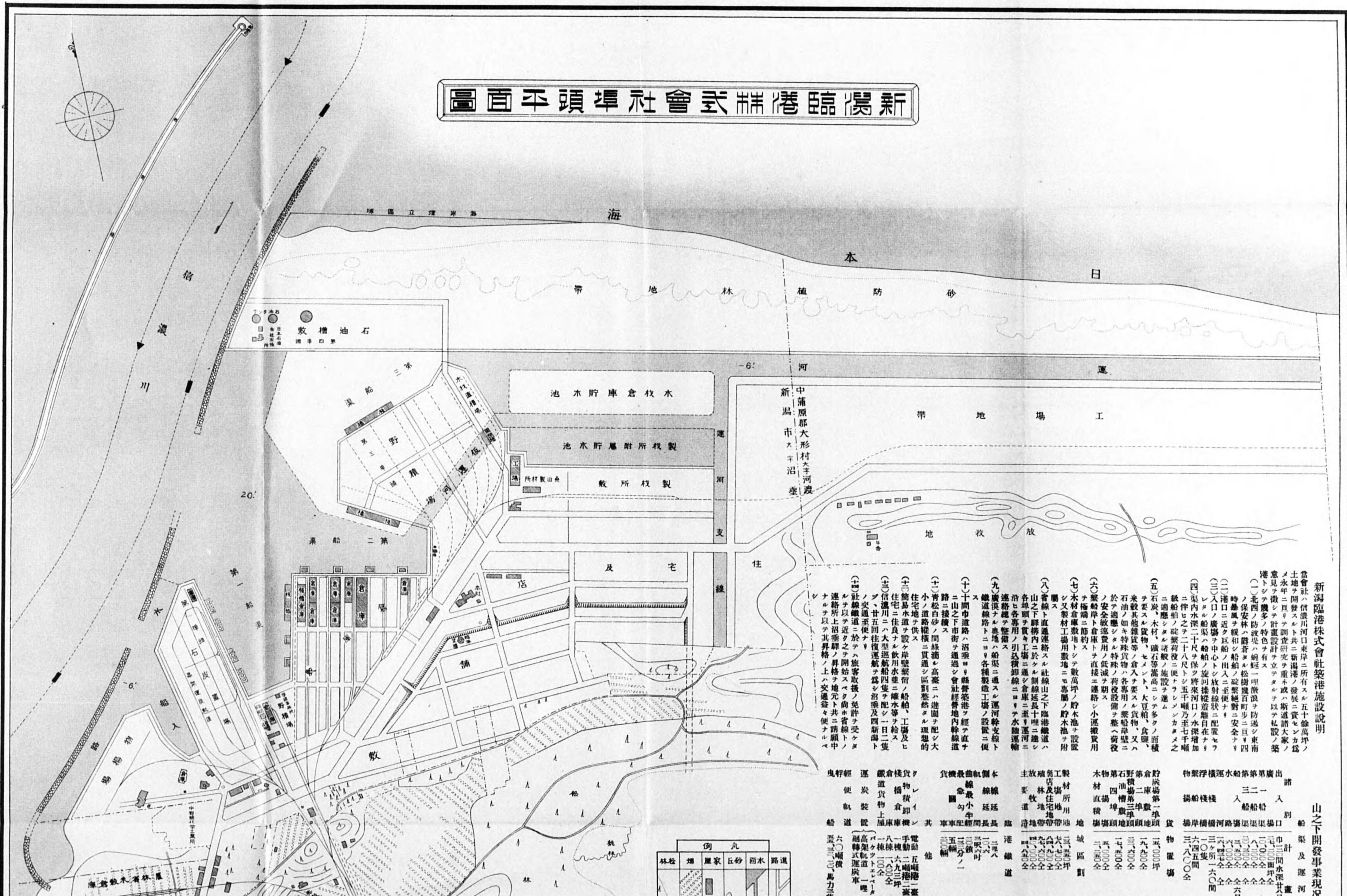
新瀨臨港株式會社第二埠頭接岸荷役ノ實況







## 新瀨臨港株式會社式港臨瀨新



石槽油敷 敷槽油石  
 計畝四第  
 計畝一第

**新瀨臨港株式會社建設說明**

當會社ハ信濃川河口東岸ニ所有スル五十餘萬坪ノ土地ヲ開發スルニ共ニ新瀨港ノ發展ニ資スルカ爲メ永年ニ亘リテ調査研究ヲ重キ事トシテ斯道諸大家ノ意見ヲ徵シテ計畫設計ヲ立テタルヲ以テ建設ノ案港トシテ幾多ノ特色ヲ有ス

- (一) 北西ノ防波堤ハ一哩餘長ヲ防波ニ東南ノ保安林ハ鬱蒼ナル松樹幾百町歩ニ亘リ四時暴風ヲ緩和シ船舶ノ碇泊ニ安全ナリ
- (二) 港口ニ近ク巨船ノ出入ニ便ナリ
- (三) レンタル船渠ハ船舶ノ旋回操縦容易自在ナリ
- (四) 渠内水深二十尺ヲ保ツ將來河口ノ水深增加ニ伴ヒテ之ヲ二十八尺トシ五千噸乃至七千噸級船舶ノ碇泊役ニ便ナラシムルカメメ之ニ適應シタル諸般ノ施設ヲ進ム
- (五) 石炭、木材、礦石等嵩高ニシテ多クノ面積ヲ要スル貨物、セメント、大豆、食糧、米穀其他雜貨等ノ倉入ヲ要スル貨物、又ハ石油ノ如キ特殊貨物ハ各専用ノ繫船岸壁ニ於テ適應シタル特殊ノ荷役設備ヲ整備シ荷役ノ安全敷運費用ノ低減ヲ期ス
- (六) 繫船岸ト倉庫トヲ直接ニ連絡シ小運搬費用ヲ極端ニ節約ス
- (七) 木材倉庫敷地トシテ敷萬坪ノ貯水池ヲ設置シ又製材工場敷地ニモ專屬ノ貯水池ヲ附屬ス
- (八) 官線ト直通連絡スル社線山之下瀨港總道ハ山之下驛構内ニ於ケル側線延長十哩ニ達シ各埠頭ヲ實キ工場ニ通シ倉庫ニ至リ運河ニ沿ヒ各専用ノ引込線ニヨリテ水陸運送連絡總テ整備ス
- (九) 廣漠ナル奥地ハ船舶ニ通スル運河幹線支線ト鐵道線トヨリ各種製造工場ノ設置ニ便ス
- (十) 十町中道路ハ沼澤ヨリ經費省港ヲ經テ直ニ山之下市街ヲ通過シ會社經營地内幹線道路ニ接続ス
- (十一) 青松白砂ノ間綠通ル高臺ニハ遊園地配シ大小ノ遊園地ヲ設ク區劃整然タル理想的住宅地ヲ供ス
- (十二) 簡易水道ヲ設ク岸壁繫留ノ船舶、工場及ヒ住宅ニ佳良ナル飲用水及ヒ雜水等ヲ給ス
- (十三) 信濃川ニハ大型巡航船四隻ヲ配シ一日二隻ヲ、廿五回往復運航ヲ爲シ沼澤及四新瀨ト交通至便ナリ
- (十四) 社線鐵道ニ於テハ旅客取扱ノ免許ヲ受ケタルヲ以テ附近ク之ヲ開始スベク尙ホ官線トノ連絡所上沼澤驛ノ昇格ヲ地元ト共ニ請願中ナルヲ以テ其昇格ノ上ハ交通益々便ナルベシ

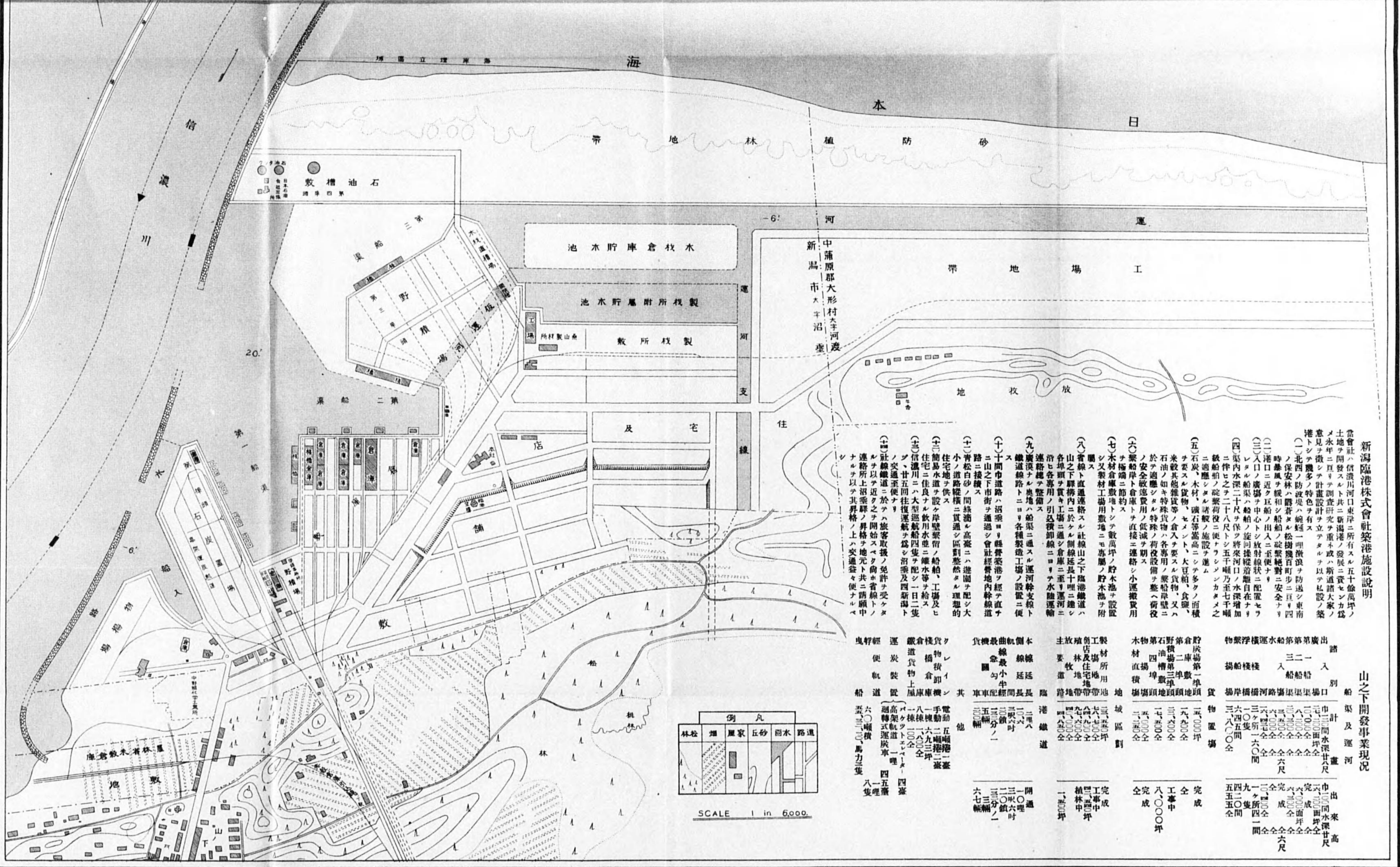
**山之下開發事業現況**

船渠及運河	計	完成	中	未
船渠	10000	10000	0	0
運河	10000	10000	0	0
總計	20000	20000	0	0

出島	入島	船渠	船渠	船渠
出島	入島	船渠	船渠	船渠
出島	入島	船渠	船渠	船渠

例  
 林 陸 倉 庫 船 渠 運 河 支 線 線 路



新潟臨港株式會社築港施設説明

當會社、信濃川河口東岸ニ所有スル五十餘萬坪ノ土地ヲ開發スルト共ニ新潟港ノ發展ニ資セン力爲メ本年二月ニ調査研究ヲ重テ或ハ斯道諸大家ノ意見ヲ徵シテ計畫設計ヲ立テタルヲ以テ私設ノ築港トシテ幾多ノ特色ヲ有ス

- (一) 北西ノ防砂林ハ、船隻ノ浪ヲ防シ、東南ノ保安林ハ、霧ヲ散ルル松樹幾百町歩ニ亘リ、四時暴風ヲ緩和シ、船舶ノ碇泊ニ安全ナリ
- (二) 港口ノ近ク巨船ノ出入ニ便ナリ
- (三) 入口ノ廣場ヲ中心トシ、放射線狀ニ配置セラレタル船渠ハ、船舶ノ旋回操縱、離着自在ナリ
- (四) 渠内水深二十尺ヲ保ツ、將來河口ノ水深増加ニ伴ヒテ之ヲ二十八尺トシ、五千噸乃至七千噸級船舶ノ碇泊、荷役ニ便ナリ
- (五) 石炭、木材、礦石等、高ニシテ多クノ面積ヲ要スル貨物、セメント、大豆粕、食鹽、米穀其他雜貨等ノ倉入ヲ要スル貨物、又ハ石油ノ如キ特殊貨物ハ、各専用ノ築港岸壁ニ於テ適シタル特殊ノ荷役設備ヲ整ヘ、荷役ノ安全、碇泊費用ノ低減ヲ期ス
- (六) 築港岸壁倉庫トシテ直接ニ連絡シ、小運搬費用ヲ極端ニ節約ス
- (七) 木材倉庫敷地トシテ數萬坪ノ貯水池ヲ設置シ、又製材工場敷地ニモ、貯水池ヲ附屬ス
- (八) 省線ト直連連絡スル社線山ノ下臨港鐵道ハ、山ノ下階梯内ニ於テ、側線延長十里ニ達シ、各埠頭ヲ貫キ、工場ニ至リ、運河ニ沿ヒ、各専用ノ引込線、即線ニヨリ、水陸運輸連絡網ヲ整備ス
- (九) 廣場ナル敷地ハ、船渠ニ通スル運河幹支線ト連絡線トトニ、ヨリ各種製造工場ノ設置ニ便ス
- (十) 十間市道路ハ、沼澤ヨリ、縣營港ヲ經テ、直チニ山ノ下市街ヲ通過シ、會社經營地内幹線道路ニ接続ス
- (十一) 青松白砂ノ間、線道ハ、高峯ニハ、避開ヲ配シ、大小ノ道路縱橫ニ貫通シ、區別整然タル理想的小住宅地ヲ供ス
- (十二) 簡易水道ヲ設ケ、岸壁、貯池、工場及住宅ニ、佳良ナル飲用水、並ニ離水等ヲ給ス
- (十三) 信濃川ニハ、大型巡航船四隻ヲ配シ、一日二隻ヲ、廿五回往復運航ヲ爲シ、沼澤及四新海トノ交通ヲ便ナリ
- (十四) 社線鐵道ニ於テハ、旅客取扱ノ免許ヲ受ケ、タルヲ以テ、近ク之ヲ開始スベク、尙ホ省線トノ連絡所上沼澤驛ノ昇格ヲ地元共ニ請願中ナルヲ以テ、其昇格ノ上ハ、交通益々便ナルベシ

山之下開發事業現況

別	計	出
船渠及運河	計三間水深廿八尺	中三間水深廿八尺
揚船棧橋	計三間	中三間
揚岸橋	計三間	中三間
河路	計三間	中三間
渠	計三間	中三間
堤	計三間	中三間
埠頭	計三間	中三間
倉庫	計三間	中三間
棧	計三間	中三間
貯池	計三間	中三間
第一埠頭	計三間	中三間
第二埠頭	計三間	中三間
第三埠頭	計三間	中三間
第四埠頭	計三間	中三間
第五埠頭	計三間	中三間
第六埠頭	計三間	中三間
第七埠頭	計三間	中三間
第八埠頭	計三間	中三間
第九埠頭	計三間	中三間
第十埠頭	計三間	中三間
第十一埠頭	計三間	中三間
第十二埠頭	計三間	中三間
第十三埠頭	計三間	中三間
第十四埠頭	計三間	中三間
第十五埠頭	計三間	中三間
第十六埠頭	計三間	中三間
第十七埠頭	計三間	中三間
第十八埠頭	計三間	中三間
第十九埠頭	計三間	中三間
第二十埠頭	計三間	中三間
第二十一埠頭	計三間	中三間
第二十二埠頭	計三間	中三間
第二十三埠頭	計三間	中三間
第二十四埠頭	計三間	中三間
第二十五埠頭	計三間	中三間
第二十六埠頭	計三間	中三間
第二十七埠頭	計三間	中三間
第二十八埠頭	計三間	中三間
第二十九埠頭	計三間	中三間
第三十埠頭	計三間	中三間
第三十一埠頭	計三間	中三間
第三十二埠頭	計三間	中三間
第三十三埠頭	計三間	中三間
第三十四埠頭	計三間	中三間
第三十五埠頭	計三間	中三間
第三十六埠頭	計三間	中三間
第三十七埠頭	計三間	中三間
第三十八埠頭	計三間	中三間
第三十九埠頭	計三間	中三間
第四十埠頭	計三間	中三間
第四十一埠頭	計三間	中三間
第四十二埠頭	計三間	中三間
第四十三埠頭	計三間	中三間
第四十四埠頭	計三間	中三間
第四十五埠頭	計三間	中三間
第四十六埠頭	計三間	中三間
第四十七埠頭	計三間	中三間
第四十八埠頭	計三間	中三間
第四十九埠頭	計三間	中三間
第五十埠頭	計三間	中三間
第五十一埠頭	計三間	中三間
第五十二埠頭	計三間	中三間
第五十三埠頭	計三間	中三間
第五十四埠頭	計三間	中三間
第五十五埠頭	計三間	中三間
第五十六埠頭	計三間	中三間
第五十七埠頭	計三間	中三間
第五十八埠頭	計三間	中三間
第五十九埠頭	計三間	中三間
第六十埠頭	計三間	中三間
第六十一埠頭	計三間	中三間
第六十二埠頭	計三間	中三間
第六十三埠頭	計三間	中三間
第六十四埠頭	計三間	中三間
第六十五埠頭	計三間	中三間
第六十六埠頭	計三間	中三間
第六十七埠頭	計三間	中三間
第六十八埠頭	計三間	中三間
第六十九埠頭	計三間	中三間
第七十埠頭	計三間	中三間
第七十一埠頭	計三間	中三間
第七十二埠頭	計三間	中三間
第七十三埠頭	計三間	中三間
第七十四埠頭	計三間	中三間
第七十五埠頭	計三間	中三間
第七十六埠頭	計三間	中三間
第七十七埠頭	計三間	中三間
第七十八埠頭	計三間	中三間
第七十九埠頭	計三間	中三間
第八十埠頭	計三間	中三間
第八十一埠頭	計三間	中三間
第八十二埠頭	計三間	中三間
第八十三埠頭	計三間	中三間
第八十四埠頭	計三間	中三間
第八十五埠頭	計三間	中三間
第八十六埠頭	計三間	中三間
第八十七埠頭	計三間	中三間
第八十八埠頭	計三間	中三間
第八十九埠頭	計三間	中三間
第九十埠頭	計三間	中三間
第九十一埠頭	計三間	中三間
第九十二埠頭	計三間	中三間
第九十三埠頭	計三間	中三間
第九十四埠頭	計三間	中三間
第九十五埠頭	計三間	中三間
第九十六埠頭	計三間	中三間
第九十七埠頭	計三間	中三間
第九十八埠頭	計三間	中三間
第九十九埠頭	計三間	中三間
第一百埠頭	計三間	中三間

例凡

林	煙	厩	丘	砂	田	水	路	運
林	煙	厩	丘	砂	田	水	路	運

SCALE 1 in 6,000.

## 第二編 新潟港の經濟的位置

### 第一 新潟港の經濟的位置

由來本港は北日本の鎖鑰として最も樞要の地位を占め關東地方と歐洲シベリヤとを聯絡する最短距離の要衝に當り背後には物資豊富なる越後の大平野を控へ西は僅に三十海里を隔て、佐渡ヶ島に面し北は北海道及樺太を望み西方遙に西伯利亞大陸並に朝鮮半島に相對す又陸上運輸系統頗る至便にして北陸、信越、盤越西線、上越北線、羽越、越鐵等の諸線縱横に走る、更に水運に至つては川崎、北陸、兩社の浦鹽朝鮮方面との定期船、北海道、樺太、九州、大連諸港との船便不尠加ふるに信阿の長流と相俟つて遠く本港の商域を擴張し水陸の交通將に四通八達せるものと云ふを得べく國際的經濟的位置に於て我國に於ける實に唯一の貿易港たる素質を備へたるものと謂ふべし。

### 第一 新潟港の勢力範圍

凡そ其の港灣に於ける勢力範圍の決定は船賃港内諸經費鐵道輸送費等綜合せざれば不可能なるが假りに之を鐵道哩程にのみ就て本港對關係各港間の運輸路の分界點を調査するに左の如し

			新潟港								
			名古屋港	船川港	伏木港	關係港名					
			信越線	羽越線	北陸線	線名					
			戸倉	姨捨	直江津間	驛名					
			郡山	余目島間	郷江津間						
			一四二、七	一四四、〇	八四、六五	沼垂驛より哩程數					
			一一七、六	〇〇五、六二	八七、五						
			一五四、四								
			常盤線								
			東北本線								
			石巻港								

右の内新潟對伏木の中心地は郷津、直江津間に在り郷津は伏木港の勢力圏に屬し直江津は新潟港の勢力圏たり故に當然本港は長野山梨縣方面に伸張すべき使命を有し北方船川港との勢力圏は藤島余目間に當り近く敷設せられんとする新發田、新潟間の兩新鐵道開通せば更に商域の擴張を見るべく尙昭和三年には上越線も全通するを以て本港の勢力範圍は著しく廣範の域に達すと云はざる可からず。



新瀉港ヨリ各地主要航路里程表

	新瀉	青森	船川	酒田	伏木	敦賀 舞鶴	神戸 大阪	熱田 西田市	清水 江尻	横濱	金華山
室蘭	308	106	166	216	416	505	824	670	585	535	256
函館	253	57	127	177	361	442	808	657	572	522	243
小樽	376	213	257	307	463	550	1,008	849	764	714	435
大泊	564	406	455	505	659	743	1,202	1,051	966	916	637
浦鹽	468	440	412	435	467	487	796	1,009	952	940	623
元山	561	643	580	575	525	458	617	830	877	974	883
門司	500	690	590	540	462	328	240	453	500	570	792
若松	740	817	838	789	702	568	-	229	276	346	568
大神	740	817	838	789	702	568	-	229	276	346	568
大横濱	755	543	624	674	864	898	346	198	110	-	279
釜山	520	718	620	572	492	354	365	578	625	695	917
仁川	907	1,115	992	942	873	745	710	923	970	1,040	1,262

大連	1,063	1,250	1,180	1,130	1,290	901	860	1,073	1,120	1,190	1,412
青島	1,026	1,213	-	-	992	864	806	1,019	1,066	1,136	1,358
鎮南浦	986	-	1,120	1,070	952	824	806	1,019	1,066	1,136	1,358

備考

- 印ハ瀨戸内海通過
  - ◎ 印ハ津輕海峡通過
- 金華山鹽釜間ハ二十七哩

### 第三編 新潟港の入港船舶

#### 一、船舶

本港を起點終點若くは寄港地とする内外定期航路は川崎、北陸、兩汽船會社の浦鹽、朝鮮内地間、新潟佐渡兩汽船會社の經營に係る佐渡航路等を主とし單に本港を寄港地とする所謂定港船等不尠も是等は本港の地理的經濟的最も密接なる關係を有する北海道、樺太沿岸諸港並に大連港を聯絡する航路にして北日本汽船、島谷汽船の兩社に於て就航せるを見る、又本港が石炭、木材鑽石等の轉移入の爲め不定期船の入港するもの多く殊に是等船舶は大量貨物積載の關係上船型大にして外國船も亦不尠港内常に十餘隻投錨黒煙を吐けるは實に本港の偉觀たり

今昭和元年中に於ける入港汽船を見るに入港隻數一千六百三十二隻にして其の總噸數百三萬四千十四噸に達し入港一日平均四、五隻、二千八百三十三噸一隻平均噸數六百三十三噸に達する實狀にして之を過去五ヶ年間の統計に比すれば逐年著しく増加せり左に之が表を示せば

最近六ヶ年間入港船舶隻數並に噸數表

年別	隻數		備考
	噸數	隻	
大正十年	一二、九二三	四五七、〇八一	汽船帆船等一切を含む
全 十一年	八、四一二	五〇二、〇一八	全
全 十二年	九、〇八九	五七三、九五二	全
全 十三年	八、六六八	六六六、二八四	全
全 十四年	一、七六八	五八八、七二六	汽船
昭和元年	一、六三二	六二〇、四〇一	全

昭和元年中入港汽船隻數並二噸數別表

噸數別	月別												計	一ヶ月平均
	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月		
500噸未滿	48	64	84	86	107	93	98	77	76	71	59	57	920	77.0
1000 "	24	32	33	33	47	31	31	35	43	37	36	26	408	34.0
2000 "	6	5	15	15	13	24	27	27	25	23	24	18	222	18.0
3000 "	2	2	2	5	4	4	7	8	6	3	5	—	48	4.0
4000 "	—	—	3	4	4	2	—	2	1	2	3	2	23	2.0
4000噸以上	—	—	—	—	2	1	3	—	1	4	—	—	11	1.0
計	80	103	137	143	177	155	166	150	154	138	127	102	1,632	136.0
總噸數	36,055	50,434	73,182	77,823	103,308	93,107	117,352	113,109	109,610	102,442	94,750	62,842	1,034,014	86,167
一日平均入港隻數	2.6	3.4	4.5	4.7	5.9	5.0	5.5	5.0	5.0	4.5	4.2	3.3	—	4.5
一日平均噸數	1,202	1,881	2,439	2,594	3,444	3,104	3,912	3,770	3,654	3,305	3,158	2,095	—	2,833
一隻平均噸數	461	553	542	551	583	620	711	754	711	742	746	616	633	—



昭和元年中入港汽船繋留箇所調査表

月別	噸數入港場所	入港汽船總噸數	總噸數	縣埠頭		臨港會社埠頭		其他港內	
				隻數	總噸數	隻數	總噸數	隻數	總噸數
一月		80	36,055	—	—	20	15,495	60	20,560
二月		103	50,434	—	—	19	12,249	84	38,185
三月		137	73,182	—	—	20	14,449	117	58,733
四月		143	77,823	4	2,485	19	13,233	120	62,105
五月		177	103,308	7	8,198	17	12,441	153	82,669
六月		155	93,107	9	4,808	11	7,650	135	80,649
七月		166	117,352	3	1,110	25	21,063	138	95,179
八月		150	113,109	20	22,118	20	18,630	110	72,361
九月		154	109,610	18	21,441	25	19,640	111	68,529
十月		138	102,442	21	25,486	25	19,469	92	57,487

十一月	127	94,750	21	23,320	24	20,244	82	51,186
十二月	102	62,842	16	20,928	22	17,836	64	24,078
計	1,632	1,034,014	119	129,894	247	192,399	1,266	711,721
一ヶ月平均	136	86,167	12	14,432	20	16,032	105	59,310

備考 縣埠頭、四月一日ヨリ一般利用ス



新潟廻航定期船並重ナル定港航路船表

種別	船名	噸數		旅客收	寄港地	新潟發着日數	所屬汽船會社
		總噸數	登簿噸數				
定期船	昌福丸	一、七二三	一、〇二五	一等四室 二等一室 三等一室 五〇〇人	小樽、浦潮、七尾、伏木、新潟、船川、青森、函館	日二	川崎汽船
全	北成丸	一、二八一	七二六	二等二室 三等一室 三二一人	新潟、滑川、伏木、七尾、清津、雄基、浦潮、清津、七尾、伏木、新潟	日一	富山汽船
全	大成丸	一、八二五	一、一一一	一等四室 二等四室 三等四室 三七八人	仁川、大連、鎮南浦、仁川、群山、木浦、釜山、廣安、新舞鶴、敦賀、伏木、新潟、函館、小樽	日二	神谷汽船
全	長成丸	二、〇四四	一、二二一	一等三室 二等三室 三等三室 三七六人	大成丸ニ同ジ	全	全
全	長崎丸	六〇四	三四七	一等二室 二等二室 三等二室 一七二人	新潟、佐渡、直江津、小樽(壽都、岩内)	日一	長崎本汽船
全	海和丸	一、〇四五	六五〇	一等七室 二等六室 三等一室 二七九人	伏木、滑川、魚津、新潟、小樽、大泊、真岡	日一	小樽日本汽船
全	大國丸	二七六	一三八	一等一室 二等一室 三等三室 二七一人	新潟、兩津	往一日 復一日	新潟汽船

種別	船名	噸數		旅客收	寄港地	新潟發着日數	所屬汽船會社
		總噸數	登簿噸數				
全	佐第渡丸	二三〇	九六	一等一室 二等一室 三等二室 一〇八人	兩津、新潟	全	兩津渡商船
全	佐第一丸	九九	五五	二等一室 三等一室 二六八人	新潟、松ヶ崎、太田、赤泊、大石、小樽	三日	新潟濱商會
航定路船港	佐川丸	一、一六六	六七二	一等三室 二等二室 三等三室 三〇三人	伏木、七尾、魚津、滑川、石田、水橋、新潟、土崎、函館、釧路、厚岸、霧多布、根室		神谷汽船
全	春日丸	一、三七五	九六六	一等三室 二等二室 三等三室 三〇三人	佐川丸ニ同ジ	全	全
全	汕頭丸	一、〇〇三	五八八	三等一室 七七人	伏木、七尾、魚津、滑川、伏木、斗渡、新潟、小樽、大泊、本斗、真岡、野田、泊居		小樽日本汽船
全	真岡丸	一、二一七	八三九	—	汕頭丸ニ同ジ	全	全
全	能登呂丸	一、二二五	八七三	二等二室 三等一室 六六二人	汕頭丸ニ同ジ	全	全
全	大第運丸	九九七	六一三	一等一室 二八二人	伏木、七尾、魚津、滑川、水橋、佐渡、野田、泊居、イストル		大口阪船

全	全	全	全	全	全	全	全	全
香第 山九二	關第 西九一	米 山九	帝 海九	泰 福九	三 穗九	霧第 島九十	利第 洋九二	神 榮九
八 六五	四 八四	五 八五	一、 二二九	六 六七	五 一二	九 九三	九 九八	七 八八
五 一三三	二 七三	三 一二二	七 二一	三 八〇	二 九七	六 五八	六 〇〇	四 三五
三 等一室 一五 六八		二 等一室 一〇 二人		一 等二室 一四 七人	二 等二室 二六 人		三 等二室 三〇 六人	三 等一室 二五 人
新 潟、 上津、 雄基、 浦潮	新 潟、 釜山、 長崎、 鹿兒島	伏 木、 七尾、 魚津、 滑川、 石田、 水橋 新 潟、 土崎、 函館、 釧路、 厚岸、 霧多 布、 根室	伏 木、 七尾、 滑川、 魚津、 佐 渡、 新 潟、 船川、 小樽、 大泊 真 岡	三 穗九 二同 ジ	新 潟、 佐渡、 新 潟、 小樽、 壽 都、 岩 内	伏 木、 七尾、 魚津、 滑川、 佐 渡、 新 潟、 小樽、 大泊、 本 斗 真 岡	第 二大 運九 二同 ジ	第 二大 運九 二同 ジ
全	新 三 船 部	直 江 津 汽 船	本 伏 鄉 木 汽 船	澤 岩 口 內 汽 船	全	松 神 田 戶 商 事	全	全

全	全
北 佑九	浦 安九
一、 四五八	四 九九
八 二四	三 三六
三 等一室 一五 六八	二 等一室 一〇 二人
新 潟、 滑川、 伏木、 元山、 清 津、 上津、 雄基、 浦潮	新 潟、 小樽、 函館、 室蘭
北 富 陸 山 汽 船	新 桐 瀨 寅 吉

汽 船 尺 度 表

總噸數	別種	區別	長	巾	深	吃		水		摘 要
						滿	空	空	空	
500噸級		貨	164.74	24.88	16.66	14'-6"	6'-10"	本表ハ代表的船舶ノ尺度ノ平均ニヨルモノナリ		
		客	170.50	25.15	17.00	13-3	-			
1,000		"	203.89	31.15	19.50	15-6	7-2			
		"	184.75	31.25	18.50	16-7	-			
2,000		"	275.90	40.22	22.51	19-0	6-10			
		"	267.60	38.67	23.67	19-8	8-7			
3,000		"	315.51	43.26	26.63	22-0	8-10			
		"	330.00	42.70	28.20	23-2 $\frac{7}{8}$	-			
4,000		"	349.44	48.70	28.70	23-8	8-4			
		"	-	-	-	-	-			
5,000		"	396.20	51.25	30.55	24-8	8-8			
		"	405.00	51.33	30.83	23-3	-			

6,000	"	"	405.68	51.89	33.84	26-6	8-3
		"	430.38	49.44	34.20	25-10	-
7,000	"	"	445.00	58.00	34.00	26-5	9-0
		"	451.10	56.50	35.20	27-10	-
8,000	"	"	436.84	57.08	40.39	29-11	8-11
		"	468.50	56.60	34.80	27-5	-
10,000	"	"	-	-	-	-	-
		"	492.50	61.50	36.75	28-10	12-1
14,000	"	"	-	-	-	-	-
		"	561.00	65.20	34.70	27-8 $\frac{3}{8}$	18-3

汽 船 尺 度 表

登簿噸數	尺 度	長	幅	深	吃		水		摘 要
					滿	空			
300 噸 級	"	165.71 <sup>米</sup>	24.67 <sup>米</sup>	16.49 <sup>米</sup>	' 14 - 8	' 6 - 9	" 7 - 11	本表ハ代表的船舶ノ尺度ノ平均ニヨル	
500 "	"	194.44	29.82	18.11	' 16 - 6	' 8 - 4	"		
1,000 "	"	251.24	36.50	21.69	' 18 - 7	' 7 - 11	"		
1,200 "	"	276.57	38.97	23.26	' 19 - 3	' 8 - 1	"		
1,500 "	"	277.11	39.53	24.03	' 20 - 11	' 9 - 1	"		
1,700 "	"	310.30	41.44	23.08	' 21 - 7	' 8 - 6	"		
2,000 "	"	307.55	43.91	26.83	' 22 - 11	' 7 - 3	"		

2,500 "	"	347.18	48.24	29.11	' 23 - 8	' 7 - 8	"	
3,000 "	"	364.06	48.96	28.58	' 23 - 9	' 8 - 11	"	
4,000 "	"	406.65	53.04	36.05	' 27 - 7	' 8 - 6	"	
5,000 "	"	429.00	55.10	37.17	' 28 - 10	' 8 - 5	"	

### 第四編 新潟港の海運出入貨物の概況

#### 一、海運出入貨物

本港に於ける出入貨物は逐年増加の跡を辿れども尙港灣設備に缺くる處ありし爲め十分の驥足を延し得ざる底の憾ありしが去る大正十四年より新潟臨港株式會社の埠頭の一部利用せられ全十五年三月には縣市民が多年翹望せる本港修築工事完成し全年四月一日より縣營埠頭の一般利用を開始せし爲め從來本港に於ける荷役關係に革新的衝動を興へ營業者の利益益々擧がり港勢日に盛んなり。

而して昭和元年中に於ける出入貨物の状況を見るに輸移出噸量十三萬八千餘噸、輸移入噸量六十九萬八千餘噸合計八十三萬七千餘噸に達する盛況にして之れを大正十年の總量四十七萬九千噸に對比せば實に三十五萬八千噸即ち四二「パーセント」の増加にして躍進の跡歴然たるものあり、左に大正十年より昭和元年に至る間に於ける之が數量を擧ぐれば

最近六ヶ年間輸移出入貨物噸量並に價格表

年別	輸移出入		貨物價格
	噸量	噸價格	
大正十年	四七九、八四六	三六、七四二、三二九	
全 十一年	四九三、九三〇	三四、二三九、五七七	
全 十二年	六七九、二二八	四八、五六三、五六四	
全 十三年	七〇九、七六五	四四、二六八、五四〇	
全 十四年	八二六、七四七	三六、八八一、二一四	
昭和元年	八三七、〇〇八	四〇、二〇三、二五〇	

## 昭和元年中新潟港輸移出入貨物噸量並に價格月別表

月別	輸 移 出		輸 移 入		計	
	噸 量	價 格	噸 量	價 格	噸 量	價 格
一 月	8,400	718,957	35,650	1,650,688	44,050	2,069,645
二 月	10,108	786,677	35,080	1,752,694	45,188	2,224,765
三 月	10,374	762,880	53,254	2,711,652	63,628	2,914,532
四 月	8,203	1,462,702	60,855	2,011,887	69,058	4,649,195
五 月	7,729	1,361,865	62,061	2,703,969	69,790	4,065,834
六 月	18,747	1,699,742	56,022	1,669,325	74,769	3,369,067
七 月	12,599	1,036,050	76,038	2,445,955	88,637	3,482,005
八 月	9,717	861,942	70,765	2,067,063	80,482	2,929,005
九 月	13,927	1,138,292	68,401	2,845,244	82,328	4,033,536
十 月	15,593	1,728,702	59,434	2,099,633	75,029	3,828,335

十一月	14,394	1,508,058	69,939	2,377,033	84,333	3,885,091
十二月	8,356	945,547	51,362	1,806,576	59,718	2,752,123
計	138,149	14,061,414	698,861	26,141,719	837,010	40,203,133

二、外國諸港との關係

昭和元年中本港に於ける外國各港間の輸出入海運貨物は輸入量に於ては大連の六萬八千餘噸を筆頭とし浦潮、沿海州、北米、營口等孰れも一萬噸以上の輸入量を示し其他諸港を合して之が數量十五萬二百七十七噸に達するも輸出は之に反し僅に沿海州其他合計四千六百六十九噸にして實に不振なりと謂はざるべからず、左に本港對關係港灣間の集散狀況を示せば

自大正十五年十二月  
至昭和元年十二月 本港對外國港灣輸出入貨物噸量並ニ價格表

地名	出入別		輸 入		輸 出		輸 入 合 計	
	噸數	價格	噸數	價格	噸數	價格	噸數	價格
露領亞細亞	浦 潮	343	23,216	20,789	1,393,742	21,132	1,416,958	
	沿 海 州	3,701	318,237	14,362	1,145,205	18,063	1,463,442	
支 那	營 口	0	0	12,761	596,860	12,761	596,860	
	天 津	0	0	1,285	134,904	1,285	134,904	
太 洋 州	マカビラ	0	0	5,192	174,876	5,192	174,876	
	クリスアール	0	0	6,268	194,355	6,268	194,355	

佛領印度	輸 入		輸 出		輸 入 合 計		
	噸數	價格	噸數	價格	噸數	價格	
關 東 州	カソフ	0	0	1,300	29,900	1,300	29,900
	鴻 基	0	0	1,700	25,500	1,700	25,500
米 國	大 連	125	29,378	68,878	3,960,533	69,003	3,989,911
	ゴートラソフ	0	0	17,741	461,287	17,741	461,287
其 他 諸 國	0	0	1	725	1	725	
輸 出 入 計	4,169	370,831	150,277	8,117,887	154,446	8,488,718	

自明治四十五年 十五箇年間外國貿易調  
至大正十五年

種別	輸 入				輸 出				輸出入總合計					
	普通貿易 噸數	價格	漁業貿易 噸數	價格	計 噸數	價格	普通貿易 噸數	價格	計 噸數	價格				
明治 45年	35,433	1,783,288	5,327	500,135	40,760	2,283,423	206	26,337	2,551	80,690	2,757	107,027	43,517	12,390,450
大正 2年	73,260	2,619,378	5,826	528,078	79,086	3,147,456	14	9,538	4,170	121,539	4,184	131,077	83,272	3,278,533
3	34,373	1,243,325	6,097	471,297	40,470	1,714,622	102	12,662	5,878	197,900	5,980	210,562	46,450	1,925,184
4	16,367	311,425	5,957	712,694	22,321	1,024,119	660	34,823	7,175	215,247	7,835	250,070	30,159	1,274,189
5	17,991	312,260	4,808	434,288	22,799	746,548	12,530	1,562,488	9,313	274,941	21,843	1,857,423	44,642	2,603,977
6	3,204	200,044	5,754	723,220	8,956	623,264	1,185	932,293	9,296	347,783	10,471	1,280,076	19,642	2,211,874
7	3,430	364,366	6,605	1,355,781	10,035	1,730,150	3,770	963,486	4,461	567,136	8,231	1,530,625	18,266	3,260,775
8	5,906	471,119	6,140	1,478,919	12,046	1,950,036	7,721	787,153	3,081	885,719	10,802	1,572,872	22,848	3,522,910
9	11,581	795,879	8,622	1,151,633	20,503	1,794,512	6	627,599	8,815	1,041,210	8,821	1,668,639	29,324	3,616,351
10	13,197	1,302,602	9,605	1,361,555	22,802	2,664,157	3,955	154,314	2,567	648,702	6,522	803,016	29,324	3,467,173
11	18,775	2,185,530	7,596	1,239,703	26,371	3,485,233	4,485	148,373	4,613	595,771	9,096	744,144	35,465	4,229,377
12	31,679	2,891,345	7,269	1,280,845	38,948	4,172,190	1,298	46,335	3,877	569,779	5,175	616,114	44,123	4,788,304

13	93,004	5,435,406	7,150	1,432,391	100,154	6,867,797	1,446	179,230	1,371	320,615	2,817	499,815	102,971	7,367,612
14	98,041	6,534,482	6,351	1,423,749	104,398	7,958,231	646	284,253	4,031	328,084	4,677	612,347	109,075	9,570,578
15	140,174	7,095,754	10,103	1,022,133	150,277	8,117,887	216	51,137	3,953	319,694	4,169	370,831	154,446	8,488,718



自明治四十五年 至大正十五年 十五箇年間新潟浦潮間輸出入貨物調

種別	輸 入				輸 出				價格計
	品名	數量	價格	計	品名	數量	價格	計	
明治 45年	豆 糲	2,882	9,542	225	野 菜	116,451	3,236	44,793	13,169
	米 糲	1,987	1,117	240	果 實	52,526	10,198	63,887	2,539
大正 2"	穀 類	75	184	1,827	野 菜	24,512	2,197	22,500	840
	鹽 餅	118,737	3,173	1,827	醬 油	19,791	5,687	11,495	450
3"	米 糲	1,033	883	4,150	野 菜	120,959	7,869	11,700	3,445
	鹽 餅	115,800	2,280	1,300	果 實	5,658	469	43,580	1,065
4"	鹽 餅	102,225	2,044	2,044	果 實	14,455	1,430	5,085	1,525
	鹽 餅	18,963	57,870	245	醬 油	2,549	764	16,272	1,260
5"	鹽 餅	12,000	2,640	528	白 米	75	495	1,060	28
	鹽 餅	12,000	2,640	61,438	白 米	375	80	228,250	58,075
6"	無			0	白 米	75	495	1,060	28
	無			0	白 米	375	80	228,250	58,075

7"	毛 皮	45	69	264	石 油	55,529	39,233	689,240	199,022	238,433	295,923
	牛 糲	9,239	50,813	0	果 實	178	811	3,060	1,639	472,927	479,475
8"	鹽 餅	12,000	600	69,440	果 實	470,477	470,477	3,060	1,639	472,927	479,475
	鹽 餅	83,600	4,395	5,952	無					0	4,395
9"	無			4,395	無					0	4,395
	無			0	無					0	4,395
10"	無			0	無					0	4,395
	無			0	無					0	4,395
11"	豆 糲	20,838	108,720	108,720	食 鹽	160	670			670	109,390
	豆 糲	70,500	335,000	729,996	食 鹽	185,000	7,409			7,409	410,045
12"	生 鮮	10,152	846	66,790	食 鹽	141,500	5,522			5,522	1,699,606
	豆 糲	266,765	1,402,240	1,35,885	食 鹽	141,500	5,522			5,522	1,699,606
13"	松丸太	15,973	123,741	344,520	無						409,714
	豆 糲	46,000	260,000	17,273	無						409,714
14"	煙製鮭	11	360	75	無						409,714
	豆 糲	13,529	1,063,148	24,130	食 鹽	253	1,473	90	21,743	23,216	1,416,956
15"	鹽 餅	1,319	110,057	220,537	食 鹽	253	1,473	90	21,743	23,216	1,416,956
	鹽 餅	1,319	110,057	220,537	食 鹽	253	1,473	90	21,743	23,216	1,416,956

三、内地各港との關係

昭和元年中本港對内地各港間の移出入海運貨物の分布地域は佐渡日本海沿岸を始め東北は北海道樺太より西南は朝鮮、臺灣、九州、四國本州西部等に亘り其の數百餘港に達し茲に枚舉に遑あらずと雖も就中北海道樺太沿岸、佐渡等を最も濃密なりとす。

又集散量に於ては小樽の十六萬七千餘噸を最多とし函館佐渡等相次ぐ而して本年中に於ける移入噸量五十四萬八千五百八十三噸移出十三萬三千九百七十九噸合計六十八萬二千五百六十二噸に達す左に本港對内地各港灣間の集散狀況を示せば

"	片上	0	0	2,379	90,203	2,379	90,203
	西戸崎	0	0	4,186	90,836	4,186	90,836
"	鹿兒島	998	82,740	0	0	998	82,740
	長崎	500	41,000	491	16,940	991	57,940
"	箱島	0	0	1,946	28,511	1,946	28,511
臺灣	基隆	0	0	13,176	729,783	13,176	729,783
	臺南(鹽)	0	0	1,914	83,450	1,914	83,450
朝鮮	釜山	2,487	199,673	0	0	2,487	199,673
	鎮南浦	77	2,195	1,202	32,369	1,213	34,564
"	雄基	8	180	797	18,805	805	18,985
	其他諸港	3,325	2,221,244	15,395	595,080	18,720	2,816,324
	移出入計	133,979	13,69,700	548,583	18,023,832	602,562	31,714,532

自大正十五年十二月 至昭和元年十二月 本港對內地各港移出入貨物噸量並二價格表

地名	出入別 港名	移出		移入		移出入合計	
		噸數	價格	噸數	價格	噸數	價格
北海道	樽館	25,659	2,689,724	141,351	3,973,908	167,010	6,663,632
	小樽	24,404	2,116,132	58,456	2,807,712	82,860	4,923,844
"	室蘭	1,087	126,261	11,163	291,453	12,250	417,714
	釧路	1,741	208,190	7,834	173,638	9,575	381,828
"	根室	6,681	1,196,498	804	81,421	7,485	1,277,919
	古平	2,525	573,508	1,369	186,155	3,894	759,663
"	江差	1,800	350,869	1,977	166,770	3,777	517,639
	瀨棚	686	51,075	2,737	301,948	3,423	353,023
"	幌武意	0	0	1,269	147,839	1,269	147,839
	壽都	1,202	226,127	29	3,290	1,231	229,417
"	岩内	831	104,369	324	24,326	1,155	128,695
	樺太南部	0	0	130,674	2,614,170	130,674	2,614,170
"	東西海岸	4,014	405,153	4,306	202,366	8,320	607,519
	大泊	2,640	462,709	1,232	48,977	3,872	511,686
"	真斗	705	63,028	1,500	30,000	2,205	93,028
	本居	269	16,857	1,634	28,909	1,903	45,766
"	泊野	190	16,864	976	19,520	1,166	36,384
	佐郡	30,742	1,500,022	62,050	2,671,911	92,792	4,171,933
新瀉縣	岩船郡	0	0	12,051	231,352	12,051	231,352
	下ノ關	19,066	996,550	0	0	19,066	996,550
本州四國九州	片山	0	0	5,483	189,164	5,483	189,164
	坂出	0	0	10,553	460,111	10,553	460,111
"	瀨戶田	0	0	2,675	116,630	2,675	116,630
	高松	0	0	4,840	211,024	4,840	211,024
"	三田尻	0	0	6,373	277,863	6,373	277,863
	門司	2,408	39,732	4,809	199,098	7,217	238,830
"	博多	0	0	2,179	95,004	2,179	95,004
	三角	0	0	2,270	215,301	2,270	215,301
"	三松	0	0	25,979	567,933	25,979	567,933
	片上	0	0	2,579	90,265	2,579	90,265
"	西戶崎	0	0	4,186	90,836	4,186	90,836
	鹿兒島	998	82,740	0	0	998	82,740
"	長崎	500	41,000	491	16,940	991	57,940
	箱島	0	0	1,946	28,511	1,946	28,511
臺灣	基隆	0	0	13,176	729,783	13,176	729,783
	臺(鹽)	0	0	1,914	83,450	1,914	83,450
朝鮮	釜山	2,487	199,673	0	0	2,487	199,673
	鎮南浦	77	2,195	1,202	32,369	1,213	34,564
"	雄基	8	180	797	18,805	805	18,985
	其他諸港	3,325	2,221,244	15,395	595,080	18,720	2,816,324
	移出計	133,979	13,69,700	548,583	18,023,832	682,562	31,714,532

昭和元年中本港對各港間輸移出入貨物噸數量並二品種別表

港名	種別	輸移出噸數		港名	種別	輸移入噸數	
		品	種			品	種
浦潮		三四三		全上	二〇、七八九	鹽、松材、大豆粕	
沿海州		三、七〇一	漁業用品	全上	一四、三六二	鮮魚、鹽、鹽、筋子、松材	
營口		—		全上	一二、七六一	石炭、大豆粕	
マカピア		—		全上	五、一九二	燐礦石	
クリスマスアンガ		—		全上	六、二六八	燐礦石	
大連		—		全上	六八、八七八	石炭、銑鉄、食鹽、大豆、小豆、大豆粕、穀	
ポトランス トクレー ハーパー		—		全上	一七、七四一	米材	

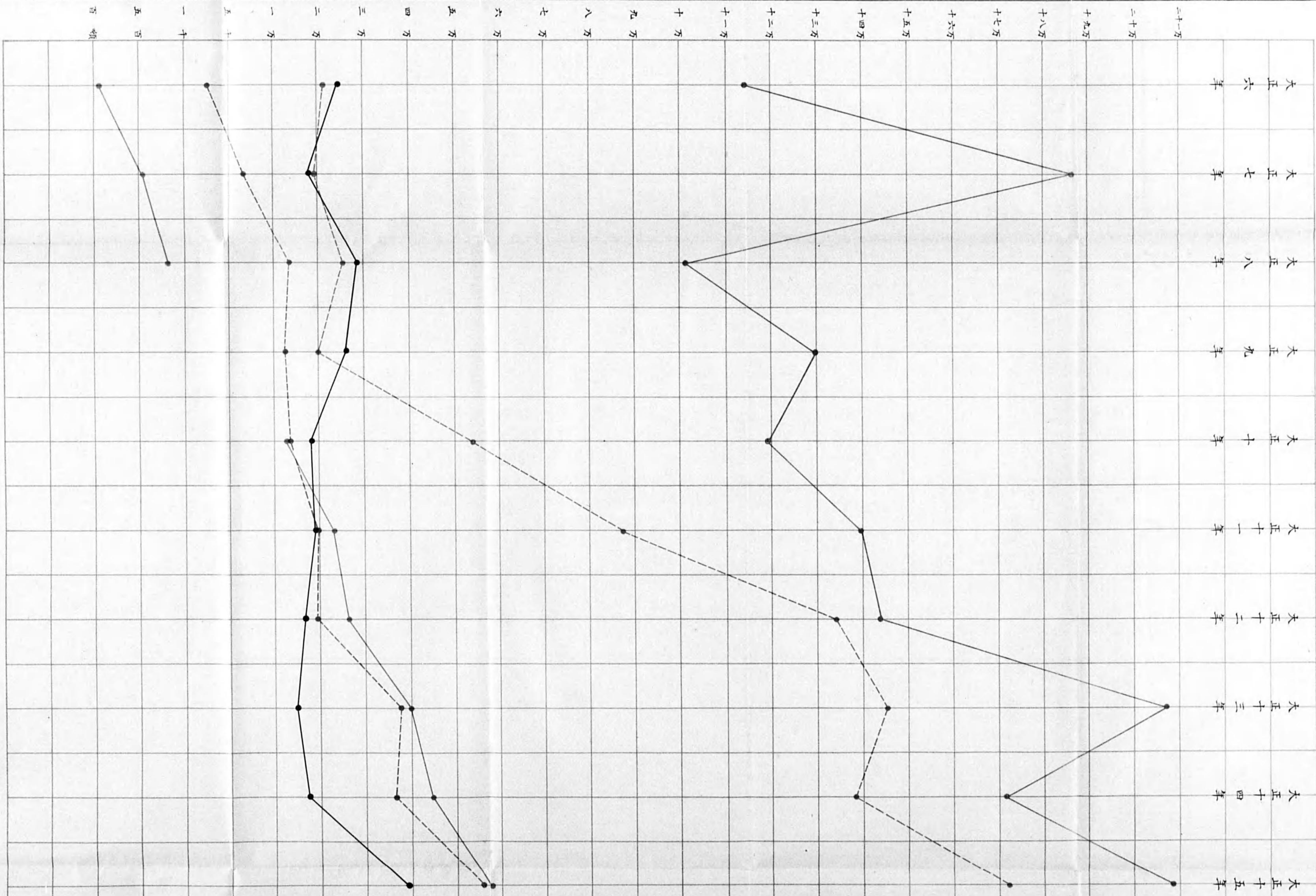
樺太沿岸	瀨棚	江差	古平	根室	釧路	室蘭	函館	小樽
—	六八六	一、八〇〇	二、五二五	六、六八一	一、七四一	一、〇八七	二四、四〇四	二五、六五九
—	藁繩、疊	白米、其他雜貨	白米、其他雜貨	白米、輕油、機械礦油	白米、其他雜貨	白米、果實	白米、蔬菜、果實、藁繩、裏紙、白米粉、板紙、石油、輕油、揮發油、硫酸、單和酒、空樽、雜貨	白米、蔬菜、果實、藁繩、裏紙、白米粉、石油、輕油、機械油、揮發油、硫酸、單、空樽、塗器、味噌、雜貨
全上	全上	全上	全上	全上	全上	全上	全上	全上
三三〇、六七四	二、七三七	一、九七七	一、三六九	八〇四	七、八三四	一一、一六三	五八、四五六	一四二、三五二
松材	大豆、雜豆	雜豆	身欠鮭、其他海產物	魚、粕、其他海產物	石炭、其他雜貨	石炭、コークス、銑鉄	乾魚、鹽魚、魚、粕、大豆	石炭、コークス、製板、木炭、魚、粕、小豆、雜豆、澱粉、菜種、精糖、雜貨

三田尻	高松	坂出	片山	下ノ關	岩船郡	佐渡郡	真岡	大泊
—	—	—	—	一九、〇六六	—	三〇、七四二	二、六四〇	四、〇一四
—	—	—	—	石油、輕油、機械油、揮發油	—	白米、外米、果實、麵類、精糖、白麥、セメント、石油、機械油、金物、食鹽、製板、人肥、過磷酸石灰、綿反物、製綿空樽、雜貨	白米、其他雜貨	白米、果實、機械礦油、疊
全上	全上	全上	全上	全上	全上	全上	全上	全上
六、三七三	四、八四〇	一〇、五五三	五、四八三	—	一一、〇五一	六二、〇五〇	一、二二二	四、三〇六
食鹽	食鹽	食鹽	燐礦石	—	杉材、木炭、薪	魚、蒲、鮭、佃煮、魚、粕、白米、玄米、鹽、生油、空樽、雜貨	松材、其他	松材、鹽鱈

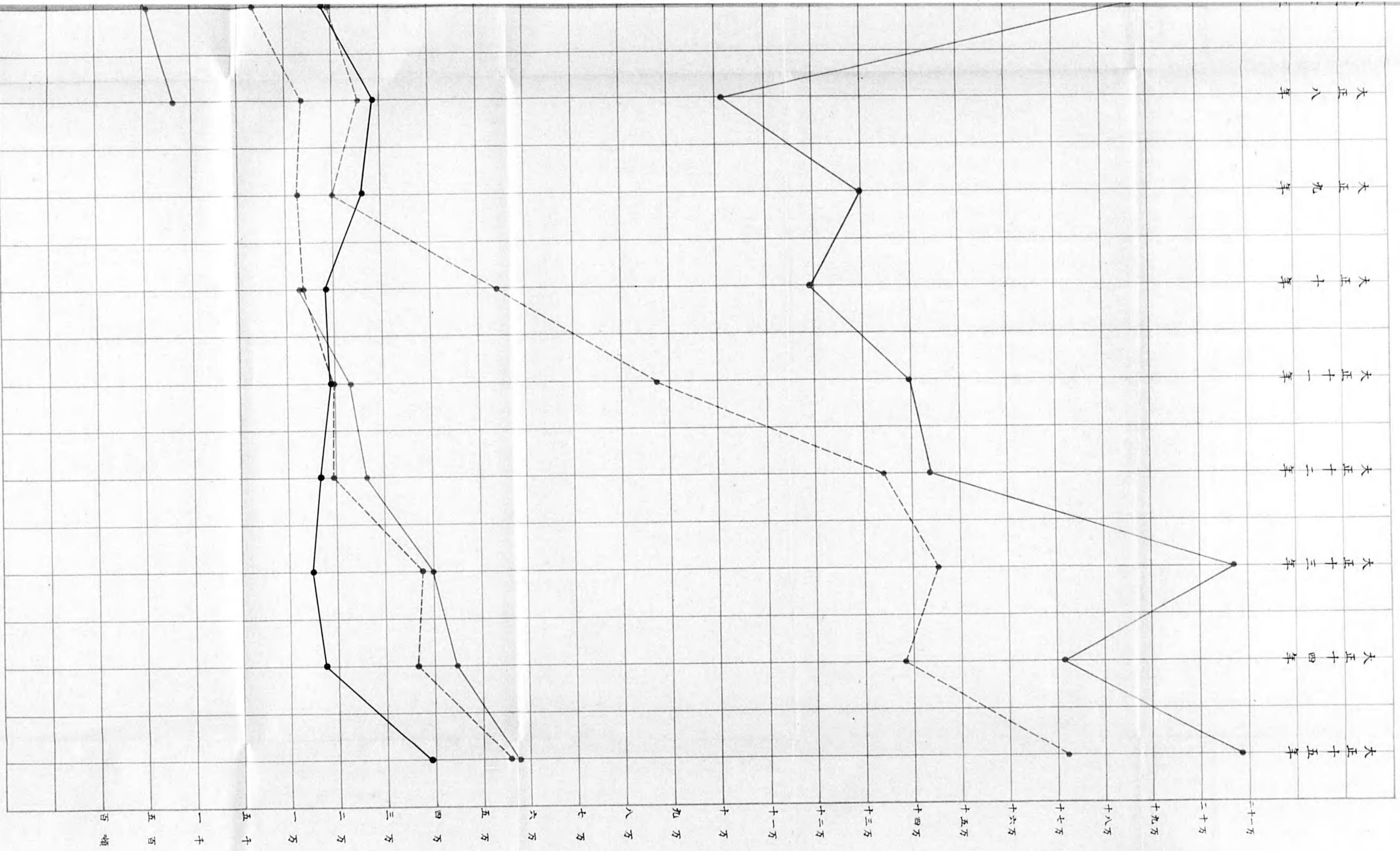
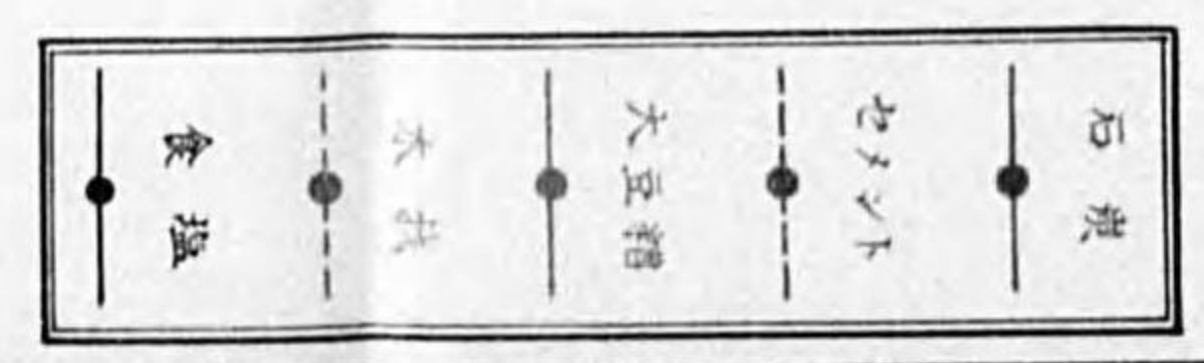
其他諸港	基隆	西戶崎	若松	門司
三、三二五	—	—	—	二、四〇八石膏
白米、蔬菜、白玉粉、麵類、硫 酸、鹽、和酒、味噌、漬物、其 他雜貨	—	—	—	
全上	全上	全上	全上	全上
一五、三九五	一三、一七六	四、一八六	二五、九七九	四、八〇九
食鹽、其他雜貨	原油、石油	石炭	石炭、礫石	セメント、九釘、麥酒

備考

- 一、本表ハ輸移出入共年三千噸以上ノ港名ナリ
- 二、品種ハ一種年三百噸以上ノモノヲ記ス



# 新潟港輸移入貨物重要品噸量年別表





昭和元年中本港對各港間輸移出入貨物品種噸量並二港別表

品種別	輸移出		品種別	輸移入	
	噸量	港名		噸量	港名
白玉粉	二、三九二	大連、小樽、函館其他港	石炭	二〇八、九七〇	大連、營口、カンファア、小樽、若松、室蘭、釧路、西戶崎、三池、鎮南浦、浦ノ先、今福、伊萬里、七尾
野菜	二、〇四五	オホツク、小樽、函館、釧路、佐渡、其他港	燐礦石	一七、八二〇	クリスマスアンガール島、マカビヤ、片山、大阪、長崎、若松
印刷用紙	二一三	浦潮、大連	銑鉄	一、二八一	大連、室蘭、鎮南浦
食鹽	二、三七八	浦潮、佐渡	燒玉	一	ロンドン
漁業用品	三、七二七	オホツク、カムチャツカ、其他港	原油	一一、七六三	オホーツク、基隆
白米	二〇、九一〇	小樽、函館、釧路、壽都、常呂、古平、東知取、霧多布、惠順取、泊居、根室、美濃、厚岸、室蘭、大泊、江差、真岡、佐渡、國	食鹽	三九、一一三	大連、坂出、三田尻、瀬戸田、高松、博多、臺灣、其他港
玄米	三七〇	根室、其他港	鮮魚	二、九九三	カムチャツカ、オホーツク、佐渡、其他港

糯白米	三二九	小樽、其他港	薯蕷	一、四二五	小樽、函館、其他港	精糖	三八四	佐渡	黑砂糖	四五四	佐渡	蔬菜	三〇八	大連、小樽、其他港
臺灣米	一三九	諸港	菓實	七、四五二	小樽、函館、釧路、佐渡、根室、室蘭、大泊、真岡、其他港	板紙	一、三八二	小樽、函館、其他港	赤砂糖	二一	佐渡	鹽鱈	二、六二一	カムチャツカ、函館、小樽、大泊、オホーツク、其他港
外米	四〇二	佐渡、其他港	菓實	九、九五四	小樽、函館、瀨棚、佐渡、其他港	米糠	一〇四	函館	麵類	六九三	佐渡、其他港	鹽鯨	八、四七七	カムチャツカ、函館、小樽、稚谷、オホーツク、大泊、其他港
大豆	八二	佐渡	雜豆	三一	佐渡	米紙	一七、七四一	ポトランド、グレースハーバー	烏卵	一	青島、大連	筋子	一、七五六	カムチャツカ、函館、其他港
小豆	六	佐渡	大豆	六	四八七	大豆粕	五七、七二五	浦潮、大連、營口	牛肉	一八	大連、青島、佐渡	鹽鯨	一、三一九	浦潮
菓實	七、四五二	小樽、函館、釧路、佐渡、根室、室蘭、大泊、真岡、其他港	小豆	一、一〇三	大連、小樽、瀨棚、其他港	骨粉	二、〇八九	天津、大連	外米	七	大連、函館	落花生	一	大連
菓實	九、九五四	小樽、函館、瀨棚、佐渡、其他港	荳蔻	三、二三九	大連、鎮南浦	小鳥	一	マカピア	蔬菜	三〇八	大連、小樽、其他港	荳蔻	二、四	大連
菓實	七、四五二	小樽、函館、釧路、佐渡、根室、室蘭、大泊、真岡、其他港	荳蔻	三、二三九	大連、鎮南浦	小鳥	一	マカピア	蔬菜	三〇八	大連、小樽、其他港	荳蔻	二、四	大連

糯白米	三二九	小樽、其他港	薯蕷	一、四二五	小樽、函館、其他港	精糖	三八四	佐渡	黑砂糖	四五四	佐渡	蔬菜	三〇八	大連、小樽、其他港
臺灣米	一三九	諸港	菓實	七、四五二	小樽、函館、釧路、佐渡、根室、室蘭、大泊、真岡、其他港	板紙	一、三八二	小樽、函館、其他港	赤砂糖	二一	佐渡	鹽鱈	二、六二一	カムチャツカ、函館、小樽、大泊、オホーツク、其他港
外米	四〇二	佐渡、其他港	菓實	九、九五四	小樽、函館、瀨棚、佐渡、其他港	米糠	一〇四	函館	麵類	六九三	佐渡、其他港	鹽鯨	八、四七七	カムチャツカ、函館、小樽、稚谷、オホーツク、大泊、其他港
大豆	八二	佐渡	雜豆	三一	佐渡	米紙	一七、七四一	ポトランド、グレースハーバー	烏卵	一	青島、大連	筋子	一、七五六	カムチャツカ、函館、其他港
小豆	六	佐渡	大豆	六	四八七	大豆粕	五七、七二五	浦潮、大連、營口	牛肉	一八	大連、青島、佐渡	鹽鯨	一、三一九	浦潮
菓實	七、四五二	小樽、函館、釧路、佐渡、根室、室蘭、大泊、真岡、其他港	小豆	一、一〇三	大連、小樽、瀨棚、其他港	骨粉	二、〇八九	天津、大連	外米	七	大連、函館	落花生	一	大連
菓實	九、九五四	小樽、函館、瀨棚、佐渡、其他港	荳蔻	三、二三九	大連、鎮南浦	小鳥	一	マカピア	蔬菜	三〇八	大連、小樽、其他港	荳蔻	二、四	大連
菓實	七、四五二	小樽、函館、釧路、佐渡、根室、室蘭、大泊、真岡、其他港	荳蔻	三、二三九	大連、鎮南浦	小鳥	一	マカピア	蔬菜	三〇八	大連、小樽、其他港	荳蔻	二、四	大連

穀	藍玉	茶	煙草	鑛詰	活馬	石炭	コークス	セメ ト(大樽)
八五	三	四	一一七	四	一六	二五	五	一一、二八八
佐渡	佐渡	佐渡	佐渡	諸港	佐渡	佐渡	佐渡	佐渡
毛皮	雜貨	コークス	礪石	礪石	セメ ト(大樽)	全 (中樽)	全 ( $\frac{1}{3}$ )	全 ( $\frac{1}{4}$ )
一	一〇、五三八	一、六八七	二〇三	一、五四五	四八、三三二	五〇	八二四	六、三八九
オホーツク、カムチャツカ	オホーツク、小樽、函館、佐渡、カムチャツカ、其他港	小樽、室蘭	若松	若松	函館、門司、水俣、津久見、三	門司	門司、函館	門司、函館

全 ( $\frac{1}{4}$ )	石油	輕油	揮發油	機械礦油	重油	除虫油	硫酸	石膏
二七	四、〇五七	一六、一六七	一、五四五	一六、二二二	一三〇	一八七	七〇五	三、七四五
佐渡	小樽、函館、下ノ關、佐渡、其他港	小樽、函館、岩内、釧路、鹿兒島、下ノ關、長崎、大泊、真岡、其他港	小樽、下ノ關、佐渡、其他港	小樽、函館、釧路、鹿兒島、下ノ關、長崎、釜山、佐渡、根室、本斗、大泊、真岡、其他港	諸港	下ノ關、佐渡	小樽、其他港	函館、門司
石粉	石油	硫曹	硫及鉄化	丸釘	鉄材	杉材	朴桂材	栗材
一、三一八	一、四一五	七三七	二、五七九	四九七	一〇	三、二〇五	九九	一、〇三八
箱島、岩内	基隆	七尾	片山	門司、若松	佐渡	岩船郡、佐渡、船川、根津、江差、其他港	諸港	佐渡

鯉節	數ノ子	身欠鮓	乾魚	筋子	鹽魚	鹽鱒	鹽鮭	鮮魚
四	六	一一	二八	二一	一九	二三三	五二	一八
佐渡	佐渡	佐渡	佐渡	諸港	佐渡	佐渡	佐渡	佐渡
鹽魚	乾魚	貝柱	棒鱈	鱈ノ子	數ノ子	粒鮓	身欠鮓	薪
五七二	一、一四三	四九	二五九	六二五	三七一	一五三	一、五七七	七、四二〇
函館、小樽、其他港	函館、小樽、古平、佐渡、其他港	諸港	函館、小樽、其他港	函館、小樽、岩内、其他港	函館、小樽、其他港	小樽、函館	函館、小樽、古平、其他港	岩船郡、佐渡、其他港

諸機械類	亞鉛板	金物	丸釘	銅材	鉄材	白土	硝子板	石材
六三	一〇	六四七	一一	三	五八	三四	四三	七
諸港	佐渡	佐渡、其他港	佐渡	佐渡	佐渡	小樽	佐渡	佐渡
木炭	箆	クラフト紙	バルブ	竹材	輪竹	下駄木	製板	桐材
四〇、三七二	一九	三一	二、六三〇	二、〇二八	一四八	一二一	八九〇	一、〇〇九
佐渡、岩船郡、小樽、函館、雄基、其他港	佐渡	泊居、大泊	泊居、箱島、真岡、能登呂、其他港	佐渡	佐渡	小樽、佐渡	小樽、佐渡、真岡、其他港	佐渡、瀬棚

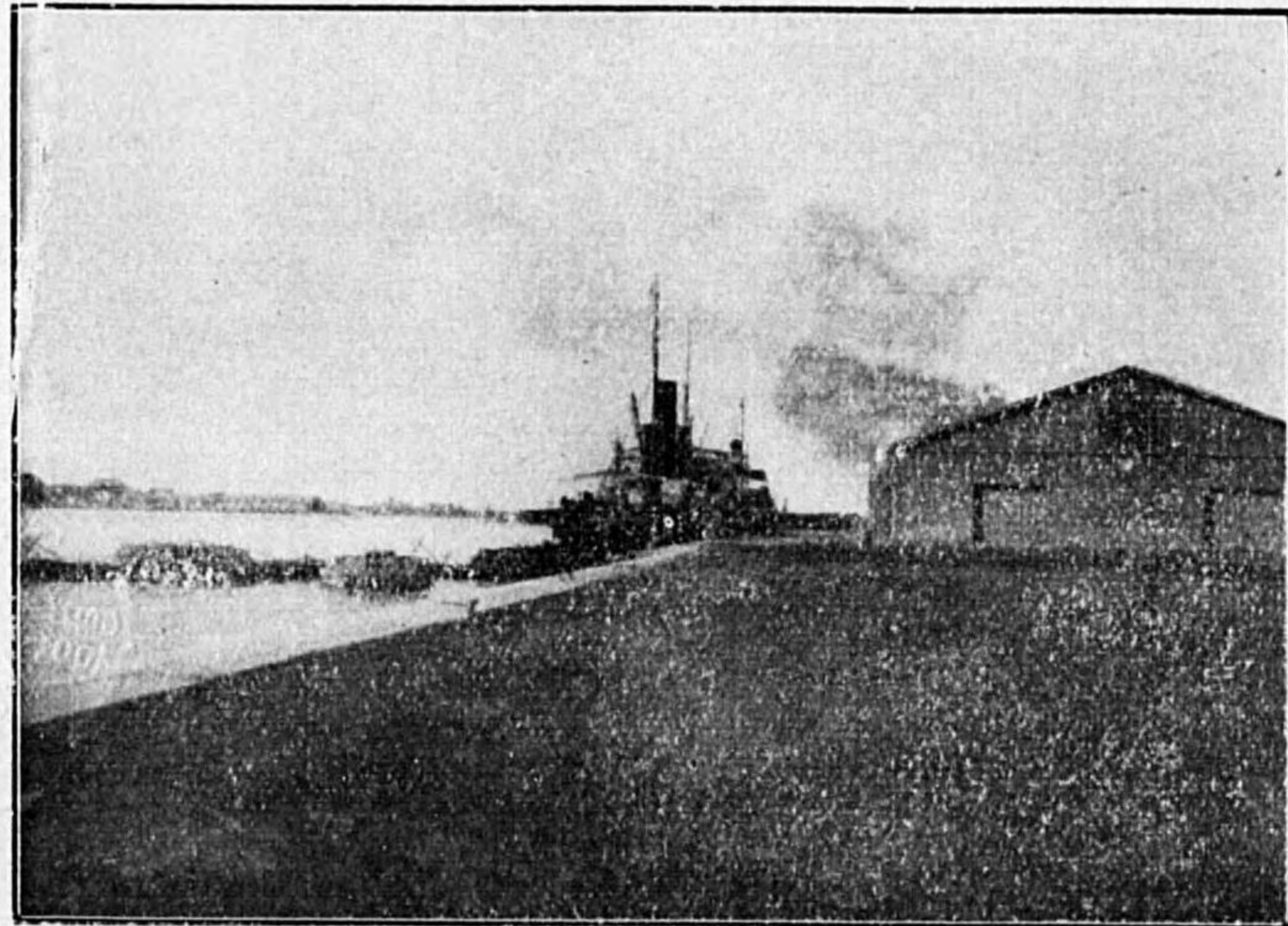
洋紙	和紙	箴	輪竹	竹材	製板(松)	松丸太	罐詰	昆布
四四九	五五	一一	六一	四五	一、二四二	八四	一九	三五
小樽、其他港	諸港	諸港	諸港	諸港	佐渡、其他港	佐渡	諸港	佐渡
魚油	佃煮	鯉節	蒲鉾	罐詰	海產雜種	錫	海草	昆市
一〇七	三八四	一	四〇六	二五三	二八	二八四	二四三	四一
佐渡	佐渡	佐渡	佐渡、其他港	根室、其他港	諸港	函館、其他港	函館、其港	函館、根室、其他港

塗器	建具	疊床	疊表	疊	箴筒	人肥(雜)	大豆粕	過磷酸石灰
二六三	一九	九五	九六	五、一一	一、一二三	六七九	五二	一、三一七
小樽、其他港	諸港	小樽、函館、其他港	諸港	小樽、函館、瀨棚、大泊、江差、真岡、其他港	小樽、函館、大泊、其他港	佐渡	佐渡	佐渡、其他港
麵類	澱粉	雜豆	麥	糯白米	玄米	白米	硫酸アンモニア	魚粕
八七	七八三	五、四六五	三二	三七	三、二一〇	八二六	一、〇五九	六、六三一
諸港	小樽、釧路	小樽、函館、瀨棚、江差、其他港	函館	尾	佐渡	佐渡	三角	函館、小樽、佐渡、幌、武意、古平、根室、大泊、真岡、其他港

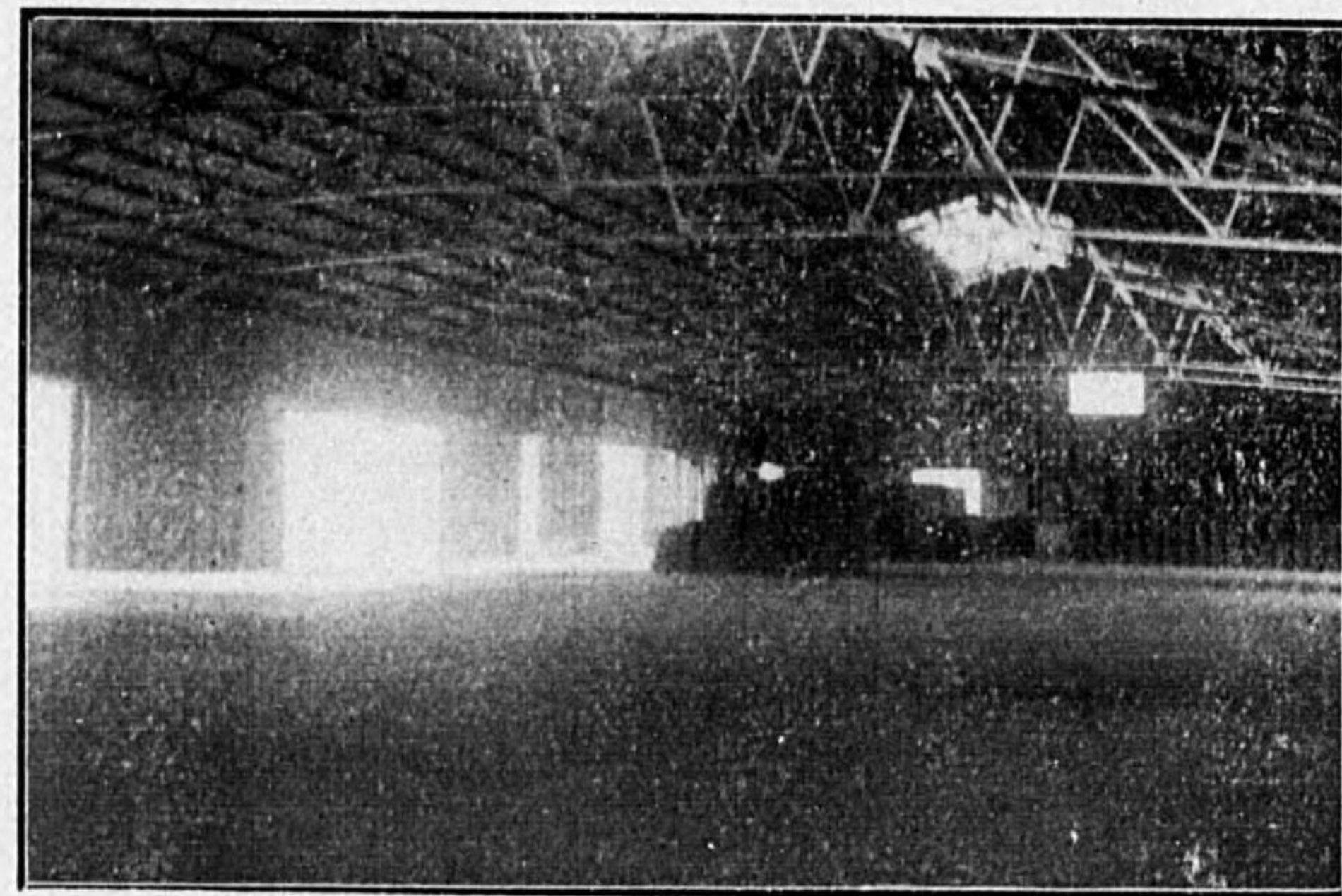
蠟燭	二三九	小樽、其他港
和酒	一、五〇九	佐渡、小樽、函館、江差、其他港
麥酒	二九四	佐渡
葡萄酒	二四九	小樽、其他港
味噌	一、二二五	小樽、函館、其他港
醬油	五四二	函館、佐渡、其他港
燒酎	二九九	諸港
酢	二七二	諸港
和洋菓子	一六六	佐渡、其他港
麥酒	七八五	門司
味噌	一一五	佐渡、其他港
醬油	二七	諸港
空樽空箱	三三二	佐渡

陶器	四五七	佐渡、其他港
佛壇	二四	諸港
和傘	一六〇	諸港
下駄荷	五八	諸港
綿反物	五八四	佐渡、其他港
綿糸	三七	諸港
製綿	三三一	佐渡、其他港
足袋	二一	諸港
燐寸	二一	諸港
蕎麥	五二	諸港
果實	二〇	諸港
菜種	三七八	小樽、諸港
精糖	三二四	小樽
黑砂糖	二五	佐渡
鹽叭	二、七四六	佐渡
生繭	六七二	佐渡
活牛馬	二七三	佐渡
和酒	五四	佐渡、其他港

北埠頭ニ於ケル岸壁荷役ノ狀況

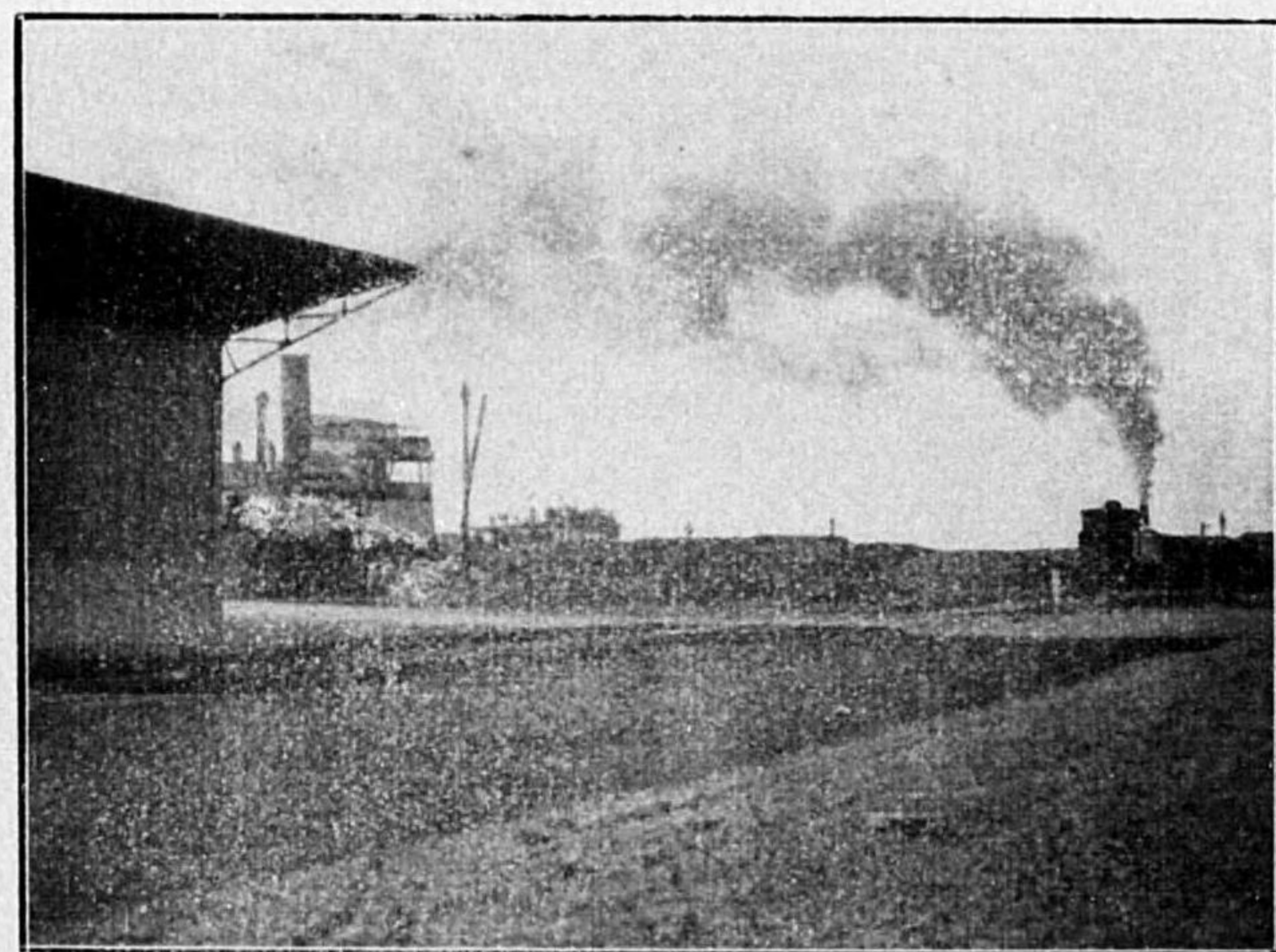


北埠頭上屋内部ノ實況

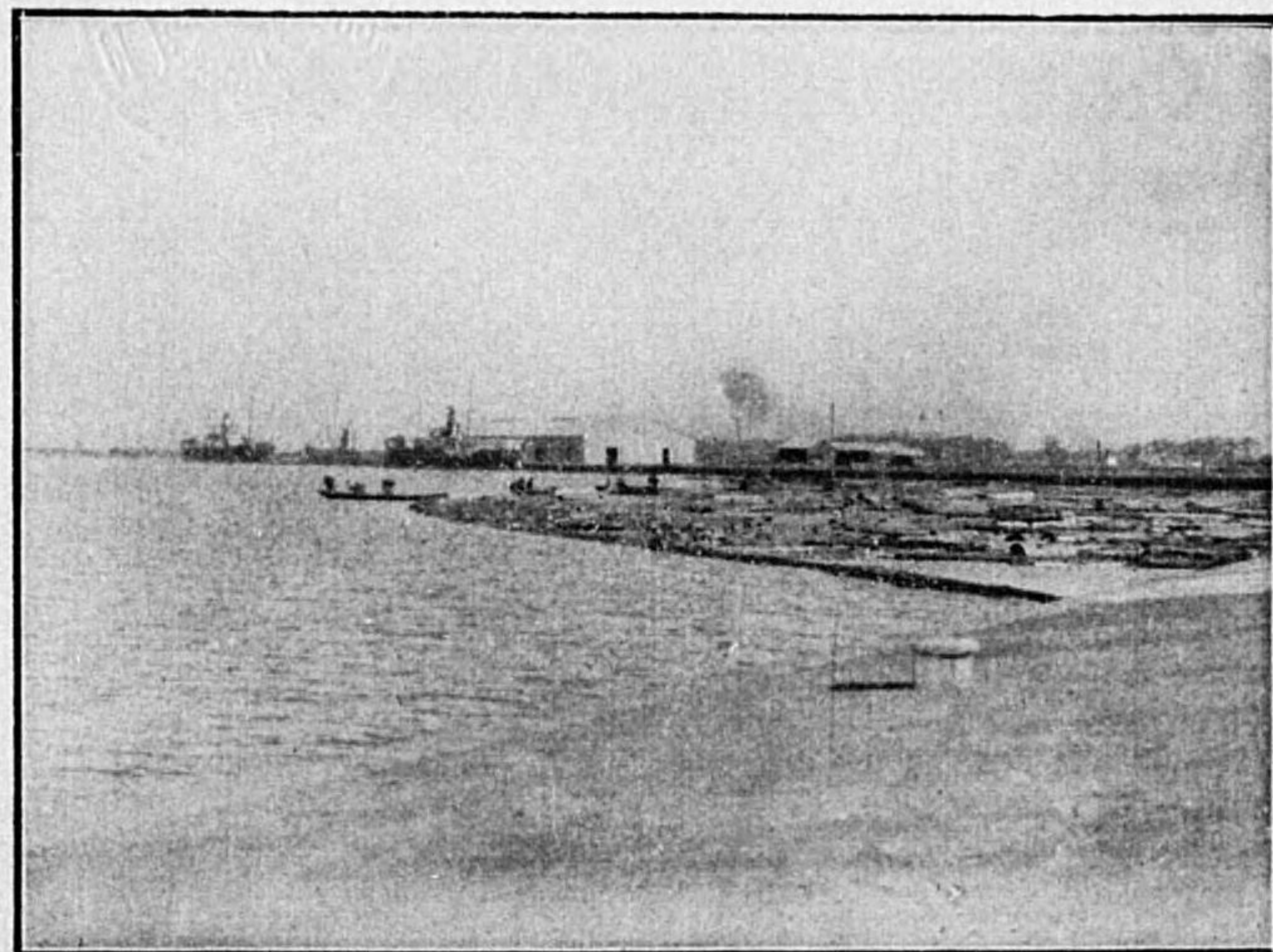


雜貨	空樽	氷	清涼飲料水	漬物
六、〇六三	二、三五四	六五	六一	四二八
港小樽、函館、大泊、佐渡、其他	函館、根室、佐渡、其他港	佐渡	佐渡	大泊、其他港

北埠頭 = 於ケル石炭荷役並 = 貨車發送ノ實況

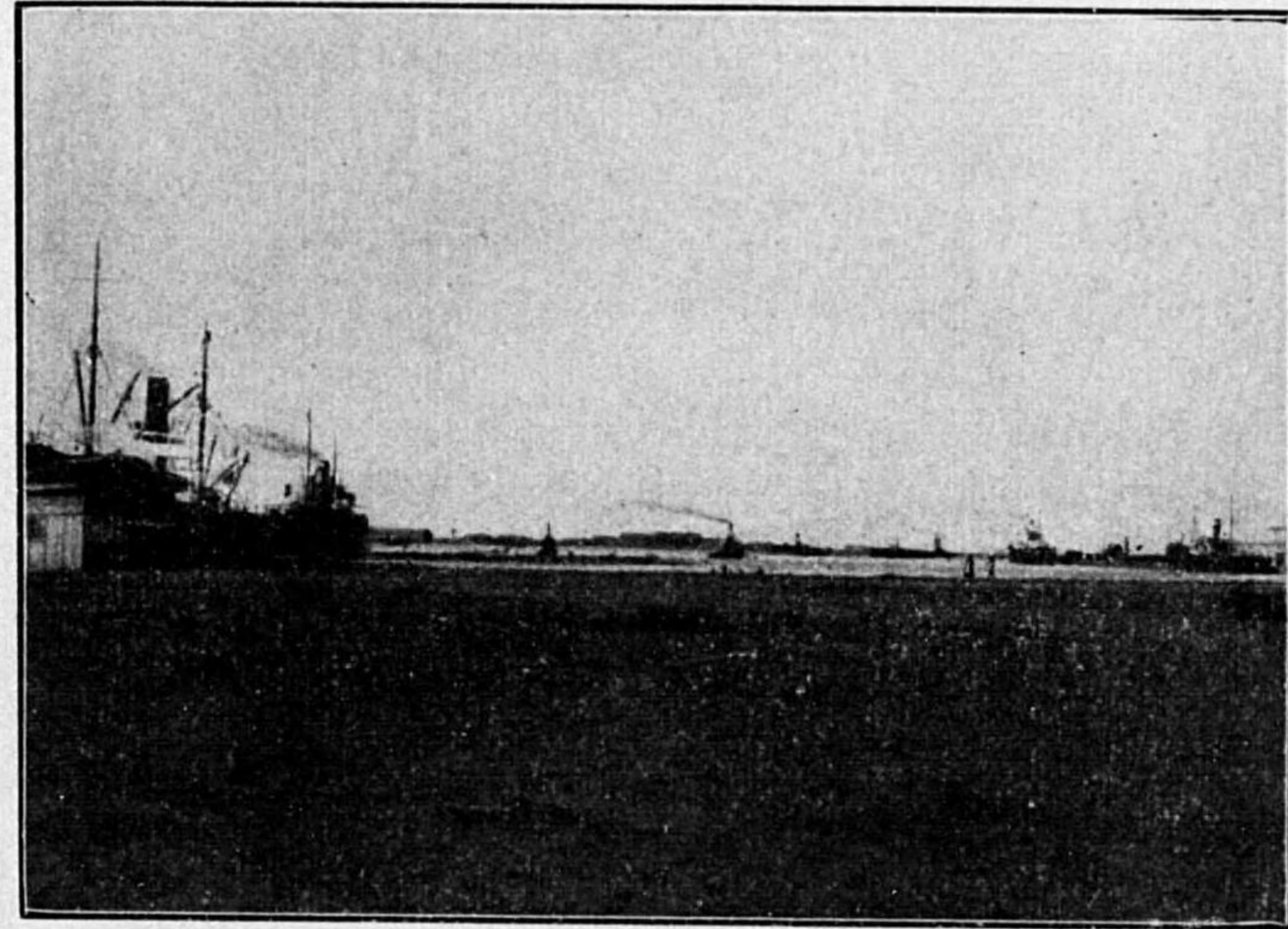


北埠頭全景

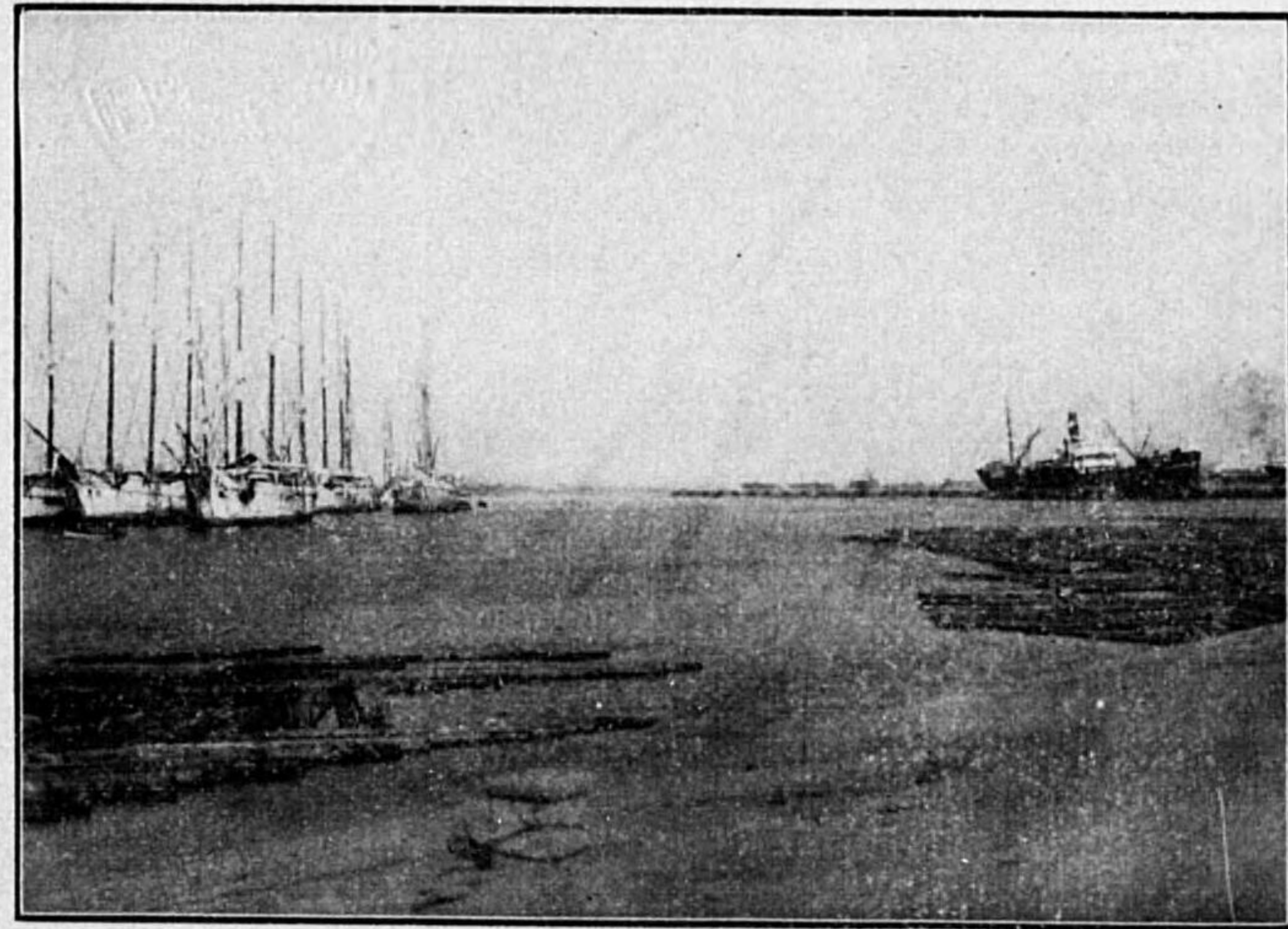




中央埠頭東側岸壁ニ於ケル木材荷役ノ状況



中央埠頭西側岸壁ニ於ケル木材荷役ノ状況



## 第五編 縣營埠頭荷役費

### 第一 解荷役と岸壁荷役の關係

大正十五年四月一日を以つて縣營埠頭の一般利用開始せられ從來の解荷役は接岸荷役に代り愈々岸壁荷役の本能を發揮せり如斯港灣内に於ける荷役の革新は先進港灣に於て既に體驗し其實績を見るもの不尠茲に簡單に其の一例を擧ぐれば西曆一千九百十三年神戸築港設備の一部成るに及んで僅に埠頭の一端を何等陸上の設備を有せざる裸状態に於て假使用せるが素より單純なる船舶の繫留區域を與へたるに過ぎざるを以て歐米の港灣に比すべくもあらずと雖も亦一段の進歩なりと謂はざるべからず此時解荷役に要する經費と岸壁繫留荷役に要する經費を對照調査せるに接岸荷役は解荷役に比し諸經費の四割を以て償ひ六割の經費節減を爲し得たる事例あり

本港も埠頭利用の状態に於て當時の神戸港と稍其の事情を同じくするものあり、されば縣營埠頭利用の實績如何は一般當業者の好資料たれば左に解接岸兩荷役の諸經費に付き調査の一端を叙せん  
解荷役

本港に於ける解荷役賃金は從來港灣設備の整備せざるに基因し其の高率なるは當業者の一般に認むる

處なるが茲に本港輸入貨物中其の噸量に於て首位を占むる石炭に就き調査するに其の諸經費は荷物の多寡、時期其他商習慣等の關係に依り一定し居らざるものゝ如きも當港に於ける公定料金を標準とすれば石炭一噸當り諸經費は(沼垂驛構内揚)

船内仲仕賃	貳拾七錢
船内仲仕賃	貳拾七錢
船内仲仕賃	八拾錢
水揚賃	貳拾七錢貳厘
計	壹圓參拾四錢貳厘

を要したるものなるが前記商慣習に依り約「二十パーセント」内外の割引あるを認むるを以て公定料金に對し之が「二十パーセント」即ち貳拾六錢八厘を差引一噸當り金壹圓七錢四厘也と算定するを適當なる經費と認めたり。

接岸荷役

本年四月一日縣營築港完成一般利用開始に伴ひ本船岸壁繫留荷役をなしたる汽船米山丸、第一關西丸、東英丸の三隻に就き之が諸經費を調査するに噸當り料金は

船内仲仕賃	貳拾參錢
水揚賃	參拾錢(切返し賃を含む)

(右の外繫船岸壁使用料平均噸當り五厘を要するも主として船主持ち)

計

五拾參錢

を要せり但し現在岸壁上には起重機其の他の設備なく全然裸状態に於て荷役作業せるものにして前記汽船の作業時間は合計四十一時間水揚噸量貳千九拾五噸にして一時間平均五拾壹噸餘を陸揚し其の成績頗る可良にして港内荷役に一大革新的衝動を與へたる事實歴然たるものあり殊に米山丸荷役當時は暴風雨にして風速實に十三米突餘港内孰れの場所に於ても荷役不可能なるにも不拘最も安全且つ迅速に作業を爲すことを得たるは接岸荷役の爲めに外ならず以上叙述せる所に依り解接岸兩荷役の經費關係を知るを得べく而して接岸荷役は解荷役に比し「四十九パーセント」即ち五拾參錢を以て足り「五十一パーセント」五拾四錢四厘の經費節減を爲し得たり  
尙荷役能率に於て解取荷役一時間平均約四十噸に比し著しき相違あるを認めたり  
右の實例に鑑み將來本港接岸荷役は陸上設備の完成仲仕の荷役熟練と相俟つて更に益々時間の短縮經費の節減を來す事敢て難きに非ずべし

第二 新潟港重要品種別荷役費

本港に於ける荷役經費は從來種々なる商慣習ありし爲め正確なる數字を明示し得ずと雖も茲に二、三



自大正十五年四月 縣營埠頭石炭置場實績表  
至昭和元年十二月

品名	使用坪數	陸揚噸數	料金(地代)	一坪當收噸數	一噸當使用料金	一坪當使用料金
石炭	一、二〇〇 <sup>坪</sup>	二二、四九八 <sup>噸</sup>	五九一、四二〇 <sup>円</sup>	一八、八 <sup>噸</sup>	〇、〇二六三 <sup>円</sup>	〇、四九二九 <sup>円</sup>

沼垂驛構内石炭置場實績表

年別	一坪收容噸數	一噸當使用料金	備	考
大正十四年	一九 <sup>噸</sup>	〇、〇三五 <sup>円</sup>		
昭和元年	九、二	〇、一三二		

第四 縣 營 上 屋

北埠頭上屋は全部鐵造にして彩光並に完全なる防濕設備を爲したる最新式の建造にして水深二十五尺

岸壁側に沿ひ間口四十八間奥行十四間なり而して此の總坪數六百七十二坪とす、左に本年四月より十一月に至る八ヶ月間に於ける之が使用實績を示せば次表の如し

自大正十五年四月 間縣營上屋搬入貨物使用料金調  
至昭和元年十二月

品名	搬入箇數	使用料	一個當料金	一噸當料金	備	考
セメント	三三、二六四樽 二四、二〇四袋	二二〇、一五〇 <sup>円</sup>	〇、〇七 <sup>円</sup>	〇、〇三五 <sup>円</sup>	五樽ヲ以ツテ一噸ニ換算シ袋入(1/4) ハ四袋ヲ一樽トシテ計上ス	
大豆粕	四三、二二六枚	二三八二〇	〇、〇〇五	〇、〇一八二	三十三枚ヲ以テ一噸ニ換算ス	
骨粉	九、三〇 <sup>上</sup> 袋	一三七六〇	〇、〇〇一五	〇、〇二三三	九袋 "	
魚粕	七、九二三袋	二九八五〇	〇、〇〇三七	〇、〇三三六	九俵 "	
硫酸アンモニア	一、八〇〇 <sup>噸</sup>	三四八〇	〇、〇〇一九	〇、〇四四三	二十三 <sup>噸</sup> "	
其他雜貨	四、二三八個	一四九一〇	〇、〇〇三五	〇、〇五二八	十五個 "	

備考 十二月ハ上屋内一部長期貸付ニ付計上セズ

第五 縣營埠頭專用線

大正十五年四月一日を以て縣營築港北埠頭線の使用を開始し以て一般貨物を着發送せるが本専用線は省線沼垂驛構内に接続し延長一哩一鎖五十節にして之が作業哩程延長四十八鎖なり左に四月より十二月に至る間に於ける車輛出入成績を擧ぐれば次表の如し

月別		機關車入換數	機關車索引料金	貨車使用數
四月	四月	六	九、二〇〇	三三三
五月	五月	七	二五、二〇〇	三二〇
六月	六月	四	六七、二〇〇	一〇五
七月	七月	七	五九、二〇〇	一〇〇
八月	八月	五	八一、六〇〇	一五四
九月	九月	六	一〇四、〇〇〇	三五〇
十月	十月	六	一〇四、〇〇〇	三〇〇
十一月	十一月	六	一〇四、〇〇〇	三三〇
十二月	十二月	五	九二、八〇〇	二八四
計	計	五七	八七、二〇〇	二、二六六

自大正十五年四月 縣營埠頭專用線車輛出入實績表  
至昭和元年十二月

貨車使用料金	發着貨物噸數	機關車一往復索引平均車數	一車平均料金	平均噸當料金
二、三〇〇	四、四三五	五、三六	〇、三三二八	〇、〇四九
一〇、四三〇	四、〇四九	四、三〇	〇、四〇五三	〇、〇三〇
三、六〇〇	一、四三四	二、四八	〇、六七五〇	〇、〇四九
三、一八	一、三三八	二、七〇	〇、六三三八	〇、〇五四
四、八七	一、八五三	三、〇六	〇、五六二五	〇、〇四七
二、三三〇	四、八四一	五、三九	〇、三三三三	〇、〇四〇
一〇、三六〇	四、〇三三	四、六一	〇、三八二二	〇、〇二四
一、四七〇	四、四四四	五、〇八	〇、三四九九	〇、〇三〇
八、九九〇	三、三六四	四、八九	〇、三五八三	〇、〇三〇
六、五五〇	二、九七〇	平均 四、三九	平均 〇、三九九〇	平均 〇、〇四〇

備考 一、北埠頭専用線ハ作業哩程四十八鎖一往復機關車索引料金壹圓六拾錢

二、發着噸數內譯 發送 二九四〇五噸  
到着 二九六噸

### 第六編 新潟港と陸運の関係

#### 第一 新潟港と陸運の関係

新潟市内には信越線沼垂、新潟の兩驛の他私設鐵道驛として新潟臨港株式會社の山ノ下驛及越後鐵道株式會社の白山、關屋の兩驛計五驛あり右の内新潟港と最も密接なる關係を有する沼垂驛山ノ下驛の到着發送貨物に就き之が數量、品種等を擧ぐれば左の如し

發送場所別	石		炭		セメント	大豆	粕	其他肥料	食鹽	木材	其他雜貨	計
	販賣炭	納炭	セメント	炭								
縣營埠頭	13,998	—	6,647	—	4,166	2,414	—	1,546	634	29,405		
沼垂驛	21,005	—	9,682	—	18,239	13,219	—	24,105	100,835	187,085		
臨港會社(山ノ下驛)	30,255	71,973	20,730	3,139	681	16,950	12,410	2,664	158,802			
計	65,258	71,973	37,059	25,544	16,314	16,950	38,061	104,133	375,292			

品名	到着場所別												計
	米	木材	石灰	石礦物	石油	鮮魚	人肥	造綿類	セメント	煉瓦	鐵製品	雜貨	
縣營埠頭	—	256	—	—	—	—	—	—	—	—	40	—	296
沼垂驛	5,972	5,468	2,311	10,080	73,657	2,406	2,917	3,731	2,267	2,406	4,696	31,273	152,184
山ノ下驛	—	1,148	—	4,462	10	—	—	—	15	—	111	880	6,626
計	5,972	6,872	2,311	14,542	78,667	2,406	2,917	3,731	2,282	2,406	4,847	32,153	159,106

#### 第一 發送貨物並ニ到着貨物

##### 一、發送貨物

大正十四年中に於ける沼垂驛、山ノ下驛(臨港)の發送貨物噸量

沼垂驛	二六四、五四八噸	〇、八一	(割合)
山ノ下驛	六一、二八五噸	〇、一九	
計	三三五、八三三噸		

大正十五年中

沼垂驛

一八七、〇八五噸

計二二六、四九〇噸

〇、五〇

縣埠頭

二九、四〇五噸

〇、〇七(割合)

山ノ下驛

一五八、八〇二噸

〇、四三

計

三七五、二九二噸

右に依り總發送貨物噸量は大正十五年は全十四年に比し四萬九千四百五十九噸の増加を示す。之を各驛別に見る時は

大正十四年沼垂驛發送

二十六萬四千五百四十八噸なりしが

大正十五年に於ては

十八萬七千〇八十五噸に減少せり

縣營埠頭は沼垂驛の延長と看做し埠頭發送の二萬九千四百五噸を加ふるも尙二十一萬六千四百九十噸にして前年に比し實に四萬八千〇五十八噸の減少となる。

之に反し

臨港埠頭は大正十四年に於て六萬一千二百八十五噸なりしものが全十五年に於ては十五萬八千八百二噸に激増し實に九萬七千五百十二噸の増加を示す。

二、到着貨物

大正十四年中に於ける沼垂山ノ下(臨港)の到着貨物噸量

沼垂驛

八八、六六三噸

〇、九六

山ノ下驛

四、四八五噸

〇、〇四

(割合)

計

九三、一四八噸

大正十五年中

沼垂驛

一五二、一八四噸

〇、九六

縣埠頭

二九六噸

—

(割合)

山ノ下驛

六、六二六噸

〇、〇四

計

一五九、一〇六噸

右に依り到着貨物噸量は大正十五年は全十四年に比し六萬五千九百五十八噸の激増なり之を各驛別に通観するに沼垂驛の著しく増加せるに比し山ノ下(臨港會社)縣埠頭共に振はざるは未だ埠頭を利用する輸移出仲繼貨物の尠きに因る。





製油	一	三〇	三〇	二七	一六	二九
麥類	二四	九	二三	五三	一八	六〇
野菜	二五	一四	二五	レ	七四	七四
コルクス	五九七	六六	一、二五	古枕木	一	三九六
引越荷	一	一六	一六	杉皮	一	二五
其他	二六、七五	一	二六、七五	其他	二四、三三	二四、三三
計	二六四、五四	六一、二八五	三五、八三	計	八八、六三	四、四八五
						九三、四八

# 新潟港灣取締規則

(大正十三年九月十二日  
新潟縣令第三五號)

## 第一章 總則

第一條 本則ニ於テ新潟港灣ト稱スルハ新潟燈臺ヲ中心トシ二海里半ノ半徑ヲ有スル圓圈ノ一孤内ニ含マル海面並信濃川河口ヨリ上流府縣道兩川大野線ニ至ル區間信濃川支流通船川河口ヨリ燒島潟呑口ニ至ル區間(燒島潟ヲ含ム)信濃川支流栗ノ木川河口ヨリ新栗ノ木川分流點ニ至ル區間、新栗ノ木川、八間堀、寺町堀、他門川ノ水面及突堤、護岸、堤塘、岸壁、物揚場其ノ他知事ニ於テ指定スル港灣附屬物トス

第二條 新潟港灣ヲ別テ内港及外港トシ信濃川其他ノ水面ヲ内港海面ヲ外港ト稱ス内港ヲ二區ニ別チ萬代橋下流信濃川本川突堤尖端ニ至ル區間ヲ第一區トシ其ノ他ヲ第二區トス

第三條 内港ニ碇泊セムトスル船舶ハ左ノ區別ニ從フヘシ

一、汽船、登簿帆船、及登簿石數船ハ第一區

二、前號ノ船舶以外ノ小形船、雜種船ハ第二區及第一區内ニ於テ知事ノ指定スル區域

第四條 前條第二號ノ小形船、雜種船ト雖モ揚荷若ハ積荷ノ都合ニ依リ一時所定區域外ニ碇泊スル

コトヲ得

但シ其ノ積卸ヲ終リタルトキハ遲滯ナク所定ノ區域ニ移錨スヘシ

第五條 港内ニ在ル船舶ニシテ風波其ノ他ノ災害ノ爲避難セムトスル場合ニ於テハ適宜所定ノ碇泊場ヲ變更スルコトヲ得其ノ事故ノ止ミタルトキハ所定ノ碇泊區域ニ移錨スヘシ

第六條 港内ノ秩序ヲ保持スル爲必要アルトキハ知事ニ於テ特ニ碇泊場ヲ指定スルコトアルヘシ

第七條 左ノ場所ニ於テハ如何ナル船舶ト雖モ投錨若ハ停留スヘカラス

一、知事ノ指定スル航路

二、通船川、栗ノ木川、新栗ノ木川、八間堀、寺町堀及他門川ノ各口

第八條 本則ニ於テ埠頭ト稱スルハ土地、岸壁、建築物並附屬器具機械及地上物件トス

第九條 本則ニ於テ物揚場ト稱スハ土地、石垣、建築物及其ノ他ノ地上物件トス物揚場ノ區域ハ標石ヲ以テ之ヲ示ス

第十條 汽船ノ船客ハ知事ノ指定スル場所ヨリ乗降スヘキモノトス其ノ區域ハ標石ヲ以テ之ヲ區劃ス

## 第二章 港灣取締

第十一條 本港及内港第一區ニ於テ左ノ各號ノ一ニ該當スル行爲ヲ爲スヘカラス

一、橋梁、浮標、浮杭、測量標、量水標、燈岸、燈標、護岸、堤塘、（繫船柱繫船環ヲ除ク）突堤

（繫船柱繫船環ヲ除ク）ニ船舶ヲ繫留スルコト

但シ知事ノ許可ヲ得タルモノハ此ノ限ニ在ラス

二、落筋ニ投錨シ又ハ石塊ノ類ヲ以テ錨ニ代用スルコト

三、土砂、瓦礫、塵芥、灰燼神佛供物其ノ他汚穢物死屍ヲ投棄スルコト

但シ土砂、瓦礫、灰燼等ニシテ外港ニ投棄ノ許可ヲ受ケタルモノハ此ノ限ニ在ラス

四、傳染病患者ノ排泄物及接觸シタル衣類器具ノ類若ハ之ヲ洗滌シタル汚水等ヲ投棄スルコト

五、護岸、堤塘若ハ突堤ニ於テ捕漁ヲ爲スコト

六、端艇其ノ他船舶競漕ヲ爲スコト

第十二條 内港第一區及内港中知事ノ指定スル區域ニ於テ左ノ各號ノ一ニ該當スル行爲ヲ爲スヘカラス

一、捕漁採藻ヲ爲スコト

但シ漁業ノ免許又ハ許可ヲ受ケタルモノハ此ノ限ニ在ラス

二、惡臭ヲ發スル汚物又ハ蓋ナキ糞尿桶汚物桶ノ運搬ヲ爲スコト

三、濫ニ汽笛ヲ吹鳴スルコト

四、槎筏竹木ヲ繫留スルコト

但シ陸揚又ハ積込ノ時間知事ヨリ繫留ノ許可ヲ受ケタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第十三條 港内ニ於テ左ノ各號ノ一ニ該當スル行爲ヲ爲サムトスル者ハ其ノ位置方法期限ヲ記載シ圖

面ヲ添ヘ所轄警察官署ヲ經テ縣廳ヘ願出許可ヲ受クヘシ

一、竹木ヲ立テ又ハ足場其ノ他一時ノ工作場ヲ設ケムトスルトキ

二、潜水機其ノ他器械類ヲ用ヒ沈没物件ノ引揚ヲ爲サムトスルトキ

三、日本形二百石積以上西洋形二十噸以上ノ船舶ヲ進水セムトスルトキ

四、外港ニ土砂瓦礫灰燼等ヲ投棄セムトスルトキ

五、槎筏竹木ヲ繫留セムトスルトキ

前項第一號及第五號ノ場合ハ其ノ所有者ハ管理者ノ氏名住所ヲ記載シタル標札ヲ見易キ場所ニ附着スヘシ

第十四條 港内ニ於テ左ノ行爲ヲ爲サムトスル者ハ其ノ日時期限及區域ヲ記載シ所轄警察官署ニ願出

許可ヲ受クヘシ

一、施餓鬼又ハ船行列ヲ爲サムトスルトキ

二、内港ニ於テ船ヲ以テ船舶槎筏竹木ヲ引キ又ハ聯結若ハ併列シテ通船セムトスルトキ

但シ親船ノ傳馬船ヲ曳クモノ又ハ六十間以内(曳綱共)ノ槎筏竹木舢舨等ヲ曳クモノハ此ノ限ニ在ラス

三、燐船ヲ爲サムトスルトキ

第十五條 多量ノ火藥又ハ發火シ易キ物品ヲ積載シタル船舶ハ他ニ危險ノ及ハサル場所ニ碇泊スヘシ

第十六條 船舶ハ濫ニ内港ニ於テ他船ノ前路ヲ横切り又ハ後部ニ接近シ若ハ併列シテ通航シ又ハ追越

ヲ爲ス等他船ノ通航及投錨ヲ妨害スヘカラス

第十七條 船舶ニシテ内港ヲ運航セムトスルトキハ船ノ安全ナル針路ヲ保ツニ足ル速度ニ止ムヘシ

第十八條 港内ニ碇泊シ又ハ運航スル船舶ハ日没ヨリ日出マテノ時間ハ海上衝突豫防ニ關スル法令ニ

規定シタル船燈ヲ掲クヘシ

但シ通船上荷船等ノ小形船ニシテ碇泊中ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十九條 内港ニ於テ荷船端艇又ハ舢舨ヲ濫リニ他ノ船舶ノ後部ヘ繫留スヘカラス

但シ船側ニ繫留スル場合ト雖モ併列シテ船舶運航ノ妨害ヲ爲スヘカラス

第二十條 船舶槎筏竹木ノ繫留ヲ忽ニシ又ハ他ニ引曳セラル、船舶槎筏ノ操舵ヲ忽ニスヘカラス

第二十一條 船舶ノ繫留ニ際シテハ必要以外ニ其ノ綱ヲ延長スヘカラス

第二十二條 船舶通行ノ妨害若ハ危險ノ虞アル場所ニ燐砂沈没又ハ顛覆シタル船舶物件ハ之ヲ除却スヘ

シ

但シ之ヲ除却スル迄ハ相當ノ標識ヲ附シ夜間ハ點燈スヘシ

第二十三條 船舶ニシテ石炭荷足其ノ他之ニ類スル物件ヲ積卸スルトキハ脱落ヲ防ク爲豫メ必要ナル装置ヲ爲スヘシ

### 第三章 埠頭取締

第二十四條 埠頭ニハ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノニアラサレハ繫留ヲ許サス

但シ許可ヲ受ケタルモノハ此ノ限ニ在ラス

一、汽船

二、汽船ニ乗降スヘキ船客又ハ手荷物ヲ積載シタル解船

第二十五條 埠頭ニ於テ左ノ各號ノ一ニ該當スル行爲ヲ爲スヘカラス

一、石材、礦石、石炭、木材(加工材ヲ除ク)獸骨其ノ他不潔物ノ積卸ヲ爲スコト

但シ一時使用ニシテ知事ノ許可ヲ受ケタルモノハ此ノ限ニ在ラス

二、牛馬ヲ繫キ諸車物品ヲ放置シ又ハ作事ヲナスコト

第二十六條 二船以上同時ニ岸壁ノ一側ニ繫留セムトシ又ハ岸壁ヨリ離隔セントスルトキハ互讓スヘシ

第二十七條 故意怠慢又ハ船舶操縦ノ不注意ニ依リ埠頭及附屬物件ヲ亡失毀損セシメタルトキハ船主若

ハ下手者ノ費用ヲ以テ其ノ修繕又ハ新調ヲ爲サシムルコトアルヘシ

第二十八條 縣ニ於テ必要アル場合ハ一時岸壁ニ船舶ヲ繫留ヲ停止シ若ハ離隔セシムルコトアルヘシ

### 第四章 物揚場取締

第二十九條 物揚場一般ニ共用スルモノトス

但シ都合ニ依リ縣ニ於テ専用スルコトアルヘシ

第三十條 火藥、石灰、其ノ他危險物、糞尿、肥料、骨、襤褸其ノ他不潔物ノ揚卸場ハ知事ノ指定ス

ル區域トス

第三十一條 物揚場ハ使用者互ニ便宜ヲ與ヘ他ノ妨害ヲ爲スヘカラス

第三十二條 物揚場ニ於テ左ノ各號ノ一ニ該當スル行爲ヲ爲スヘカラス

一、第十一條第三號第四號ノ行爲

二、荷主ノ使用ニ屬スルモノ、外牛馬ヲ繫キ諸車物品ヲ放置シ又ハ作事ヲ爲スコト

三、汚水ヲ撒布又ハ疊敷物類ノ塵芥ヲ掃フコト

四、牛馬二頭以上ヲ連繫シ又ハ口綱ヲ三尺以外ニ緩メ牽クコト

五、遊戯又ハ人寄ヲ爲スコト

六、物品ヲ陳列シテ賣買ヲ爲スコト

第三十三條 物揚場ニ竹木薪炭其ノ他ノ物件ヲ堆積スル者ハ顛仆セサル様堅牢ナル裝置ヲ爲スヘシ

第三十四條 物揚場使用ノ許可ヲ受ケタル者ハ其ノ坪數期間及住所名ヲ記載シタル標札ヲ見易キ場所ニ

掲クヘシ建造物使用ノ際ニ於テモ亦同シ

第三十五條 物揚場ヲ使用スル者ハ常ニ清潔ニ掃除ヲ爲シ炎天風日ニハ時々淨水ヲ撒布スヘシ

第三十六條 物揚場ニ於テ運搬スル物品ハ墜落漏出又ハ飛散セシムヘカラス

第三十七條 第二十七條ノ規定ハ本章ニ之ヲ適用ス

### 第五章 罰 則

第三十八條 第三條第四條但書第五條第七條第十一條乃至第二十六條第二十八條第三十一條乃至第三十

六條ニ違背シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

## 新潟港上屋並繫船浮標使用規則

(大正十五年三月二十六日  
新潟縣令第十六號)

### 第一章 總 則

第一條 新潟港上屋並繫船浮標ノ使用ニ關シテハ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外本規則ニ依ル

第二條 上屋又ハ繫船浮標ヲ使用セムトスル者ハ知事ノ許可ヲ受クヘシ

使用期間ハ壹箇月ヲ超ユルコトヲ得ス

但シ特別ノ事由ニ因リ知事ノ許可ヲ得タル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第三條 上屋又ハ繫船浮標ノ使用者ニ對シ左ノ區別ニ依リ使用料ヲ徵收ス

但シ知事ニ於テ必要アリト認ムルトキハ使用料ヲ低減シ若ハ免除スルコトヲ得

一、上屋使用料

一週間以内 使用面積ハ壹坪ニ對シ壹日ニ付 金 貳 錢

一週間ヲ超ユル期間 同 金 參 錢

二週間ヲ超ユル期間 同 金 五 錢

三週間ヲ超ユル期間 同 金 八 錢

四週間ヲ超ユル期間 同

金拾貳錢

八二

使用期間壹日ニ滿タサル端數ハ壹日トシテ計算シ又使用面積壹坪ニ滿タサル端數ハ壹坪トシテ計算ス

一、繫船浮標使用料

登簿噸數千噸未滿ノ船舶 使用時間二十四時間毎ニ 金 參 圓

登簿噸數千噸以上ノ船舶 同 金 五 圓

登簿噸數參千噸以上ノ船舶 同 金 七 圓

繫留時間ノ計算ハ繫留ノ時ヨリ解纜終了時迄トシ繫留時間二十四時間ニ滿タサル端數ハ二十四時間トシテ計算スヘシ第七條及新潟港灣取締規則第六條ノ規定ニ依リ浮標ヲ離レシメタル時間ハ之ヲ算入セス

積石ヲ以テ積量ヲ表示スル船舶ニ在リテハ積石十石ヲ以テ一噸ト換算ス十石ニ滿タサル端數ハ十石トシテ計算ス

第四條 上屋又ハ繫船浮標使用ノ許可ヲ受ケタル者ハ即時使用料ヲ納付スヘシ

使用期間内ニ使用者ノ都合ニ依リ使用ヲ廢止スルコトアルモ既納ノ料金ハ還付セス

但シ第七條ノ規定ニ依リ使用ノ許可ヲ取消シタルトキ若ハ使用ヲ停止シタルトキ又ハ知事ニ於テ

特別ノ事由アリト認ムルトキハ全部又ハ一部ヲ還付スルコトアルヘシ

第五條 上屋又ハ繫船浮標ノ使用ニ關シテハ總テ當該吏員ノ指揮ニ從フヘシ

第六條 上屋又ハ繫船浮標ヲ毀損又ハ汚損シタル者アルトキハ其ノ者ノ費用ヲ以テ修繕又ハ新調セシムルコトアルヘシ

前項ノ規定ニ依リ修繕又ハ新調ヲ命セラレタル者之カ履行ヲ怠リ若ハ履行スルモ充分ナラスト認ムルトキハ知事ハ自ラ之ヲ執行シ又ハ他人ヲシテ之ヲ執行セシメ其ノ費用ヲ負擔セシムルコトアルヘシ

第七條 知事ニ於テ必要アリト認ムルトキハ使用ノ許可ヲ取消シ其ノ効力ヲ停止シ又ハ使用場所ノ變更ヲ命シ若クハ繫留船舶ヲ一時浮標ヨリ離レシムルコトアルヘシ

前項ノ規定ニ依ル處分ニ因リ許可ヲ受ケタル者ニ於テ損害ヲ蒙ルコトアルモ其ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得ス

第一章 上 屋

第八條 上屋ヲ使用セムトスル者ハ別紙第一號書式ニ依ル申請書ヲ新潟港務所ヲ經由シテ差出スヘシ

八三

許可期間満了後尙引續キ使用セムトスル者ハ別紙第二號書式ニ依ル申請書ヲ提出シ更ニ許可ヲ受クヘシ

第九條 左ニ掲クル貨物ハ上屋ニ收容スルコトヲ得ス

但シ知事ノ許可ヲ得タル場合ハ此ノ限ニ在ラス

一、爆發質其ノ他危険ノ虞アルモノ

二、他ノ貨物又ハ上屋ヲ汚損スヘキ虞アルモノ

三、第十條ノ規定ノ制限以上ノモノ

四、當該吏員ニ於テ收容スヘカラスト認ムルモノ

第十條 上屋ニ藏置スル貨物ノ收容量ハ左ノ制限ヲ超ユルコトヲ得ス

但シ知事ノ許可ヲ得タル場合ハ此ノ限ニ在ラス

一、高十五尺

二、面積壹坪ニ對シ重量十八噸

第十一條 上屋ニ貨物ヲ搬入シタルトキハ其ノ貨物ニ搬入月日及使用者ノ氏名ヲ記載シタル標札ヲ附スヘシ

第十二條 上屋ニ收容シタル貨物ヲ搬出セムトスルトキハ別紙第三號書式ニ依ル届書ヲ差出シ當該吏

員ノ承認ヲ受クヘシ

第十三條 上屋ニ收容スヘキ貨物ノ搬入搬出時間ハ日出ヨリ日没迄トス

但シ時宜ニ依リ時間ヲ伸縮スルコトアルヘシ

第十四條 上屋ニ藏置シタル貨物ノ損害ニ付テハ使用者ニ於テ其ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得ス

### 第三章 繫船浮標

第十五條 繫船浮標ヲ使用セムトスル者ハ豫メ新潟港務所長ノ指揮ヲ受ケ碇泊後直ニ別紙第四號書式

ニ依ル申請書ヲ新潟港務所ヲ經由シテ差出スヘシ

許可期間満了後尙引續キ使用セムトスル者ハ別紙第五號書式ニ依ル申請書ヲ提出シ更ニ許可ヲ受ク

ヘシ

第十六條 許可ヲ受ケタル使用期間内ト雖モ浮標ヲ離レタル船舶ハ許可ノ効力ヲ失フモノトス

但シ第七條ノ規定ニ依リ使用場所ノ變更ヲ命セラレタルトキ若ハ繫留場所ヲ一時離レシメラレタ

ルトキ又ハ新潟港灣取締規則第六條ノ規定ニ依リ碇泊場所ヲ指定セラレタルトキ又ハ豫メ知事ノ

承認ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

### 第四章 罰則



第十七條 許可ヲ受ケスシテ上屋ニ貨物ヲ收容シ繫船又ハ浮標ニ船舶ヲ繫留シタルトキハ過料ニ處シ併セテ第三條ニ規定スル使用料ヲ徵收ス

使用期間滿了後正當ノ事由ナクシテ上屋ノ收容貨物ヲ搬出セサルトキ又ハ繫船浮標ヲ解纜セサルトキ亦前項ニ同シ

第十八條 左ニ掲ケル場合ニ於テハ知事ハ許可ノ全部又ハ一部ヲ取消シ又ハ其ノ効力ヲ停止スルコトアルヘシ

- 一、使用料ヲ納付セサルトキ
- 二、第七條ノ規定ニ依ル知事ノ命ニ從ハサルトキ又ハ當該吏員ノ指揮ニ從ハサルトキ
- 三、第九條及第十條ノ規定ニ違反シタルトキ

附 則

本令ハ大正十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第一號書式

- 二、第七條ノ規定ニ依ル知事ノ命ニ從ハサルトキ又ハ當該吏員ノ指揮ニ從ハサルトキ
- 三、第九條及第十條ノ規定ニ違反シタルトキ

附 則

本令ハ大正十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第一號書式

上屋使用許可申請書

上屋番號	北第 號第 番	使用坪數
使用日數	自 月 日 至 月 日	日間
使用料金	輸移出入別	輸移出入地名

右御許可相成度新潟港上屋竝繫船浮標使用規則ニ依リ此段申請候也

昭和 年 月 日

住所 使用人

新潟縣知事 殿

收容貨物種類及噸量

品名	個數	噸量	品名	個數	噸量
合計					

第二號書式

上屋繼續使用許可申請書

上屋番號	前使用許可年月日	繼續使用日數	北中央第 號第 番	昭和 年 月 日	輸移出入別	使用坪數
		自 月 日 至 月 日		日間	使用料	

右繼續使用ノ儀御許可相成度此段申請候也

昭和 年 月 日

住所

使用人

新潟縣知事

殿





繫船浮標繼續使用許可申請書

一、繫船浮標番號 號

一、前繫船許可昭和 年 月 日

一、繫船繼續期間（自 月 日午 時 分至 月 日午 時 分）

一、使用料金

右繼續使用ノ儀御許可相成度此段申請候也

昭和 年 月 日

丸船長

新潟縣知事

殿

# 新潟港繫船岸壁使用規則

(大正十五年三月三十一日)  
(新潟縣令第十七號)

九四

- 第一條 新潟縣ハ新潟港繫船岸壁ノ使用者ニ對シ繫船料ヲ徵收ス  
第二條 繫船料ハ左ノ通トス

但シ定期航海船又ハ常時繫留スル船舶ニ對シテハ知事ニ於テ之ヲ低減スルコトヲ得

- 一、登簿噸數 百噸未満ノ船舶 繫留時間三時間毎ニ 金參拾錢  
一、登簿噸數 百噸以上千噸未満ノ船舶 繫留時間三時間毎ニ 金五拾錢  
一、登簿噸數 千噸以上ノ船舶 繫留時間三時間毎ニ 金八拾錢

繫留時間ノ計算ハ繫留ノ時ヨリ解纜終了ノ時迄トシ繫留時間三時間ニ滿タサル端數ハ三時間トシテ計算ス

但シ第八條ノ規定ニ依リ知事ニ於テ岸壁ヲ離レシメタル時間ハ之ヲ算入セス

石數ヲ以テ積量ヲ表示スル船舶ニ在リテハ積石十石ヲ以テ一噸ト換算ス十石ニ滿タサル端數ハ十石トシテ計算ス

- 第三條 左ニ掲クル船舶ハ繫船料ヲ免除ス

- 一、軍用ノ艦船又ハ官公署ノ用ニ供スル船舶

二、總噸數五噸未満又ハ積石數五十石未満ノ船舶

三、端舟其ノ他櫓權ヲ以テ回漕スル船舶

四、其ノ他知事ニ於テ特別ノ事由アリト認ムル船舶

- 第四條 繫船岸壁ニ船舶ヲ繫留セムトスル者ハ別紙第一號書式ニ依ル申請書ヲ新潟港務所ヲ經テ差出シ許可ヲ受クヘシ

許可期間滿了後尙引キ繫船セムトスル者ハ別紙第二號書式ニ依ル申請書ヲ提出シ更ニ許可ヲ受クヘシ

- 第五條 繫船岸壁ニ船舶繫留ノ許可ヲ受ケタル者ハ即時繫船料ヲ納付スヘシ

繫留許可期間内ニ船舶ノ都合ニ依リ繫留ヲ廢止スルコトアルモ既納ノ料金ハ還付セス

但シ第八條ノ規定ニ依リ知事ニ於テ繫留ノ許可ヲ取消シタル場合ハ之ヲ還付ス

- 第六條 繫留ノ許可ヲ受ケタル船舶ハ當該吏員ノ指定スル場所ニ繫留スヘシ

- 第七條 岸壁又ハ其ノ附屬物ヲ毀損シタル者アルトキハ其ノ者ノ費用ヲ以テ修繕又ハ新調セシムルコトアルヘシ

前項ノ規定ニ依リ修繕又ハ新調ヲ命セラレタル者之カ履行ヲ怠リ若ハ履行スルモ充分ナラスト認ムルトキハ知事ハ自ラ之ヲ執行シ又ハ他人ヲシテ之ヲ執行セシメ其ノ費用ヲ負擔セシムルコトアルヘシ

九五

シ  
第八條 知事ニ於テ必要アリト認ムルトキハ繫留ノ許可ヲ取消シ又ハ繫留ノ場所ヲ一時離レシメ若  
ハ繫留場所ノ變更ヲ命スルコトアルヘシ  
前號ノ規定ニ依ル處分ニ因リ許可ヲ受ケタル者ニ於テ損害ヲ蒙ルコトアルモ其ノ賠償ヲ請求スル  
コトヲ得ス

第九條 許可ヲ受ケタル繫船期間内ト雖岸壁ヲ離レタル船舶ハ許可ノ効力ヲ失フモノトス  
但シ前條ノ規定ニ依リ繫留場所ヲ一時離レシメラレタルトキ又ハ繫留場所ノ變更ヲ命セラレタル  
トキ若ハ豫メ知事ノ承認ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十條 左ニ掲クル貨物ハ繫船岸壁ニ於テ陸揚若ハ船積ヲ爲スコトヲ得ス  
但シ知事ノ許可ヲ得タル場合ハ此ノ限ニ在ラス

- 一、爆發質其ノ他危險ノ虞アルモノ
- 二、他ノ貨物ヲ汚損スヘキ虞アルモノ
- 三、當該吏員ニ於テ陸揚若ハ船積スヘカラスト認ムルモノ

第十一條 左ニ掲クル場合ニ於テハ知事ハ許可ヲ取消シ又ハ其ノ効力ヲ停止スルコトアルヘシ

- 一、繫船料ヲ納付セサルトキ

- 二、第八條ノ規定ニ依ル知事ノ命ニ從ハサルトキ又ハ當該吏員ノ指揮ニ從ハサルトキ
- 三、第十條ノ規定ニ違反シタルトキ

附 則

本令ハ大正十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス



第一號書式

繫船岸壁使用許可申請書

陸揚貨物 埠頭 積込貨物

陸揚貨物			積込貨物		
品名	個數	量目	品名	個數	量目





第二號書式

繫船岸壁繼續使用許可申請書

一、繫留場所 新潟港岸壁 埠頭 側

二、前繫留許可 昭和 年 月 日

一、繫留繼續期間 (自 月 日 時 分 至 月 日 時 分)

一、繫船料 金

右繼續繫船ノ儀御許可相成度此段申請候也

昭和 年 月 日

丸船長

新潟縣知事

殿

# 新潟港務所規程

(大正十五年三月廿五日訓第一六號)

1011

- 第一條 港務所ニ所長一名所員若干名ヲ置ク
- 第二條 所長ハ上司ノ命ヲ承ケ所務ヲ掌理シ所員ヲ指揮ス  
所長事故アルトキハ上席所員又ハ指定セラレタル所員其ノ事務ヲ代理ス  
所員ハ所長ノ指揮ヲ承ケ各其ノ事務ニ従事ス
- 第三條 文書ノ往復ハ所長名ヲ以テスヘシ  
但シ輕易ナルモノハ所名ヲ以テスルコトヲ得
- 第四條 港務所ニ於テ取扱フヘキ事務ハ縣ノ管理ニ屬スルモノニシテ其ノ概目左ノ如シ  
一、新潟港及其ノ附屬設備ノ維持管理ニ關スル事項  
二、上屋、岸壁物揚場、浮標、埋立地ノ使用取締ニ關スル事項  
三、出港入港船舶並移出入貨物調査ニ關スル事項  
四、別ニ定ムル規定ニ依リ又ハ特ニ命セラレタル事項
- 第五條 所員出勤シタルトキハ各自出勤簿ニ捺印スヘシ  
缺勤スルトキハ當日午前中ニ其ノ事由ヲ届出ヘシ病氣缺勤五日ヲ越ユルトキハ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ

届出爾後二十日毎ニ全様ノ手續ヲ爲スヘシ

前項届書ハ港務所ニ於テ編綴シ出勤簿ヲ整理スヘシ

- 第六條 所長ハ所員ノ募參、歸省父母病氣看護及轉地療養願ニ對シ意見ヲ附シ進達スヘシ
- 第七條 所長ハ所員ノ縣内出張ヲ專行スル事ヲ得  
所長出張セムトスルトキハ本廳ノ認可ヲ受クヘシ
- 第八條 所長ハ左ニ掲クル事項ヲ專行スルコトヲ得  
一、新潟港上屋繫船浮標及繫船岸壁使用ノ許可  
二、全上使用規則第七條第十八條及新潟港繫船岸壁使用規則第八條第十二條ノ規定ニ依ル處分  
三、新潟港上屋並繫船浮標使用規則第九條第十條第十六條ノ各但書及新潟港繫船岸壁使用規則第九條第十一條各但書ノ規定ニ依ル許可又ハ承認  
四、縣有土地貸付規程ニ依ル新潟港埋立地貸付ノ許可  
五、新潟港灣取締規則第二十五條第一項第一號但書ノ規定ニ依ル許可  
六、豫算ノ範圍内ニ於テ見積額三拾圓以内ノ備品及消耗品ノ購入  
七、小使ノ任免  
八、別段ノ規定ニ依リ若クハ特ニ命セラレタル事項

1011

第九條 器具機械、其他ノ備品消耗品ノ購入ヲ要スル場合ニ於テ其ノ價格前條第六號ノ專行範圍ヲ超過スルモノハ當業者三名以上ヨリ見積書ヲ徴シ之ヲ添附シ本廳ノ承認ヲ受クヘシ

第十條 港務所ノ休暇及執務時間左ノ通トス

但シ必要アルトキハ執務時間外ト雖執務スヘキモノトス

一、休 暇

祭日、祝日、第一日曜及一月二日、十二月三十一日

一、執 務

自四月一日 自午前七時三十分 (九時間三十分)  
至九月十五日 至午後五時

自九月十六日 自午前八時 (八時間三十分)  
至十月三十一日 至午後四時三十分

自十一月一日 自午前八時三十分 (七時間三十分)  
至三月三十一日 至午後四時

所員ハ前項第一號休暇ノ外事務ニ支障ナキ限り一箇年中二十日以内ニ於テ本廳ノ承認ヲ得テ休暇ヲ爲スコトヲ得

第十一條 所長ハ所務ノ處理及取締ノ爲當宿直員ヲ置クヘシ

十二條 港務所ニハ左ノ簿冊ヲ備ヘ事務ノ整理ヲ爲スヘシ

一、所員名簿

一、出勤簿

一、日誌

一、出張命令簿

一、豫算整理簿

一、文書整理簿

一、郵便切手仕拂簿

一、備品臺帳

一、消耗品受拂簿

一、上屋岸壁及浮標使用許可書綴

一、例規綴

一、統計綴

一、報告綴

一、往復綴

一、雜書綴

一、其他必要ナル諸帳簿

第十三條 天災事變ニ際シテハ所長ハ臨機ノ措置ヲ爲シ其ノ顛末ヲ報告スヘシ

前項ノ場合被害アリタルトキハ速ニ調査シ第八號様式ニ依リ報告スヘシ

第十四條 所長ハ左ニ掲クル事項ヲ遲滞ナク報告スヘシ

- 一、小使水夫常備夫ヲ命免シタルトキ(即報)
- 一、所員ノ縣内出張ヲ命シタルトキ(即報)
- 一、上屋、岸壁浮標使用ノ狀況(月報翌月十日限り) 九號様式
- 一、出入船舶ノ狀況 (全) 上) 十號様式
- 一、輪移出入貨物ノ狀況 (全) 上) 十一號様式
- 一、其他所長ニ於テ必要ト認ムル事項

昭和二年三月一日印刷  
昭和二年四月五日發行

↓(非賣品)↑

新潟縣

# 新潟港務所

兼發行  
編輯者

新潟市古町通り十番町二六六番地

印刷者 吉野松次郎

印刷所 吉野印刷所

新潟市古町通り十番町二六六番地

Very faint vertical text columns, likely bleed-through from the reverse side of the page. The text is illegible due to fading.



Very faint vertical text columns, likely bleed-through from the reverse side of the page. The text is illegible due to fading.

營業科目

船舶碇繫場業、倉庫業  
地方鐵道業、牧畜業

新潟市沼垂（山之下）



新潟臨港株式會社

電話本社 五四九番山之下驛一〇六八番  
五五〇番埠頭事務所四七九番

各種理想的敷地提供

- 一、水深廿尺ノ繫船岸壁ト鐵道線路トヲ有スル最モ便利ナル 貯炭場ト 倉庫 敷地
  - 二、水深六尺ノ運河ト鐵道線路トニヨリ運搬至便ナル 工場用地ト 水陸貯木場
  - 三、十間巾道路ニ沿ヒタル 商店向敷地ト 事務所向敷地
  - 四、高燥ニシテ眺望佳絕ナル 住宅向敷地
  - 五、常綠滴ル松林ノ閑寂ナル 別莊好適地
- 東西新潟連絡船 一日二十五回ヅ、定時往復ヲ爲シ交通至便

海陸運送取扱業、倉庫業  
鐵道省納炭荷役一手取扱

新潟臨港鐵道山之下驛



新潟荷役株式會社

電話 二八八九番  
二、六八九番

本社前岸壁ニハ參千噸級ノ汽船ヲ繫留シ特殊ノ機械設備ニ  
ヨリ直チニ船車連絡輸送ノ便有之候



營業科目

船舶元扱業、海運及陸送、石炭販賣業  
 船曳船業、荷役業、保險及代理業



新潟運送船株式會社

船部

新潟市緑町 電話一〇二・一三三・一三六番  
 設電零號(ハシケ)

- 一、船及曳船汽船ニ關スル業務
- 一、三菱特約石炭ノ販賣ニ關スル業務
- 一、其他一般運送請負ステベニ關スル業務

回漕部

新潟市下大川前七 電話一三三・七六五・一六一六番  
 設電零號(ウンソ)

- 一、船舶元扱ニ關スル一切ノ事務

元扱船々主ノ一部 (イロハ順)

- 一、輸出輸入並ニ荷捌ニ關スル一切ノ業務
- 一、日本海上、三菱海上火災、扶桑海上火災、橫濱火災海上朝鮮火災海上各保險會社ノ代理事務一切

犬上郵船	函館海運	林邦汽船	日神海運
北西汽船	北陸商船	東邦汽船	千島商船
大西汽船	笠原商船	川崎汽船	金尾商船
太洋汽船	大連汽船	直江津商船	村尾汽船
山崎汽船	藤山汽船	國際汽船	吾妻汽船
荒田汽船	澤口汽船	木村汽船	北日本汽船
極東海運	霧島組	島谷汽船	其他

陸送部

新潟市沼垂驛前 鐵道省公認運送店  
 電話 四六二番  
 一、海陸連絡、接續貨物ノ取扱並ニ陸送ニ關スル一切ノ業務

荷捌所

新潟市船場町一丁目 電話(連) 一六一六番  
 新潟市大濱川岸 電話 一二六番  
 新潟市下大川前六 電話 二一二番

現場詰所

新潟市入船町三丁目三七〇四番地

# 三 鍵富本店船舶部

電話 一〇七七番  
園 八七二番  
六一四番

新潟市入船町三丁目三七〇四番地



# 新潟タグボート株式会社

電話一〇七七番園八七二番

昭和九

總噸數七〇噸九九

專務取締役	村田三郎
取締役	小野塚喜三郎
取締役	小澤七三郎
取締役	田邊勝太郎
監查役	齋藤庫四郎
監查役	山崎修平

神戶川崎汽船株式會社代理店  
 神戶川崎汽船株式會社代理店  
 富山北陸汽船株式會社代理店  
 新潟佐渡夷間每日定期往復航

新潟市下大川前通五之町 電話二〇二番九〇九番



# 新潟汽船株式會社

## 營業種目

運送業	運送取扱業	取締役社長	齋藤庫四郎
代辨業	物品販賣業	取締役	齋藤喜十郎
倉庫業	船舶貸借	取締役	田代三吉
		取締役	小川種太郎
		取締役支配人	福山忠保
		監査役	內藤權兵衛
		監査役	小澤七三郎

日本郵船株式會社代理店  
 近海郵船株式會社代理店  
 岡崎汽船株式會社代理店  
 前佐渡汽船株式會社代理店  
 東京海上火災保險株式會社代理店  
 明治火災保險株式會社代理店  
 愛國生命保險株式會社代理店  
 石炭、コークス、火山灰販賣業  
 磐城セメント株式會社特約販賣店  
 海陸運送並ニ商品委託販賣業

新潟市下大川前通六ノ丁



合資會社

# 濱商會

電話一三九番  
 振替金澤三五九二番

沼新  
垂瀉

兩驛公認運送組合員

加	丸	高助運送店	通	丸	勢一運送店	同	帝運株式會社新潟支店	三	共立運送店	小	陸送部
---	---	-------	---	---	-------	---	------------	---	-------	---	-----

工	サ	平	飯塚運送店	山	東新商會運送部	日	日本運送店	運	新潟運輸株式會社
---	---	---	-------	---	---------	---	-------	---	----------